

若竹のようにしなやかに

君たちの輝く姿は

新生 〴〵ふくしま〴〵 に向かう象徴だ

「若竹のようにしなやかに」

私は、この言葉が好きだ。君たちにも、この若竹のように、大空を目指して、まっすぐに伸びていってほしいと願っている。

雪の重みに耐えかねて、深々と頭を垂れている若竹。

折れはせぬかと心配になった頃、雪は自分の重みで落ち、若竹はすくっと頭をもたげる。

しなやかな心があれば、じっと耐えながら自分を活かす方法を探しあてるもの。

今回の「福島市民憲章作文コンクール」には、例年にもまして、市内十四校より一〇四点もの作品が寄せられた。

その一つ一つの作品から、〴〵ふるさと福島〴〵の「人・自然・歴史・文化」を愛し、自信と誇りを持って生活していこうとする中学生の息づかいが感じられたことを大変うれしく思う。

家族や友人、地域の人々との関わりの中で、自他を見つめ、視野を広げながら、凛とした姿で福島の未来を切り拓いていこうとしている姿が頼もしかった。

震災からまもなく四年。

私たち 〴〵ふるさと福島〴〵 がおかれている状況は、まだ冷たく、厳しい冬の季節と言えるかもしれない。

しかし、寒さに耐えたものには凛とした強さが宿るといふ。

ふきのとうの苦みや雪割草の若紫が五感に染みるのは、越冬の喜びと響き合うからなのだろう。

この作文をとおして確信した。

十年後、二十年後、福島の復旧・復興の柱となるのは、まちがいたく君たちの若い力だ。

君たちの輝く姿は、新生 〴〵ふくしま〴〵 に向かう象徴だ。

大切なこと、それは、今、どの位置にいるのではなく、どちらの方向を向いているかに意味があるのだ。

たとえ位置は変わらなくても、向きを変えれば生き方は大きく変わるものだ。

そのためにも、君たちには今、しっかりと学んでほしい。

平成二十七年一月

福島市民憲章推進協議会委員

福島市中学校長会研究部会長

佐藤和彦

目次

◇金賞

優しい心

福島市立松陵中学校

渡辺

南……………1

◇銀賞

福島市民憲章「水」編
果物の町『福島』

福島市立北信中学校
福島市立北信中学校

寅磐

敦紀……………2
栗田息吹……………3

◇銅賞

教育と私達の未来
僕の好きな福島市
わたしのふるさと福島

福島市立岳陽中学校
福島市立蓬萊中学校
福島市立北信中学校

佐藤

空怜彩……………4
丹治亨允……………5
清野真未……………6

◇佳作

輝く福島を取り戻すために
これからの福島市のまちづくり
みどりのまち、福島市
環境を大切に笑顔があふれる町づくり
私達の福島市
あたたかい福島市を目指して
この福島で守るべきもの
うつくしい福島に
緑のきれいな町

福島市立福島第二中学校
福島市立福島第二中学校
福島市立福島第三中学校
福島市立福島第三中学校
福島市立福島第三中学校
福島市立岳陽中学校
福島市立岳陽中学校
福島市立福島第四中学校
福島市立西信中学校

松本

宇蘭……………7
奥田百香……………8
長橋美晴……………9
一條日和……………10
新妻絢実……………11
本多美久……………12
岡崎美結……………13
板倉はづき……………14
加藤咲月……………15

愛情と希望あふれるまちへ
 福島をきれいに
 守れ!! 福島市を!!
 きまわりを守るといふ努力
 福島市のためにできること
 より良い福島へ
 親切で愛情あふれる町づくり
 あいさつの力
 みんなのための安全なまち
 福島市民憲章について
 快適なまちにするためには
 福島市民憲章と福島市民
 空も水もきれいな町をつくるには
 福島市民憲章
 福島市民憲章を読んで
 市民憲章と僕の願いや未来
 空も水もきれいなまちをつくりましょう
 福島市民として
 福島市民憲章について
 きれいなまちをめざして
 豊かな自然と美しいまち
 空も水もきれいなまちを目指して
 自分にできることから

福島市立福島第二中学校	高橋美羽	16
福島市立福島第三中学校	菊地那月	17
福島市立福島第三中学校	松本琴美	18
福島市立福島第三中学校	齋藤麻衣	19
福島市立福島第三中学校	成田実桜	20
福島市立福島第三中学校	高木心愛	21
福島市立福島第三中学校	齋藤輝	22
福島市立福島第三中学校	遠藤葉奈子	23
福島市立福島第四中学校	小野涼太郎	24
福島市立福島第四中学校	熊田統弥	25
福島市立福島第四中学校	本多勢菜	26
福島市立福島第四中学校	鈴木木桃花	27
福島市立福島第四中学校	飛弾香乃	28
福島市立福島第四中学校	金丸岬	29
福島市立福島第四中学校	武田温人	30
福島市立福島第四中学校	蓬田純平	31
福島市立福島第四中学校	菅井夏生	32
福島市立福島第四中学校	渡部水悠	33
福島市立福島第四中学校	佐藤智潤	34
福島市立福島第四中学校	蒲倉美羽	35
福島市立岳陽中学校	八巻延昌	36
福島市立岳陽中学校	小野田優芽子	37
福島市立岳陽中学校	蛭田優芽子	38

空も水も
 思いやりにあふれた福島市
 きれいな街にするために
 空も水もきれいな緑の町をつくりましょう
 子供とお年よりの住み良い町
 子どもが元気な町を作ろう
 希望の町、福島
 蓬萊から広げていく
 自然豊かな蓬萊町
 私達の『蓬萊町』
 私達の明るい町福島
 このまちのためにできること
 私の蓬萊町
 緑豊かなまちづくりのために
 きまりを守る私たちの街
 よりよい福島を作るためには
 安全で健康なまちづくり
 空気も水もきれいな町をつくるために
 人を守るまちにしたい
 福島市民として
 『福島市民憲章』について考えたこと
 安全な町づくりのために
 私の誇り、福島市

福島市立岳陽中学校	青柳太樹	39
福島市立岳陽中学校	佐久間妃菜	40
福島市立渡利中学校	荒 凧	41
福島市立渡利中学校	八 巻 貴 郁	42
福島市立渡利中学校	庭 山 聖 矢	43
福島市立渡利中学校	佐 藤 陽 太	44
福島市立蓬萊中学校	二階堂 隼	45
福島市立蓬萊中学校	小 西 楓	46
福島市立蓬萊中学校	瀧 川 来 夏	47
福島市立蓬萊中学校	安 田 美 羽	48
福島市立蓬萊中学校	山 根 茉 菜	49
福島市立蓬萊中学校	関 根 侑 里 乃	50
福島市立蓬萊中学校	永 伝 ひ なた	51
福島市立蓬萊中学校	山 崎 優 子	52
福島市立北信中学校	大 関 愛 花	53
福島市立北信中学校	古 川 真 秀	54
福島市立北信中学校	長 谷 川 宥 太	55
福島市立北信中学校	渡 邊 拓 斗	56
福島市立北信中学校	渡 邊 亮 介	57
福島市立北信中学校	池 田 光 里	58
福島市立北信中学校	宍 戸 夢 都	59
福島市立西信中学校	山 口 啓 太	60
福島市立西信中学校	阿 部 葵	61

安全に暮らせる良い町のために
 福島環境について
 空も水もきれいな福島市
 福島のきれいな自然
 みどりのきれいな町を目指して
 安全で安心な町を目指して
 安全で健康なまちを目指して
 みどりのまちは心から
 親切で愛情のある福島へ
 安全で健康な福島市にしよう
 笑顔あふれる福島へ
 福島市民憲章を広く伝えよう
 挨拶から笑顔あふれる福島をつくろう
 福島市の希望
 自然も心も美しいまち
 自然の多い町
 自然豊かな福島市
 福島の自然
 安全で楽しいまちに
 福島市民憲章について
 福島市民憲章について
 市民憲章を学んで
 福島市民憲章について

福島市立西信中学校	佐久間	斐葉	82
福島市立西信中学校	加藤	弥	83
福島市立西信中学校	宍戸	真	84
福島市立西信中学校	佐々木	ゆ	85
福島市立西信中学校	阿部	裕斗	86
福島市立西信中学校	二階堂	未夢	87
福島市立西信中学校	半澤	絵里夏	88
福島市立松陵中学校	細野	花莉	89
福島市立松陵中学校	菅野	由莉奈	90
福島市立信夫中学校	佐藤	未優	91
福島市立信夫中学校	佐藤	怜	92
福島市立信夫中学校	山本	愛莉	93
福島市立信夫中学校	木村	涼花	94
福島市立信夫中学校	菊地	希紋	95
福島市立信夫中学校	石田	麻音	96
福島市立信夫中学校	加藤	洸志	97
福島市立信夫中学校	丹治	朱音	98
福島市立信夫中学校	斉藤	翔瑠	99
福島市立信夫中学校	阿部	百々花	100
福島市立野田中学校	伊達	沙弥	101
福島市立野田中学校	藤田	実佑	102
福島市立野田中学校	阿部	美空	103
福島市立野田中学校	志賀	美咲	104

福島市民憲章を聞いて
 市民憲章を知り思ったこと
 『福島市民憲章』とは
 私にできること
 みんなで交通事故をなくそう
 親切な福島をつくるために
 安心な町をつくろう
 安全で健康なまちをつくろう
 『福島市民憲章』についての疑問
 きれいなまちづくり
 きれいなまちにするには
 福島市民憲章と私
 思いやりのある安全なまちづくりへ
 安全、安心、健康のまち 福島市
 人に親切にする
 親切の裏にあるもの
 笑顔のあいさつ
 よりよい福島をつくるために
 住みよいまちにするために
 自然豊かな福島市

福島市立野田中学校	佐藤	絢	85
福島市立野田中学校	外山	菜月	86
福島市立野田中学校	佐藤	朱理	87
福島市立野田中学校	土田	真帆	88
福島市立野田中学校	吉野	妃奈恵	89
福島市立野田中学校	丹治	毅彦	90
福島市立飯野中学校	佐々木	凛	91
福島市立飯野中学校	阿曾	温生	92
福島市立飯野中学校	菅野	隆之祐	93
福島市立飯野中学校	加藤	百音	94
福島市立飯野中学校	笹谷	侑以	95
福島市立飯野中学校	嶋原	結羽	96
福島市立飯野中学校	本田	彩	97
福島市立飯野中学校	川瀬	暁音	98
福島市立飯野中学校	片野	裕貴	99
福島市立飯野中学校	阿曾	亨平	100
桜の聖母学院中学校	林	美沙子	101
桜の聖母学院中学校	清水	亜也花	102
福島成蹊中学校	富田	紗耶	103
福島成蹊中学校	三浦	英太郎	104

金賞

「優しい心」

福島市立松陵中学校

渡辺 南

私は、福島市民憲章があることを初めて知り、よりよい福島をつくるために、もっと多くの人にこの憲章を知ってほしいと思いました。五つの憲章の中で、私の心にひびいたのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。それには、次のような理由があります。

それは、未だに震災や原発事故で、不安や問題を抱えている福島の人々に、人と人とのあたたかい心のつながりが、最も大切なのではないかと思つたからです。

このあたたかい心の輪をつなげていくには、「助け合い」が必要です。

今年の二月、福島中が雪で埋めつくされてしまうほどの大雪が降りました。多くの積雪で、交通機関がまひし、車や電車が動けなくなるなど、混乱状態となりました。そんな中、スコップを持ち、道路の雪かき

をする近所のおじいさんやおばあさん、父母の姿が目に入りました。私はすぐに、スキーウェアに着替え、雪かきの手伝いをしに、外に出ました。近所の人たちは、

「大丈夫ですか。」

「少し休んできてください。」

「温かいお茶どうですか。」

「お菓子どうぞ。」

と、声をかけ合い、助け合っていました。雪かきは想像以上に重労働で、皆、疲れているのに、そのような状況でも、相手をおいやっているのです。私は、(人間つてあつたかいなあ。)と思いました。

また、去年、私は小学校で合唱部に所属していました。その合唱部で、地域の老人介護施設で歌つたことがありました。お年寄りの方々は、楽しそうに、手拍子をしてくれたり、涙を流しながら一緒に歌ってくれたりした人もいました。私の歌を、いつも喜んで聴いてくれていた祖父が少し前に亡くなったこともあり、とても胸が熱くなりました。聴いているお年寄りの方々だけでなく、歌っている自分まで元気づけられた、素晴らしい経験となりました。

私は、福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」を実現させるカギは、一人一人が「優しい心」を持つことだと思えます。「優しい心」は、人を笑顔にすることができます。例えば、元氣のない人や、困っている人を見かけたら、優しく声をかけるように心がけてみてはどうでしょうか。その一言で、その人の気持ちがあつても、明るくなるかもしれません。だから、心の目で相手を見つめるあたたかい愛情が大切だと思います。

「親切で愛情あふれるまち」を、実現することができれば、福島の復興にもつながり、笑顔あふれる、すてきなまちになっていくことと思います。

銀賞

「福島市民憲章『水』編」

福島市立北信中学校

寅 磐 敦 紀

三年前の原発事故直後、断水で水道水を普通に使えない時期があり、多くの人がコップ一杯の水を蛇口から当たり前に飲めることの大切さに気付いたと思います。僕の家でもペットボトルの水を大切に使い、川の水を汲んでトイレで利用するなどの努力をしました。しかし現在、僕は今もあの気持ちで生活を送っているでしょうか。あの時のように「一杯」を大切に思っ

て生活しているでしょうか。六月の水道週間に摺上浄水場一般公開があり、ぜひ見学をしてみたいと、家族で出かけました。僕の兄や姉は小学校の学習で浄水場の施設見学をしていましたが、僕が小学校中学年の時は原発事故後だった為、浄水場見学が実施されなかったからです。茂庭ダムから取り込まれた水が何時間もかけて何段階もの処理作業を経て僕達が手に

するコップの水になるまでを説明していただきました。海外では飲料水はペットボトルで買うものという考えがある一方で、日本では自由に蛇口からおいしい水を飲めることの贅沢さを僕は改めて感じました。

おいしい水には、無色・無味・無臭・適度なミネラル等の条件があるそうです。確かに口元に持つて行った時に錆び臭かったりして、飲むのをためらった経験があります。水道管の劣化などが原因にあるのだそうです。しかしその中で、僕達の飲んでいる摺上川の水は、全国レベルでも良い良質な水だと父が話してくれました。水源の水質が良質なのも要因になるのでしょうか。僕は何だか誇らしく感じました。

しかし、そういった、水源の水質管理は誰がするのでしょうか。これまで僕は、夏休みの自由研究で河川の水質について調査し、生活排水が水質に大きく影響することを知りました。水源の水質管理が水を汚さない第一歩です。その為には、生ごみの投棄をしないのは勿論のこと、家庭で使用する油や洗剤は最低限にする等、僕達ができることは沢山あります。水の浄化には多く

の電力は必要なので水の無駄遣いをしないことは節電にも通じています。

今回改めて、福島市民憲章を読んでみて、多くの市民にこの福島市民憲章を知ってもらいたいと思いました。憲章に盛り込まれている自然・文化・愛情・規則・健康の一つ一つの項目はじつは繋がっていて、当たり前の事です。でもそんな当たり前の小さな積み重ねによって、現在の様に豊かな自然に囲まれた福島市があることを理解することが必要だと思えます。原発事故以降は、大きな課題も残されていますが、これからも福島のきれいな水や自然を引き継ぎ守っていけるように、町で、山で、湖や川で、規則を守ることから実行していくことが大切なのだと思います。

銀賞

「果物の町『福島』」

福島市立北信中学校

栗田 息吹

ほくの住んでいるアパートは果樹園に囲まれています。さくらんぼ、ブルーベリー、ぶどう、梨、りんご、季節ごとに様々な果物が味わえるので、とても楽しみにしています。今の季節はちょうど桃が旬で、今朝も食べました。みずみずしくて甘くていくらでも食べられそうな気がします。

そして、家のすぐ前にあるさくらんぼ畑には、忘れられない思い出があります。それはほくが小学生だったころの出来事です。そろそろさくらんぼのシーズンは終わりに近づいていました。登校班でいつものように果樹園を通りかかったときのことです。朝から果樹園の手入れをしていたおじさんが

「今日学校が終わったら、さくらんぼを食べに来ないかい。」
と声をかけてくれました。うれしくて、学

校から帰ってすぐにみんなでおじさんの果樹園に行きました。

「もう終わりだから好きなだけ食べていいよ。」

と言ってくれて、ほくたちはおなかいっぱいさくらんぼをごちそうになりました。おじさんのやさしさとさくらんぼの甘い味は、忘れられない大切な思い出です。

福島市民憲章の中には「空も水もきれいなまちをつくりましょう」「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」とあります。ほくはさくらんぼの季節になると、あのやさしい果樹園のおじさんを思い出し、自分も親切な人になりたいと強く思います。周りの人の立場になって考えたり行動したりできる人になりたいです。皆がそういう気持ちで生活できたら、もっともつとやさしくて愛情あふれる町になると思います。

そして、おいしい果物は福島が自まんできる宝物です。どうしておいしいのかなと考えると、やっぱり福島の空気と水がおいしいからだと思います。震災があつてからは風評被害で色々言われていることも知っています。でもやっぱり福島の果物は最高

においしいです。他の地域の人たちにもたくさん食べてもらいたいと思います。そのためにもまずは自分のできることをしっかりとやろうと思います。食べ残しはしない、食器についた油污れはふきとってから洗うなど小さいことかもしれないけれど水を汚さない努力をしていきたいです。そして、これから先もずっと

「おいしい果物は福島が自まんです。」
と胸を張って言いたいと思います。

銅賞

「教育と私達の未来」

福島市立岳陽中学校

佐藤 空怜彩

私達が住んでいる福島市では、今回のテーマの「福島市民憲章」にそったさまざまな活動が行われています。その、福島市民憲章の五つの中の、教育と文化を尊び希望にあふれるまちづくりについて、どのようなことを行っているのかを紹介します。

私が、身の回りで教育に関することについて活動している所で真っ先に思いついたのは、こむこむという施設です。こむこむとは、主に子どもが楽しみながら学び、夢を育むことのできる教育文化複合施設です。こむこむ付近の学校や保育園などは行事で来ることが多いと思います。私に通っていた学校からも近かったので低学年のころから高学年になってからでも恒例行事のように行っていました。こむこむ内で一番好きなのは、プラネタリウムです。一・二年生だったころ、私は初めて見ました。初

めて見たときは、何で星が建物の中で見えるのかな、などという疑問や星が動いている映像を見て新しい感覚で気持ちちはね上がるようでした。太陽の動きや月の動き、季節によつての星座などを見ながらナレーションの説明付きで楽しく学ぶことができます。それに、無料で見れるというのも魅力の一つだと思います。

ほかにも、二万八千冊を超える児童書を備えるライブラリーや化学実験ショーなどが開かれます。私は勉強するときは、たまにこむこむに來ています。静かで快適な空間がいつもあるので集中して取り組むことができます。

このように、こむこむでは子どもを中心に夢を育むことのできる、福島市自慢の教育施設です。

そのほかに、福島市民家園は福島歴史を知ることができる所だと思います。その民家園は、江戸時代から明治時代中期までの会津を再現した所で、歴史や文化を存分に学ぶことができます。私は行ったことがあり、いろいろがあったり、ドアがない民家などがありました。昔のトイレは、ただ穴

をほったただけだったのですごく衝撃的で今でも心に残っています。このように福島市民家園では会津を中心とした、はるか昔の文化を目で見て学ぶことができます。

紹介した所以外にも、文化を知る活動や楽しく学べる所がたくさんあります。県立図書館や美術館、音楽堂もその一つです。

そのような教育・文化施設に行つて損はないと思います。何かは心に残るはずで、心に残つたことは、ふいに思い出して役に立ちます。私は社会の授業の時、昔のアイロンは何を使つて温めているのかと聞かれ、炭だと分かりました。あまり覚えていませんが民家園で教えてもらったような気がします。

教育や文化施設は、自分の未来に使えることがつまっているのです、その活動を続ければ、希望がある輝く町ができると私は思いました。

銅賞

「僕の好きな福島市」

福島市立蓬萊中学校

丹 治 亨 允

僕はこの作文を書くまで「福島市民憲章」について全く知りませんでした。福島市民としてとても恥ずかしいことですが、「僕のような人が他にもたくさんいるのではないのかな」と思います。

内容としては全て特別に頑張らなければならぬようなものではなく、普段の生活の中で自然にできることだと思えます。しかし三年前の原発事故以来、あたりまえだと思っていたことがあたりまえでないということも知りました。

「空も水もきれいで、希望に輝いていて、きまわりを守り、力を合わせて楽しく働くことができ、全ての市民が安全で健康でくらするまちをつくろう。」

本当にもっともなことだと思えます。でも現実はこのように難しいことを、これからどのようにしていけば、以前のような福島

になれるか、と考えるととても悲しくなり
ます。

身近な小さなことから見つめなおすために僕は自分の住んでいる蓬萊町について考えてみました。蓬萊町は昔からの文化がたくさんあり、学習センター等ではその文化にふれる行事もたくさんあります。他の地区にも同じようにたくさんさんの文化があると思います。それぞれ自分の住んでいる所以外のことは知らないことも多いので、交流を深め、それぞれの地区で行われていることの中でお互いに良いことを広めていけたらすばらしいと思いました。そして小さい子供からお年よりまで楽しめるような環境作りが必要だと思いました。

市民憲章に書かれていることの中で、「空も水もきれいなみどりのまち」というものがあります。僕は今、部活動でソフトテニスをしている時や、水泳で背泳ぎをしている時、「きれいな空だなあ」と思う時があります。そんな空がいつでも身近にある福島、そして僕の祖父母の家は飯坂にあり、水道の蛇口に汗をかくほど夏でも水がつめたく、透明でとてもおいしい水です。そう

いうことがあたりまえであってほしいと僕は心から願っています。

そしてこの福島を市民だけでなく原発以外のことで全国のたくさんの人々に知られ「行ってみたいなあ」と思ってもらえたらとてもうれしいと思いました。

僕はそんな福島が大好きです。

銅賞

「わたしのふるさと福島」

福島市立北信中学校

清野 真未

福島市民憲章は、市民全ての幸せと郷土福島の発展を願い、住みよい町づくりを進めるために、四十年も前に制定されたそうです。それ以来ずっと親しまれてきたものですが、今でも大切なことばかりが書かれています。

私たちは、三年前に大震災を経験し、それまで当たり前だと思っていたことがどれも当たり前でなかったのだというのを強く感じました。今でも、放射線の不安などがあります。すてきなところがたくさんある福島市をもっと見直し、ほこりたいと思います。

私の家の窓からは、市のシンボルの信夫山が目の前に見えます。西には吾妻山がそびえ、見るたびにとてもすがすがしい気持ちになります。私は特に春の雪うさが大好きです。近くには、松川と阿武隈川が流

れ、サイクリングロードでは小鳥や虫などの声を聞いたり草花を見たりして自然を感じることができません。冬には白鳥の姿を見ることがあります。たくさん観光客が訪れる美しい花見山もあるし、フルーツラインの方では、サクランボや桃、梨、りんごなど、季節ごとのおいしい物を味わうことができます。ちょっと考えただけでもすばらしい福島の姿をたくさん見つけることができます。これらはみんなが大切に育ててきたものです。こういう福島のよさをもっとアピールしたり、大切に守っていかうと一人一人が取り組んでいくことで、市民憲章の中の「空も水もきれいで、緑あふれるまちです」と自慢できるような福島をつくっていくことができるのだと思います。

また、もう一つすばらしいと感じるのは人々の地域を思う心と温かい心です。私は、小さい頃から地域の人にお祭りの太鼓を習ってきました。たくさん地域の人にお世話になって古くから伝わる祭りばやしを覚え、秋祭りには山車の上で太鼓をたたいて地域を回りました。みんなが伝統文化を大

切にしているところが自慢できるところです。そして、登下校中には、地域の人に声をかけられたり、あいさつを交わしたりしています。あいさつをすると、とても嬉しい気持ちになります。みんな、自分たちの地域とそこに住む人々を大切に思っているのです。だから、「親切で愛情あふれるまち」だなあと思います。そういうよさもどんどんアピールし、広げていけたらいいと思います。

私たちのふるさとが、これからも活気あふれる笑顔あふれる福島になるために、みんなが福島を好きと思う気持ちを持ち、市民憲章にあるようなことを身近なことから実行していくことが大切だと思います。助け合う気持ちを忘れずに、地域の一員としてできることを考え、それを実行していきたいと思えます。私たち一人一人の努力で「空も水もきれいなまち」「親切で愛情あふれるまち」をつくり、いつまでも残していきたいと思えます。

佳作

「輝く福島を取り戻すために」

福島市立福島第二中学校

松本 宇蘭

私は、東日本大震災後の福島の復興について考えました。

このコンクールの募集要項に書いてあった趣旨を読んで、「市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるため」というところで一番に考えたことが、あの忘れられない東日本大震災でした。あの日から三年がたって今の福島は徐々に復旧しつつあり「明るい町」「住みよい町」になろうと頑張っていると私は思います。ですが、まだ問題があると思います。それは、あの大きな地震があつてから、福島は全国テレビにでるようになり有名になりました。私はそのことについて心の奥がモヤモヤしていました。福島は放射線が高いかもしれない、被害をたくさん受けて危ない所だつてあるかもしれない、だけど福島に

はそれを超える良いところがたくさんある、それを私達福島市民が伝えていかなければいけないと私は思います。例えば「福島市は温泉の街でとても落ち着く場所」私達の暮らしているところは、山に囲まれた自然あふれる素敵な所」など、たくさん良さがこの福島にはあります。私達はこの良さをいかして素敵な環境を築いていかなければなりません。小さなことから環境をよりよくすることは出来ると私は思います。

今の福島は、多くの人に支えてもらい、助けてもらい、復興に向けて一步一步進んでいます。私にも役に立てることがあると思います。小さなことからしか出来ないけど復興のためにたくさんの方に取組もうと改めて思いました。それで私は、なにかのボランティア活動に参加し、もっと福島の皆に素敵な笑顔が生まれるように頑張りたいと思いました。中学生の私にとつて、難しいボランティア活動はきびしいかもしれないけれど、簡単なことから少しずつ取組んでいけたらいいなと心から思います。友達や家族、親戚の人達などに声を

かけ、たくさんの人と一緒に協力しあいながら、「日本で一番素敵な所は福島」と言ってもらえるようになれたらいいなと強く思います。そしてなにより、福島の皆さんが健康でいてくれること、元気であること、それが復興につながると思います。少しずつでいい、それを一人一人が積み重ねていけば私達の願いはきっと叶うはずだと私は信じています。皆の力、心をも一つにして明るい町をつくりあげていきましょう。私はこれから、福島市憲章のことを考えながら復興に向けて取組んでいきます。

佳作

「これからの福島市のまちづくり」

福島市立福島第二中学校

奥田 百香

私は福島生まれ、福島育ちです。しかし、震災後福島を二年半ほど離れて生活していた経験があります。今まで何げなく、ごく普通に送っていた生活から離れてみると見えてくるものが多くあります。

一つ目は、福島の人「親切」だということ。どうということかという、例えば登校の時に横断歩道などで止まってくれる車がほとんどというようなことです。だからきつと、福島の人の性格はおだやかで、優しいのだと思いました。

二つ目は、福島の空は「青い」ということです。福島はほぼ毎日晴れていてとても清々しく、心も晴れ晴れとします。もしかすると、天気と心はつながっているのかもしれない。なぜ私がそう思うのかというと、曇りの日は気分がなんとなくどんよりとして、やる気もあまり出ないと思います。

ですが晴れの日だと、なぜか気分も良くなり、やる気も出てくる感じがするからです。福島の人におおらかな人が多いのも、この空が青いからだと思います。

三つ目は、おじいちゃん、おばあちゃんの大切さです。おばあちゃんっ子だった私は小さい時、いつも散歩に連れて行ってもらったり、遊んでもらったりしていて、離れて生活するということは、まったく予想していませんでした。だから、毎日祖母の家に行き、楽しい時間を過ごすということができなくなるのがどんなにさみしいかが分かりました。でも、だからこそ大切にしないではいけない、感謝しなくてはいけない、と思えるようになりました。

福島で生活していると、食べ物や外出など、どうしても放射能の問題が気になってしまいます。でもこれは、さけては通れないことだと思えます。だからこそ、私達のように若い世代の人々が互いに協力し、力を合わせておじいちゃんやおばあちゃん達が大切にしてきた自然豊かな福島を守って行かなくてはいけないのだと思います。このことを実行するためには、まず目の前の

身近な一つ一つの事から取り組んで行きたいと思えます。そして、私達の次の世代、そのまた次の世代へと「自慢のできる福島」を受けついでいき、福島市民憲章にあるような、どの市町村、どの都道府県から見てもあこがれられるようなまちづくりをしていけたらいいと思います。

佳作

「みどりのまち、福島市」

福島市立福島第三中学校

長橋 美晴

私は、福島市民憲章について全く知りませんでした。しかし、福島市民憲章の内容を知ったとき、とても素晴らしい事だと思いました。福島への思いがつまっていて、福島市をもっと良い所にしたいという気持ちが伝わってきました。

その中で、私が一番心に響いた文章は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という文です。福島市は吾妻山、あだたら山などの高い山に囲まれた緑豊かなところです。福島市の中央にある信夫山や桜で有名な花見山、二百三十九キロメートルにもわたる阿武隈川は福島市のシンボルだと思います。さらに、季節ごとにさまざまな鳥や虫たちが姿を見せます。春にはうぐいす、しじゅうから、夏にはかっこう、せみ、秋にはすす虫、こおろぎ、冬には白鳥など、私たちの心にいやしを与えてくれ

ます。このような鳥たちがいるのは、福島市の空気がきれいだからだと思います。私のおばあちゃんは大阪に住んでいるので、大阪から帰ってきた時の空気透明度が違うことがよくわかります。車からの排気ガスの排出問題については、日本だけでなく世界に広めていかなければいけません。

そして、私が一番好きな福島の魅力は空です。とても広くて、きれいな青色をしているので、すいこまれそうになります。都会などのビルが建ち並んでいる所では見ることがむずかしい景色です。

このように、福島市には多くの自然があり、すばらしい場所です。しかし、その反面解決しなければいけない所もあります。そこで、私は次のことを提案します。

一つ目は、ゴミのポイ捨てです。福島駅の方では、あき缶やたばこなどポイ捨てが目立ち、通行者に迷惑です。ですから、ポスターやチラシをつくるなどして少しでもポイ捨てを減らしていきたいです。さらに、「ポイ捨ての日」をつくり、その日は絶対にポイ捨てをしてはいけない、と呼びかけて、物はゴミ箱に捨てるという習慣をつけ

ていくのはどうでしょうか。

二つ目は、資源の無駄遣いです。これは世界全体での問題ですが、水の使いすぎや物を大切に扱わないなどのことが挙げられます。このことについては、身近な人からの声かけや、自分で使う範囲を決めて使うということが一番だと思います。小さなことが、福島未来に、日本の未来に、世界の未来につながっていきます。

私は福島が大好きです。自然も町も人も全部好きです。福島市民、みんなそうだと思います。だとしたら、福島をもっとよくなりたいという気持ちも同じだと思います。多くの人に福島市民憲章を知ってもらい、一人一人が心がけていきましょう。

佳作

「環境を大切に

笑顔があふれる町づくり」

福島市立福島第三中学校

一條 日和

私は、最近の福島市のまちを歩いていて、とてもよく、感じるがあります。それは、ゴミが道に捨ててあることが多いことです。例えば、タバコの吸いながら、ペットボトル、お弁当などが落ちています。このゴミを見て、笑顔があふれる人など、いないでしょう。私だったら、絶対、不愉快な気持ちになります。

だから、子どもからおとしよりまで気持ちよく歩ける道になるためには、まず、その現状をよく知り、目になっている私達からきれいにする活動を始めなくてはいけないと思います。その活動というのは、私が考えて思いついたことが三つあります。

一つ目は、回覧板にゴミを道に捨てないという呼びかけを書いて、意識を高めることです。これでしたら、紙一枚で各家庭に

回っていき、環境にも優しく、目が通しやすいと思います。実際に私のおばあちゃんに聞いてみたら、とても便利で見やすく、情報が伝わるからいいと言っていました。ですから、回覧板を活用することで、有効にゴミを捨てる人を減らせると思います。

そして、二つ目は、ポスターでの呼びかけです。まちに貼ってあるところをよく見かけますが、防災や交通安全ポスターが多く、道をきれいにしようなどのポスターは、あまり見かけません。小学校などから協力してもらって、ポスターをかいてもらい、よくゴミが多く捨ててある場所に貼るのが、いいと思います。そうすれば、ゴミを捨てようとした人は、ゴミ箱に捨てようと思え入れ替えてくれると思います。

三つ目は、特に重要なゴミ拾いのボランティアです。この活動で、道がきれいになることは間違いなしです。みんなで一緒に活動すれば、心もおだやかになると思います。私は、こういう活動に参加したことはないけれど、夏休み中の部活を体育館でやっている時、校長先生がゴミ拾いをしていくところを見ました。「この暑い中で、活

動するなんて、すごいな。さすが校長先生だな。」と尊敬しました。私も校長先生のようにゴミ拾いをしたいです。学校や地域で活動があったら、積極的に参加しようと思います。

私は、この三つのことをやるだけで、ゴミを捨てる人が減ると思います。道もきれいになって、さらに、環境がよくなれば、福島市のみんなの笑顔が、もっと増えて、空気も水もきれいな最高のまちになります。人々の心がおだやかだったら、とてもいいです。私は、こんな、もつと美しい福島市をみんなと協力して作っていきたいです。そして、笑顔のあふれる福島市にしたいです。

佳作

「私達の福島市」

福島市立福島第三中学校

新妻 絢実

福島市は、自然あふれるすてきなところ
です。しかし、三年半前に起きた「東日本
大震災」や「原子力発電所の事故」など
により、行ける場所や食べられる食品などに
制限ができました。このことなどにより、
福島の魅力が半減してしまったと思いま
す。

「福島」というと、原発事故や津波の被
害など、マイナスな部分に目を向けがちで
すが、福島のいいところ、プラスの部分
を私達の住む福島市から発信していきたい
私は思いました。

まず、福島市民憲章にある「空も水もき
れいなみどりのまちをつくりましょう。」
ということについて考えてみました。

福島の空は、燃やしたり、車から出たり
したけむりや排気ガスはあるけれど、きれ
いな空だと思えます。しかし、水はまだ心

配な面があると思います。東日本大震災の
直後には、水が止まってしまった家庭も多
く、すごく大変だったはずなのに、今はた
くさんの水をムダに使ってしまう時が多く
あります。また、原発事故の後、放射線
気にして水を購入し、料理や飲用水に使う
家庭もあるので、きれいな水とは言えない
部分もあると思います。そこで、私達に
できることは、水をムダ使いたくないことだ
と思いました。水と一緒に流す物、洗う物な
どは、拭くなどして使う水の量を減らせる
ようにしたいです。また、たくさんの方が
浄水場のしくみを知る機会があると良いと
思います。そうすることによって、水の大切
さを知り、水は大切に安全だということ
が分かってもらえると思います。

次に市民憲章の「子どもからおとしより
まで安全で健康なまちをつくりましょう。」
ということについて考えてみました。

今、少子高齢化は日本全体の問題です
が、そんな今こそ、子どもからおとしより
までの健康が大切になってきています。福
島は、放射線の影響で、自然がたくさんあ
るのに森や外などで、最近まで遊んだり体

を動かしたりできなかつた場所が多くあり
ました。そのため、運動不足の傾向にある
と思います。運動不足を解消するために私
達ができることは主に二つあると考えられ
ると思います。

一つ目は、歩く、自転車に乗るなど、簡
単にできることを活用することです。身近
な物を使って体を動かすことで、運動不足
解消に一步步近づけることができると思いま
す。

二つ目は、自然に触れるということ
です。自然の中で体を動かすと、きれいな空気、
自然の音や風などをそのまま感じることが
でき、清々しい気分になれると思います。
そんな自然の中で散歩をしたり走ったりし
てみると、きっと気持ち安らぎ、運動不
足も解消できると思います。

最後に、福島市民憲章を考える機会にな
り、より良い福島を目指していこうと思
いました。

佳作

「あたたかい福島市を目指して」

福島市立岳陽中学校

本多美久

私がこの作文を書くかと思ったのは先生に勧められたのともう一つ、私自身が福島市のあたたかいところを見つけてきたからです。

まず、「あたたかい」とはどんな意味なのでしょう。辞書を引いて調べてみると、「思いやりがある。いたわりの心がある」と書いてありました。「あたたかい」の意味を理解したところで私があたたかいと思った体験をこの作文を通して紹介します。

五月の中旬、私は電車に乗って四つ先の駅まで行きました。一つめの駅では人が少ししかいなかったの座っていました。二つめの駅で五〜七人のランドセルを背負った小学生が乗車しました。その駅ではたくさんの方が乗車したため立っている人がちらほらいました。小学生は全員座ることができず一人だけ立っている子がいました。

目的の駅まで二つはあったものの、ほんの十分程度だったので私は「席座つていいよ。」と言ってゆずりました。その子は「ありがとうございます。」とおじぎをして座りました。私が立って外をながめていると中学生の子が私に「どうぞ座って下さい。」とゆずってくれました。でも、「もうすぐ着くから大丈夫だよ。」と断りました。するとその子は「じゃあ私も立ってます。」と言ったのです。その子はどちらかが座るのは不公平だと言って二人で立てば公平だと考えたのです。私はとても驚きました。でもそれ以上にうれしくなりました。このようなことをしてくれたのは初めてで、立ってよかつたなと心から思いました。

言葉です。この言葉は思いやりと助け合いの心からだと思えます。次に使う人の気持ちを思いやり、前の人の後で汚れていたのなら、それをきれいにしてあげる助け合いが生んだ言葉はとも私の心に残り、これだけは守らないと。いつも思います。母は祖母から教えてもらったから私にもそれができる人になってほしかったそうです。私は一人の人が大きなことをするよりも、塵も積もれば山となる、ということわざがあるように小さなことを一人一人がすべきだと思えます。小さなことから少しずつ、自分にできることをすればいいと思うのです。そうすれば、きつとつくることができます。あたたかい福島市はだれかがつくるのでなく、自分達がつくっていくのだと思えました。

他にも、お年寄りが落としてしまったお釣りを拾う小学生の姿や、散歩中の犬を小さな子供に触れさせてあげる飼い主さんなど私の住んでいる地域には一部ですがいます。このような人達が「あたたかい福島市」をつくっているのだと思えます。

私は小さなところからずっと心がけていることがあります。「自分の使ったものは使う前よりきれいにしなさい。」母と先生の

佳作

「この福島で守るべきもの」

福島市立岳陽中学校

岡崎 美結

福島のよいところ。それは、青々とした緑とすんだ空気だと思います。私は、福島 of きれいな空気と美しい緑が好きです。しかし、今森林が世界全体で減り続けています。なかでも、熱帯林の減少が激しく、毎年日本の国土面積の約三分の一に相当する千二百三十万ヘクタールの森林が減っているそうです。この福島のきれいな空気と緑を保つていくためには森林は不可欠です。

森林にはさまざまな働きがあります。働きの一つに、二酸化炭素を吸いこみ酸素をだします。森林は空気をきれいにし、炭酸ガスを吸収するので温暖化を防ぎます。

また、空気をきれいにするだけでなく、木の根により土が流れるのを抑えるという働きもあります。木のない斜面よりも、木のある斜面の方が雨などで土が流れること

が少ないからです。

他にも、利点はたくさんあります。そして私達の生活の支えになっています。

そこで、緑を守るにはどうしたらいいのでしょうか。

まず私でもできることはないか考えてみました。

紙などのリサイクルや古紙を使ったノートなどを使うようにして、できる限りの木の無駄な消費を減らしたらどうかと思います。

また、森林が続くこと。そのためには森林の循環がとぎれることなく行われることなく行われることです。

そのためにできることを調べてみると、どんぐり銀行という子供が参加しやすい緑化運動を知りました。

どんぐり銀行とは、お金の代わりにどんぐりを貯めることができる銀行です。どんぐりを預かり苗木へ育ててくれます。どんぐりの木は水の吸収がよく、緑のダムと呼ばれるほどだそうです。今後、よく調べて、参加できればと思います。

未来の福島に緑を残すため重要なことは

一人一人の心がけではないでしょうか。

福島で、川にゴミがたくさん捨てられているのを見かけたことがあります。このゴミで水は汚れ、流れも滞り緑も少なくなり、見ているだけで悲しい気持ちになりました。

みなさんにも、自然が壊されているところを見て、悲しくなった経験があると思います。そこで、その時点で自分自身は何ができるのか、どのようにしたらこのような悲しい事が起こらないのか、考えてみてはどうでしょうか。

私は、未来の福島が私の好きな福島であるためには、一人一人が、緑が生きていくうえで必要であることや、緑を育てることに、福島で守るべきものを、知ってそれぞれ心がけることだと思います。

佳作

「うつくしい福島に」

福島市立福島第四中学校

板倉 はづき

福島市民憲章？なんだろう？

私は、五つの市民憲章を一つずつ読んでいききました。良いことは言っているけれど、なんかピンとこないなーと、思いました。でも、一つ目の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」ということは、ゴミを出さないようにする工夫、出してしまったら、ポイ捨てなどしないで、ちゃんと、分別して捨てるという事かなー、と考えました。

福島には、信夫山や、私の家の近くのいっぱい森、阿武隈川などの自然がいっぱいあります。私たちは、いつもその自然に囲まれて過ごしてきました。でも、その大切な自然に最近ポイ捨てが多くなってきたと思います。普通にたばこの吸いながらや缶ジュースや缶コーヒーの缶が落ちていきます。そのゴミを見るたびに、いつもがっかりし

ます。なぜかというところ、それを捨てている人は、若い人もそうだけど、ほとんどが大人だと思うからです。本当は、大人が子供に教えないといけないのに、教える側の人が、そうであってはいけないと思います。

でも、この前見た新聞では、八月九日に行われた花火大会で出たゴミを、十日の早朝から、市の職員の方や地元町会の住民の方、約百五十人がボランティアで清掃活動を行うと書いてありました。ポイ捨てる大人もいる中で、ボランティアまでして清掃活動を行う大人もいるなんてすごいなと思います。これは、「きれいなまちづくり」とともに、「親切で愛情あふれるまちづくり」にも、ぴったりだと思いました。自分の住んでいる福島市に愛情がなければ、できないことだと思えます。

私は、ここまで自分の考えを文章にしてきて、やっと、市民憲章とは何かわかってきたような気がします。今、私は中学一年生なので、この五つの全てを守るはずもありません。しかし、今回、これならと思いついたものを、常日頃意識して、生活していけばいいのではないかと思います。そ

して、時々、見直して、自分はできているかな、まだまだ難しいなと、心の中で自分に言い聞かせていけばいいのかなと思います。

そして、この時々、見直すという作業を、福島市民全員がやったら、ものすごく良い人ばかりが集まり、きれいな環境で、

「福島市に住んでみたいなあ。」

なんて言われるまでの良い市になると思います。

そして、七年後、二十歳になった私は、福島市に住んでいることを誇りに思える大人になっていきたいです。

佳作

「緑のきれいな町」

福島市立西信中学校

加藤 咲月

福島市には緑がたくさんあります。私が通っている西信中学校には、学校のしき地内を取り囲む緑があります。町の内には駅前広場や、花がきれいな信夫山があります。

私は小学校の時に「環境委員会」を体験しました。そこでは植物を植えました。自分の植える花をもらった時、ずっしりと重い命をもらったような気がしました。私はそのとき「この命を大切にしくちやいけない」という感情が全身からあふれ出てきたのを覚えています。土に穴を掘り、その穴に花を入れたとき、命が明るく咲いたような感じがして、根元の方に土をかぶせた時、自然の内の大切な一つの命が目の前に現れたような気がしました。その時私はこう思いました。

「私は命を守ったんだなあ。いつ摘み取

られてもおかしくない命を私は守ったんだ。」

という充実した気持ちで心が満たされていききました。私が一つ植えると、一つの命が守られ、また一つ、また一つと命が守られていききました。そして目の前が守られた命でいっぱいになると、委員会の先生が、

「植物は、永遠に減らない。だけど私達が守らなかつたらどんどん減っていく。反対に、守っていったら、どんどん増えていくんだよ。」

と、おっしゃいました。私は確かにそうだと思います。しかし、花を植えただけでは守ったとはいいません。花も私達と同様に水を飲んだり、栄養を取らなければ、いづれかは死んでしまうので、私は水あげもがんばろうと思いました。水の入ったジョウロを、「水はまだ？」と問いかけるように、首を長くし待っている花のところへ持っていききました。しかし、ジョウロはとても重くて、腕がちぎれそうなほどでした。けれども、少しも命を減らしたくないという思いを胸に、花に水をあげました。そのかい

もあってか、その花は綺麗に咲き続けました。花は晴れた日も雨の日も、土の中にしっかりと根を張り堂々と生きていました。私はこの時を境に、植物を大切にするという気持ちになりました。

私達の回りには常に緑があります。これは福島市には常に緑があるということになります。しかし、この広い世界には砂漠があります。砂漠は雨の降る量が少なくなり、土面が乾き、砂になって植物が無くなってしまうのです。そこには緑はなく、ただ黄土色の砂が広がっているのです。ですから、福島市は水も空気も豊かなので、緑が豊かなのです。

私は、緑を守るために、家の庭に花を植えたり、ゴミを拾ったりと、いろいろ工夫しています。小学校でも緑の少年団があり、地域でも取り組んでいるので、いいと思います。

私の住んでいる福島市は、私の中では一番緑の多い町だと思います。私のおじいさん、おばあさんの時からの努力のたまものなので、これからも大切に守っていこうと思います。

「愛情と希望あふれるまちへ」

福島市立福島第二中学校

高橋 美羽

私は、親切で愛情あふれるまちをつくるということは、とても良いことだと思っています。しかし、親切で愛情あふれるまちをつくるには、一人一人が心がけて生活することが大切です。具体的に、どのようなことを心がけたら良いのかを考えてみました。

一つ目は、明るいいいさつです。誰にでも明るくて、笑顔いっぱいあいさつができれば、まちのみんなが明るくなり、良い関係をさずいていけるのではないかと思います。

二つ目は、困っている人がいたら助けるといことです。荷物を少し持ってあげたりゴミを拾ってあげたり、どんなに小さなことでも、このようなことを心がける人が増えれば、大きな親切につながるはずです。

三つ目は、そのまちの伝統のお祭りや行

事に取り組み、大切にすることです。お祭りなどは、小さい子供からお年よりまで、まちのみんなが協力して行います。まちのみんなと楽しみながら仲を深め、楽しい思い出をつくることで、さらによいまちが生まれます。

さらに、子供からおとしよりまで、安全で健康なまちをつくれれば良いと思います。

そのためには、犯罪を減らすということが大切だと思います。最近では、犯罪が昔と比べて増えているとよく聞きます。そうすると、まちのみんなが安心して暮らすことはできません。犯罪を減らすために、わたし達にできることは少ないかもしれませんが、親切で愛情あふれるまちが増えたり、ポスターなどをつくったり、自分達にできることに取り組むことで、少しは安全なまちをつくることもできると思います。

親切で愛情あふれるまち、子供からおとしよりまで安全で健康なまちをつくるために、どんなにささいなことでも、一人一人がきちんと取り組んでいくことが必要だと考えました。

「福島をきれいに」

福島市立福島第三中学校

菊地那月

私の思う福島市のよいところは、自然が近くにあることです。山や川などは歩いてすぐ着くことができるし、町にも木がところどころに植えられていて、緑があるというところがあたりまえのように思います。

しかし、山や川に行くと、捨てられたゴミを見ることがあります。それは自然の中だけでなく、町でも同じことが言えます。せつかくの自然がたくさんある町なのに、きれいな町とは言いがたいと思います。福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を達成させるため、今の福島市には町をきれいにする取り組みが必要だと思います。

そのためにまず、私達がしなくてはいけないのは、ゴミをポイ捨てしないことです。自分で出したゴミは自分で持ち帰る、そんなあたりまえのことから実践する必要がある

ります。ポイ捨てを減らすために、ポスト1をはってよびかけをしたりするなど、町の人達が協力して行えば、ゴミは減るんじゃないかと思います。

また、地域の人達で町の清そう活動をすることも必要ではないかと思います。そうすれば、ポイ捨てをしないかと思わないと強く思うようになるだろうし、地域の人の交流をとることが出来ます。私の家の地域では、年に一度、地域の方達が集まって公園や植えこみの草むしりやゴミ拾いを行います。私も小さいころはお父さんと一緒に参加していました。雑草がたくさんはえている公園を近所の方達と草むしりをしてきれいになると、とても達成感があります。でも、最近は何んどくさくて参加していませんでした。なので、私も近所の方達と、まずは自分の地域からきれいにしていきたいと思います。

福島市は、親切でやさしい人が多い町だと思います。だから、一人一人が町を汚してはいけないと思うようになれば、町はもつときれいに、住みごこちがよくなると思っています。私も自分から町の清そう活動に参

加し、ふるさと福島がきれいな町になるよう、取り組みでいきたいです。

「守れ!!福島市を!!」

福島市立福島第三中学校

松本 琴美

福島市はたくさん山や川があり、自然にかこまれたとても良い所です。ですが福島市民憲章には「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」とあります。これはどうしてなのでしょう。今から、班やクラスで話し合ったことをもとに課題と解決策をみつけていこうと思います。

まず、福島市は、福島県の県庁しよざい地でもあるので人が多いです。だからたくさんの方が山や川に足を運んで利用します。そのときにポイ捨てをすることはありませんか。山は大きいし少しくらいと思ってる人が多いからこそ、山や川には、ゴミが多いと思います。私は土・日になるとおつかいやおでかけなどで外に出る機会が多いです。たまに、歩いている歩道などにゴミがおちていることがあります。このゴミが多い、とか、山・川が汚いというのは、

私のクラスのどの班でも挙げられた問題です。その問題を解決するためにはどうしたらいいと思いますか。

私は、解決策の一つとして、まずゴミ箱を増やしたほうがいいと思います。ゴミ箱がないからどんどん捨てられていってしまうのです。だからそう思いました。

二つ目は、ポスターなどを作り、呼びかけをすると思います。たとえば募金をあつめたりするときは呼びかけていますよね。それと同じです。呼びかけることによって一人一人の意識が高まると思います。

三つ目は、憲章のなかの「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」にもつながると思います。地域の人たちで歳をバラバラにグループを作り、実際にゴミ拾いをするということです。そうすればいろんな人との交わりでのおもいやりも生まれ、ゴミも減っていきます。町がきれいになることで人の心もきれいになると思います。

このような案をもとにして、福島市をもっと緑豊かなきれいな町にしたいです。そ

して福島市民憲章を一つ一つ達成していけば今より良い福島市になっていくと思います。そしてもしも私たちが大人になって、実際に活動したりするときは次世代にその活動をひきついでいてもらいたいです。

「きまりを守るといふ努力」

福島市立福島第三中学校

齋藤 麻衣

私が思う福島市のよさは、親切な人が多いということ。私が、バスの時間が分からなくて迷っていたときに、バス停に並んでいた人に聞いたら、優しく親切に教えてもらったことがあったからです。

しかし、今の福島市には、きまりを守らなくてはいけないという課題があります。それは私が、このような体験をしたことがあったからです。それは二つあります。

一つ目は、交通ルールを守らない人がいるということです。私は出かけたときに、車の信号が赤になるうとしていたギリギリのときに、車が通っていったのです。もしも歩行者がそこを通っていたら、きっと、大変なことになっていたと思います。とても危ないなあと思いました。これは車に限らず、歩行者もです。信号が点滅している時や、赤信号では、必ず止まらなくては

いけないのに、走ってわたっている人がいました。これも危ないなあと思いました。

このような体験で、また危ないことがおきないように、私は解決策を考えました。それは、一人一人が心がけることです。信号が点滅している時、赤信号の時には、必ず止まるということを意識して心がければ、交通ルールも、少しは改善できると思います。そのためには、車も歩行者も、一人一人が心がけなくてはいけないと思います。

二つ目は、飲酒運転についてです。ときどき私はテレビで、飲酒運転をして、事故にあってしまったというニュースを見ました。飲酒運転は、とても危険だと思います。事故にあうだけでなく、他の人もまきこんでしまうからです。私はこのことについて解決策は、自分でだめなことはだめという気持ちで、常に自分で持ちつづけていくことが大切だと思います。

これから福島市をよくしていくためには、一人一人の心がまえや、努力が必要だと思えます。

「福島市のためにできること」

福島市立福島第三中学校

成 田 実 桜

私たちの福島市は、空も水もきれいなみどりのまちをつくるという目標があります。たしかに、空も水もきれいだと県外から来た人たちは「福島っていいところだな。」と思ってくれます。しかし今、福島市民はその目標にむかって努力しているのでしょうか。

「みどりのまち」は、東京などの都会にはない自然があるからこそ、つくれるものだと思います。そんな福島市にするために、私たち一人一人ができることはいろいろあります。私は学校の通学路などに缶などのゴミが落ちているのをよく見ます。特に、自動販売機の周りにはわざと似たようにゴミがあります。そのゴミを捨てないように気をつければ、ゴミが落ちていないようありませんが、ゴミを持ち歩くのが嫌だという人もいます。だから私は全て

の自動販売機の隣にゴミ箱を設置すれば良いと考えました。すでに、ゴミ箱が隣や近くにある自動販売機がありますが、ゴミ箱が無い自動販売機もたくさんあります。ゴミ箱があると周りにゴミが落ちていることが無くなり、捨てていない人にも迷惑がからなくなると思います。

県外から来た人に福島市は良い所だと思ってももらうためには、まず私たち福島市民が福島市は良い所だと感じるようなまちにしていく必要があります。空も水もきれいなみどりのまちをつくるには、ゴミが落ちていたら拾うことや、川などを汚さないように水道の使い方を考え直すこと、節電・節水など一人一人できることがたくさんあります。福島にある自然を守って行くことは福島市民が協力し合っていかなければなりません。

だから、私はこれから、油污れのついた食器は洗う前にいらぬ布や紙でふいて洗剤の使う量を少なくしたり、使っていない電気を消したり、ゴミが落ちていたら拾う、など自分一人で簡単にできることからやっけていきたいです。それを一人一人が続けて

いけば、「空も水もきれいなみどりのまち」に福島市がなっていくと思います。

「より良い福島へ」

福島市立福島第三中学校

高木 心愛

最近、交通事故や声かけなどが多くなっています。その理由は街灯が少ないからだと私は思います。夜になっても明りが少ないことは非常に危ないのです。暗くて周りが見えないと誰が近づいてきているかも分からないです。だから、課題はどのようにして街灯を増やすかです。

私の実体験では、中学校に入ってから帰る時刻が遅くなりとても暗い夜に帰るようになりました。でも、街灯が少ないと何かあるかもしれないと思えば不安を抱えながら帰っていた時がありました。そのことを地域のの人に言ったら街灯を一本増やしてもらえました。だから、まずは地域の人に言うてみるのはいかがでしょうか。地域の人が少ない子供達が安全に過ごせるようにしたいという思いがあるなら可能性はあると思います。前に市長さんが

「福島市の全学校にクーラーを設置します。」

と言っていました。でも、まだ実施されていません。でも目標があればいつか達成することができると私は思います。だから、できたらこの課題を市長さんに伝えたいです。そうしたら街灯が増えるかもしれません。そして明るくなれば声かけなどの事件が少なくなるのではないのでしょうか。そして私達が住んでいるこの市が少しでも安全になればなと思いました。

だけどそんなにすぐには街灯は増えるはずがありません。では、それまでに私達ができることはなんのでしょうか。そこで私は二つ思いつきました。

一つ目は、下校するときに誰かと一緒に帰ることです。そしたら、声かけはあまりしなくとも思います。

二つ目は、夜遅くまで出歩きすぎないことです。八時過ぎぐらいになると辺りも真暗になって危ないと思います。このように私達ができることもあります。だから、自分たちでも身を守るようにしながらも市が安全になることを私は望みます。

「親切で愛情あふれる町づくり」

福島市立福島第三中学校

齋藤 輝

僕は福島市を親切で愛情あふれる町にしたいです。そのためには、自己中心的な考えを一人一人がなくせばいいと思います。自己中心的な考えの人が多ければ多いほど親切な人は、少なくなってしまうのではないのでしょうか。自己中心的な考えをなくしていけば、僕は、相手のことを考えられると思います。しかし、世の中には親切にできない人もいるのが現状です。そのような人たちがいないと良いのですが、そんなことはできません。

僕はニュースで、殺人事件や強盗などの出来事をたまに見かけます。僕はそのようなニュースを目にするたびに「またか」と思い、どうしたらこのような事件はなくなるのだろうかと考えるときがあります。でも、考えた通りに百パーセントなるわけではありません。ただ、人は意識をするときっと

変われます。だから、一人一人が少しでも他人に親切にしてあげるといつか自分に返ってくるはずですよ。親切な事をして得をしない事なんてありません。悪い事をしたほうが、それが返ってくるのです。

毎年いじめなどを見聞きます。僕は、いじめをする側の人は、心がせまく、弱い人なんです。自分の気持ちをコントロールできなくて、カッとなって人にあたるのではないのでしょうか。自分がいじめをしているのに、悪い事をしていると分かってない人も中にはいます。それだけ自分をコントロールできないんです。つまり、一人一人が親切にすることを心がければいいのです。

親切にすることは、今あげた事の他にもたくさんあります。僕がじつさいにやった事があるのは、バスや電車内での席ゆずりです。これも立派な親切です。僕がおとしよりに席をゆずった時に、おとしよりは、僕に「ありがとね。」や「助かる、ありがとう。」など、たくさん色んな声をかけてくださいます。だから僕は続けられるのです。もしも、自分が親切にしても、お礼が

かえってこなかったら親切にしたのに良い気持ちになりません。だから、僕は、親切にされた時もしつかりお礼をするように心がけています。僕は福島市民だと絶対に出ると信じています。人に親切に出きると、愛情あふれる福島市になると思います。それで、一人一人が小さい親切でも立派な事なので、自分から積極的に行動してみましよう。

みんな、親切で愛情あふれる町をつくりたいと思います。

「あいさつの力」

福島市立福島第三中学校

遠藤 葉奈子

私は、あいさつで、笑顔のあふれる福島にしたい。たった一言の言葉でも、地域との交流がいつそう深まりなおかつ、自分自身が元気になる。だれにでもできる簡単なことだと思う。なぜあいさつができる福島にしたかったかというと、実際に中学校で取り組んでいることから。学年ごとにあいさつの割合をはかって、あいさつ率八十パーセントを目指している。何回か、八十パーセント以上にしたことがある。その時は、「もう一回達成しよう。がんばろう。」と思う。この活動を続けた結果、四月の時よりも今の方が、

「おはようございます。」

の言葉が増えたと私自身実感できる。これこそが三中の目標とする福島一の取り組みなのだ。

私は、このように中学校で行っているこ

とこそ福島はまだ足りないことなのだと思う。自分から積極的に、

「おはようございます。」

と言うのには勇気が必要だ。前の私はその勇気が足りなかった。でも今は前の私と少し違う。それは友達やテレビから学んだ。

部活帰りに私はいつもの友達と一緒に帰っている。よくその道は人通りが多いのでたくさんの人にあう。私はあいさつしようところろみるが口がいつもあかない。でも友達は率先して

「さようなら。」

と、大きな声であいさつしている。その時はメンタル心が強くてかっこいいと思った。友達をずっと見習っているうちに、普通にあいさつができるようになった。少しのきっかけがあれば、人は変わることができるとあらためて知った瞬間だった。

福島はいなかでもあり都会でもあり緑の囲まれたすばらしい所だと思う。福島に足りないのは、教育でも運動でもなく、一番身近な基本として「あいさつ」これを成長させることが今度の課題だと思う。三年前の影響で希望を失った人はたくさんいる。

テレビで、原ばつ事故でストレスがたまり自殺した人がいるのを知った。とても悲しいことだと思う。一人でも被害を出さないために、あいさつで人をいやしてあげたい。福島から変えていくことが大事だと思う。いろんな人にあいさつのよさを伝えていきたい。メンタル心の強い福島にしたい。

自分から積極的に実せんすることこそ大切なのではないか。プロのアスリートもあいさつを一番のモットーとしているのはこのような理由からなのではないだろうか。いつか周りから、

「あいさつのすてきな町だね。」

と言われる日がくることを願って、私からあいさつを率先していきたい。

「みんなのための安全なまち」

福島市立福島第四中学校

小野 涼太郎

みんなとゆうのは、特に子どもからおとしよりのことを示します。みんなのためにできる安全なまちをつくるためにはどうゆうことをすればいいのでしょうか？正じきに言うと中学生がどうゆうことができる話ではないと思うし、中学生が国会にでてペラペラしゃべる事は不可能なんだなとも思います。

けれども、僕がおとしよりが迷っている時、僕が助ければいい。子どもが泣いていれば僕が助ければいい。そうして安全なまちをつくりあげる。それは叶いませぬ。サントさんのように、幸せがまった大きいふくろを空を飛ぶそりをつかって運ぶことはできません。

けれど、こうした僕の行動を友達に伝えたりすることその行動は近くの中学生に伝わり、小学生、高校生にも伝わってゆく

のです。

こうしてできていくまちはもう、おとしよりや子どもたちのための安全な町づくりではなく「中学生がつくりあげた愛情のある安全なまち」に進化します。それが僕の考えです。

「福島市民憲章について」

福島市立福島第四中学校

熊田 統 弥

ぼくは、今の福島市には、みどりが必要だと思います。

みどりがあれば、空気がきれいになるので一番必要だと思います。

特に、今は、ほうしゃのうというぶっしつがあるので、木があれば、キレイにならないのかなと思います。

他にも、ぼくはあります。

前に、まち中に行ったら、ヤンキーなどが、たばこやさけのカンなどをポイステしているのを見たので、思いやりがないなと思いました。特にひどいなと思ったのが、車いすのおばあさんが、さけのカンをふんだり、ヤンキーたちが、じゃまでどうれなく、こまっている人を見かけました。

このままでは、福島市のかんきょうがわるくなったりしてしまうので、今の福島市には思いやりがだいじだと思います。

「快適なまちにするためには」

福島市立福島第四中学校

本 多 勢 菜

福島市には、信夫山、阿武隈川があります。福島市民は、福島市をもっと住みやすく快適なまちをつくるためにこのことをしています。空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。教育と文化を尊ぶ希望に輝くまちをつくりましょう。親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。きまわりを守り、力をあわせて、楽しく働けるまちをつくりましょう。子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。ということをして住みやすく快適なまちをつくっています。

空も水もきれいなまちをつくりましょう。というのは、放射線の水がよごれたり自分達が食べている魚に悪いえいきょうがあつて心配だと思うけど、これからその水をみんなできれいにしていこうということ。これからも海にその放射線の水を出すと思

うけど、それもみんなのできるだけきれいにしていけば、いいということだと思いません。

みどりというのは、もつときれいな水を作つてもつとみどりをみんなで増やそうということだと思いません。

教育と文化を尊ぶ希望に輝くまちをつくりましょうというのは、今の教育は、おくられているついでにたからもつと勉強して福島文化を昔の人がしてきたことを尊敬して希望に輝くまちを一人一人作つていくことだと思いません。

親切で愛情あふれるまちをつくりましょうというのは、電車の中で若い人がすわつていてお年寄りの人が立っているということがすごく多いので、どこでも親切にするようにだということだと思いません。

きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。これは、だめなものだめという心を持ちみんなで力をあわせて楽しく働けるまちをつくるということだと思いません。

子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。最近、

病気で死亡する人がいるから安全で健康なまちをつくりましょうということだと思いません。

福島市民は、このことをやってみなで快適なまちをつくつていけばいいと思いません。

「福島市民憲章と福島市民」

福島市立福島第四中学校

鈴木 桃花

私は先日、福島市を流れる荒川が、全国河川水質調査で四年連続一位になったという記事を読みました。これは、とてもすごいことだと思いました。市民が協力して川をきれいにしたから、その努力がこのような結果を生んだのだと思いました。これからも、川のきれいさを持続させて、記録を更新していきたいです。

空も、天気が良いれば夕日もきれいに見えます。

市民の人はみんな、自分の希望に向かって頑張っています。山に囲まれた自然豊かな学校で、四季の移り変わりと共に授業を受けることが出来ます。例えば、私の学校では東北の寒さに負けずに部活を一生懸命頑張っています。

私はたまに、道を教えている人や、荷物を持ってあげたり、道をゆずったりするの

を見ます。そのたびに私は、福島市民は優しいなと思います。

しかし、たまにこんな人も見るのです。ものすごいスピードで交差点を通る車や、自転車か歩行者用横断歩道を通ったりするところ。遮断機が下り始めているのに線路を渡る車や人、信号無視などです。このような危ない光景を見ると怖いし、福島市民憲章に逆らっているなと思います。このようなことをする人達は、自分がやっている事が危ないとは思わないのでしょうか。これでは、せっかく元気な人も、不慮の事故で怪我をしてしまったり、最悪の場合、亡くなってしまうかもしれません。もししたら自分は刑務所に入ってしまうと思います。それはとても大変なことだと知っているならば、やらないと思います。

人によつては、福島市民憲章を知らない人もいるかもしれませんが、知らなくても危ないことはしなないと思うし、親切だつて誰にでもできることです。

新聞や広告、ポスター、コマースシャル等で「福島市民憲章」をもっとたくさんの人に知ってもらえるようにすれば、福島市は

これからもっともつとよい市になると思います。それには、市民の協力が必要不可欠です。市民一人一人がしっかりと考えて、協力して、もつとよい場所になりたいです。観光などで訪れた他県、他国の人達皆が「素晴らしい！」と口をそろえて言うような県にしたいです。

どこを見ても親切で安全で安心できてきれいな「うつくしま・ふくしま」を「福島市民憲章」で実現できるといいなと思います。

「空も水もきれいな町を

つくるには」

福島市立福島第四中学校

飛 弾 香 乃

私は空も水もきれいなまちをつくりましようという福島市民憲章で思ったことが三つあります。

一つ目は東日本大震災で水が出ないなど、福島市は暗い町へと変わってしまったことです。あのときは空を見上げても、なんとも思えない状況でした。でも今は、透明できれいでとてもおいしい水があり、晴れた日に空を見上げれば、とてもきれいです。三月十一日に起きた東日本大震災から福島市は、とてもきれいで、協力ができる町になったと思います。

二つ目はどうやったら福島市がもつときれいな町になるか考えることです。川の水をあまり汚さないなど呼びかけたり、今もいろんな所で行われているゴミ拾いなどをやったりすると今よりもつときれいな町に

なると思います。考えることもとても大事ですが、それを実行することがとても大事だと思います。水をきれいにするためには、川のゴミ拾い。空をきれいにするためには、とても難しいですが私が思うに、木を植えたり、近くの買い物などは車に乗せてもらうのではなく、なるべく自転車で行くとい

いと思います。

三つ目は県外の人たちに福島市っていい所だなど思ってもらいたいことです。原子力発電所で事故があつてから、県外の人から見た福島市は、あまり良く見られていないと思います。福島市は、放射性物質で汚されてしまいました。除染作業が行われて、少しずつ放射線が減ってきました。福島市には、緑があり果物がおいしいです。空が青くてとても広いです。福島市にはたくさんいい所があります。県外の人から福島市の悪い所を言われる町ではなく、良い所をもっと増やして、県外の人から良い所を言ってもらえる福島市にしたいです。

福島市は今、東日本大震災から変わっています。空はきれいかなと考えると、前は放射線という言葉が浮かびます。でも今は、

とてもきれいと自信を持って言えます。水はきれいかなと考えると三月十一日から約一週間出ませんでした。でも今はおいしい水が出ています。水も自信を持ってきれいと言ふことができます。福島市は空も水もきれいなまちをつくりましようという福島市民憲章に近づいていると確実に言えます。福島市がもつときれいになるためには、やはり、呼びかけや考えたことを実行することが大切です。東日本大震災があつてつらいことがありましたが、過去を振り返るのではなく未来を見て、空も水もきれいなまちをつくるということにもっと近づきたいと思っています。

「福島市民憲章」

福島市立福島第四中学校

金丸 岬

ちゃんときまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくってみたいなと一度は、思いました。

犬のふんちゃんとかたづけとか、ガムをゴミ箱に入れたりしたり、たばこをはいざらに入れたりしたら、きまりも守りきれいな町をつくれたいするのじゃないかなーと一度は、思います。

でも、呼びかける人やロボットなどがないからきたなくフンだらけで、ガムばかりなガツカリな町になるんじゃないかなーと一度は、思います。

やっぱり呼びかける人がいては、いいんじゃないかなーと思えます。

昔もきたないから憲章を昭和四十八年四月に制定されたんじゃないかなーと毎回思えます。

四月以こうはきれいだったじゃないかな

ーとたまに思います。

げんばつで水も空気も空もきたなくなっ
てしまつて、健康な町にならないのでは
ないかなーと思えました。これから産まれる
赤ちゃんや百さいのおじいちゃんなど危
いのではないのかなーと時々思います。

フンやガムをかたづけた方がいいと思
います。

きれいなまちで希望があふれ愛情もあ
ふれ安全で健康な福島市にしたいと思
います。

フンなど片づけよりよい町にしたいと思
います。

お年よりに親切にした方がいいと思
います。

例えばお年よりに席をゆずったり、お
にもつを持ってあげたり、気を使つたり
するのが本当の親切ではないかと一度は、
思えます。

気がついた重そうなものもつを持って
あげたりするのが思いやり、そして愛情
あふれるこういだと毎回思えます。

学校など思いやりの教育がありだと思
います。

あとまつりのわらじや夏まつりなどの文
化などの伝とうあふれるのが福島市のい
ところだと思えます。

「福島市民憲章を読んで」

福島市立福島第四中学校

武田 温人

僕は、この福島市民憲章を読んでこれは快適で明るく住み良い町づくりのためにつくられているものでした。

一つ目のものは、「空も水もきれいにしていこう」ということがとても伝わってきました。福島は、果物が有名なので「自然」を大事にすることは良いことだと思いました。僕は、自然がきれいだとたくさんの人に福島へきていただける市民憲章だと思いました。

二つ目のものは、「教育」と「文化」を輝かせようとする気持ちがよく伝わってきました。この教育と文化を尊び次へと発展ができるの良いのではないかと僕は感じました。

三つ目のものは、優しい心を忘れずに明るい町を作ろうとしている気持ちがよく伝わってきました。これでは、「愛情あふれ

る町」という言葉がとても心に残りました。僕は、この市民憲章を読んでどんな人にも優しくしようと思いました。

四つ目のものは、「きまり」を守るということがよく伝わってきました。特に印象に残った言葉は「力をあわせて楽しく働けるまちをつくる」この言葉がとても大事なことだと感じました。僕は、たくさんの人と一緒に生きて生活しているのでとても大切なことだと思いました。

五つ目のものは、子供から大人やおとしよりまで安全でくらししていこうとする気持ちが伝わってきました。福島にきていただけたときなどに、「とても安全で健康なまち」と言ってもらえるようにしていきたいと僕はとても感じました。

僕は、この「福島市民憲章」を読んでこれをつくった方は福島をととても愛している人なんだと思いました。僕もこれからはこれらを目標に生活していこうと感じました。この福島市民憲章をもっとたくさんの人に知っていただければもっと快適で明るいまちにすることができるとは思いませんでした。今後はまちをきれいにしながら

ら生活していきたいと思いました。

「市民憲章と僕の願いや未来」

福島市立福島第四中学校

蓬 田 純 平

市民憲章は、市民の幸せ、郷土福島の発展を願って、昭和四十八年四月に制定されました。今回は、その市民憲章に対する僕の願い、目指したい未来について書きたいと思います。

まず、最初は、「空も水もきれいなまちをつくりましょう。」についてです。これは、将来子ども達が周りを見たとき、空は排気ガスで汚れ、水はにごっているという環境ではないようにしてほしいと思います。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」です。これは、何年たっても、心も体もしっかりしている大人になれるような教育環境が整っている、伝統芸能、伝統工芸品が残っているようにしてほしいと思っています。今は少子高齢化で、伝統工芸品を作る人も減っています。

ると思いますが、がんばって伝えていってほしいです。

三つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。これは、いつまでもゆずり合いの心を忘れずに、人とつき合ってほしいと思っています。

僕の中学校では、みんなとても元気にあいさつをしています。それも、いつまでも忘れずに続けていってほしいです。

四つ目は、「きまりを守り、力を合わせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」です。これは、いつまでも、みんなとみんなのために力を合わせることができてほしいと思います。今は東京に行ってしまう人が多いかもしれないですが、地元福島で仕事をがんばって良かつたと思えるようなまちづくりをしていってほしいです。

そして、最後は、「子どもからおとしよるまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。これは、交通事故をなくし、みんないつまでも笑顔でいられるようにしてほしいと思っています。

ぼくは、これが市民憲章の中で一番大事

だと思っています。理由は、今は放射能の影響で、福島はあまり安全ではないと思われると思います。だから、みんなが安全なまちづくりを心がけるべきだと思うからです。

市民憲章は全部で五つですが、快適で明るく住みよいまちづくりを進めていくためには、もっとたくさんの方が必要になってくると思います。例えば、エコに心がける、クリーン活動に進んで参加するなどです。全部は、難しいかもしれませんが、みんなと協力して一つずつ達成していけば、とても良いまちをつくることができると思います。僕自身も、全てできていると胸を張って言うことはまだできないので、地域の人と力を合わせてやっていけたらいいと思います。

将来の子ども達が、福島をとてもしよるところと自慢できるようなまちづくりを福島のみんなが力を合わせてしていけたらいいと思います。

「空も水もきれいなまちを

つくりましょう」

福島市立福島第四中学校

菅井夏生

私が住んでいる福島市は、東日本大震災がある前は、とてもきれいな水でした。ですが東日本大震災があつて放射能の影響があり、福島の水は飲むことができませんでした。

今は、水道から出る水を飲みますが人によつては放射能を気にしている人が多いのではないかと思います。

私は、福島の水は安心して飲めると思つた。なぜかという、放射能を測定しているからです。ほかの県は、測定していないけど福島は、安心した水を飲めるからです。

私は、空はきれいだと思います。空気は、良いとは言えないですが、空は、きれいだと思います。

きれいにしようとする運動は、とてもいい活動だと思います。理由は、二つありま

す。

一つ目は、活動をすることで、まちがきれいになるからです。呼びかけをすることによつてみんなでやるようになるので、日頃からゴミを増やしたり、ゴミを道路に捨てないように気をつけると、とてもきれいなまちをつくれると思います。

二つ目は、心がけです。きれいにしているためには、心がけが必要だと思いました。心がけをしないと、きれいにしようと思つた町も汚くなつてしまいます。ずっと続けていくことに意味があるので心がけは、大切だと思います。

きれいにするという活動をしたり、自分の生活でも気を配つたりしていると必ず良いことがあると思います。この活動を続けていくのは、簡単そうで難しいけどがんばった分だけ良いことがある。そして、誰でもできることなので、小さい子からお年寄りまで幅広い年代の人が出来るから、空も水もきれいにしていけると思う。

私も、毎日の生活から心がけようと思ひました。

「福島市民として」

福島市立福島第四中学校

渡部 水悠

私は、十年間福島市に住んでいます。福島市は、緑が豊かで、人はみな親切で大好きです。でも、細かいところをみると、必ずしも「憲章通りの市」とはいえないと思います。

私が福島市民憲章を知ったのは、小学校三年生くらいの時です。小学校の壁に、かざってあった記憶があります。でも、その記憶さえもあやふやです。なぜなら、学校や家庭で「福島市民憲章」について教えられたことがないからです。日本の法律は四年生で教えられました。理由は、「日本人として知っておくべきだから」です。ならば、福島市民憲章であっても、同じことが言えると思います。ですから、壁にかざっておくだけではないのです。きちんと小学生のころから教育をしていけば、自然と理想とする福島に近づけると思います。

私が二つ目に思うことは、憲章についての取り組みを増やした方がいいということだと思います。福島市民憲章を身近に感じられないのは、身近にないためだと思います。例えば、市民の印象に残るような呼びかけをしたり、このようなコンクールを行うだけでも、福島市民憲章が、ものすごく身近に感じられます。また、理解を深めるのも大切です。市民が身近に感じただけでは、福島のためになりません。そこで、具体的な取り組みを書いた掲示をすると思います。「空も水もきれいなまちをつくりましょう。」という内容であれば、車の使用を控えようや、残した物を水道に直接捨てないというような掲示をすると、いいと思います。憲章についての取り組みを増やすことで、よりよい福島に近づけるはずです。

最後に、各家庭で憲章について考えた方がいいと思います。家庭で考えることで、子供だけでなく、大人もいっしょに考えることができます。当然ながら、大人の方がたくさんこの地に住んでいます。だから、憲章を最も学ぶべきなのは大人なのです。福島市民憲章ときちんと向き合い、よりよ

い福島にするため、家庭で話し合ってもらいたいのです。

この憲章は、「よりよい福島をつくるためにある」と思っていました。だから、憲章について考えることは、よりよい福島にするためのことを考えるのと、同じだと思っています。そのために、憲章についての教育や取り組み、各家庭での話し合いを増やしてほしいです。福島市民憲章を知り、理解することで一人ひとりが「福島市民としての誇り」をもってもらいたいと思います。

「福島市民憲章について」

福島市立福島第四中学校

佐藤 智潤

ぼくは、福島市民憲章がほとんど守られていないと思います。だけど、守られているものもあります。「空も水もきれいなまちをつくりましょう」は、水はきれいなま思います。空は、工場などのけむりはありますが、まだきれいだと思いません。

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」は、人助けがまだ出来ていません。学校や会社の中で、知っている人なら助けられますが、知らない人だと、ほとんどの人が、助けられないと思います。それでぼくは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というのは、本当かはわかりませんが、守られていない人が多いので、もっと言っていたら良いと思います。ぼくは、二、三人ぐらいしか、知らない人を助けた事ありません。

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働

けるまちをつくりましょう」では、福島では、犯罪が起きたという話は聞きませんが、学校では前引きこもりがいました。そういう人がいると、楽しい事もつまらなくなってしまう。いじめをするから引きこもりをしますが、引きこもる方はだれにいじめられたか分からないので、引きこもる前に先生などに言ってほしいです。それで、みんながめいわくし、楽しくなくなるのです。ちゃんとみんなが楽しくなるようにど力しなければなりません。

「子供からお年よりまで安全で健康なまちをつくりましょう」では、今、ハーブとかなっているので、子供やお年よりがやらないようにすれば良いと思います。そして、今アフリカの近くではやっている血が出るみたいな病気が絶対に入れないようにしてほしいです。そして、化学が進み、何でも治す薬を出せば、子供やお年より、大人、動物が救えます。

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」というものは、昔、どうやってたくさんの生き物の恐竜などが絶滅したのかを考え、そこからどうすれば良いか

を福島から全国へ伝えてみたいです。

最後に、ぼくは、福島市民憲章をもっと多くの人に知ってもらい、何度も呼びかけの方が良いと思います。ほとんどの人が福島市民憲章を知らないのです、おぼえてきたら、ポイ捨て、いじめ、のどれかが無くなると思います。逆に、親切、万能な薬、未来の良い事が増えていくと思います。

「きれいなまちをめざして」

福島市立福島第四中学校

蒲倉 美羽

私がすんでいる福島市は、まだきれいなところとは言えません。なぜかというところからへんにポイ捨てをする人がいるからです。

ポイ捨てがされているのは、山や歩道や道路、川などたくさんの場所にされています。ゴミをポイ捨てするのは一瞬の出来事ですがそのゴミはずっと捨てられた場所にあるのです。夏になると、花火をしたあとのゴミが河原などでみかけます。そのようなゴミを見た人はとても不愉快な気持ちになります。

ポイ捨てをする人をへらすには、ポイ捨て禁止を呼びかけたり、そうゆう看板を設置するなどをおこなうと良いとおもいます。そして、ポイ捨てされたゴミをボランティアのみなさんで集めてキレイにするのも良いとおもいます。地上だけではありま

せん。実は川にもポイ捨てをする人が多いのです。川にポイ捨てをしてしまうと、その川に住んでいる元気な魚たちが死んでしまうこともあるとおもいます。それに、川にポイ捨てをしてしまうと川の水の流れで最終ときには海に流れついてしまうこともあります。海に流れついてしまうと海の水の流れでそのゴミが知らない国のところに行きつくこともあるかもしれません。

最初は数人にめいわくがかりましたが次々とふえていき、他国までにもめいわくがかかってしまうという自体もあるのでポイ捨ては絶対にしないという意識をもつことが大切だと思います。

プリントなどをつくって学校にくばったり学校でポイ捨てキンシを呼びかけるポスターなどをつくるのも良いと思います。

たくさん、案をだしましたが、わたしが一番いいと思うのは、ボランティアです。ボランティアをすると、ポイ捨てのせいでどのくらいきたなくなってしまったのか自分で理解することもできるし、ゴミをひろっている時に、みんなのやくに立っているという、すがすがしいとても良い気持ちにな

なって良いと思います。

みんな、ポイ捨てはダメなんだという事をいつも考えておき、ゴミのないキレイなまちをめざしたいです。

「豊かな自然と美しいまち」

福島市立岳陽中学校

八 卷 延 昌

僕はこの福島市はとても住みやすい所だと思います。僕が朝学校に登校している時などには、あいさつをしてもらうとどんな時でも元気になるので「このまちに住んでいて良かったなあ」と思う時があります。

しかし、僕は残念に思っている事が二つあります。

一つ目は、前森や林だった所に家やアパートなどの建物が建てられているという事です。たしかに都市化しているという事になるのはいいことだと思います。でも自然をこわしてまで僕は楽しくくらしたいとは思いません。

二つ目は、ゴミのポイ捨てです。山や川の河川敷などの所々にゴミが捨ててあったりして「せっかくのきれいな自然がだいなしだなあ」と思います。この前、お父さんと山にドライブに行ったらお菓子の袋が捨

ててあってカラスがそのゴミをつついている所を見ました。また、福島駅の前などの道路には、ジュースの缶のつぶれているのが落ちていました。前、僕が参加したゴミ拾いのイベントのようなものでは、駅前の歩道のゴミを拾ったのですが、たくさん捨てられていて特に多かったのは街路樹の下ので、タバコの吸いがらなどがたくさん捨てられていました。

このように、ポイ捨てをしてしまう原因は歩きながら食べたり飲んだりしてそのまま捨ててしまうということがあると思います。このようにして捨てられたゴミの中の食べ物のカスなどを動物が食べてしまい害があるかもしれません。

このようなポイ捨てを減らすために、食べ歩きを減らせばいいと思います。また、自分で出したゴミは自分で持ち帰り家で捨てるということをしていけばいいと思います。

森林を切り開いて家などを建てたり、ゴミを持ち帰らずにその場に捨てることを少しでも減らせば、自然を守り美しいまちをつくることができますと思います。

「空も水もきれいなまちを

目指して」

福島市立岳陽中学校

小野田

夏

今から約三年前に起きた東日本大震災により、当時、放射能の影響で水道水が使えづらくなり大変でした。現在は、きれいで普通に使っています。

そして、福島市にある荒川は平成二十年には平成の名水百選に選定されています。これは福島市民の誇りだと僕は思います。

このごろ川でゴミのポイ捨てなどが増えてきています。そのせいで川は汚れ汚くなっています。水をきれいなまちにするためには福島市民一人一人が水をきれいにしようという自覚を持って生活する事が必要なのではないかなと思います。

現在、空も水もみどりもきれいなまちですが、もつときれいにするにはもつと努力しなければいけません。そのためには身近にできる事からコツコツとやっていけば良

いなまちになるよう願っています。

いと思います。例えば、水道をしつかりしめてきちんと確認する、皿についた油などはふき取ってから洗う、洗剤の使う量を工夫して減らすです。今出した例などを福島市民全員が生活の中で注意して毎日を過ごしていくと空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうという市民憲章が近い内に実現できると思います。

僕は、今まで、水の出しっ放しなどあまり気にしていませんでしたが、やはりダメだなと思いきれからはもつと注意して過ごしていきます。

福島市は、自然豊かですが、福島市民の僕達が自然の事を考えて生活すれば、川には魚、森林などのみどりには鳥が集まり、今まで以上に素敵で自然豊かで見んなが暮らしやすい福島市になると思います。

今の子供達が安心して暮らすためにも、今のきれいな福島市が未来でもきれいであると良いなと思います。

また、自然豊かで川も空もきれいなこの福島市に生まれた事に誇りを持って、将来、このきれいな福島市をきれいなままでいられるようにまちづくりを行い、もつときれ

「自分にできることから」

福島市立岳陽中学校

蛭田 優芽子

「福島市民憲章。どんなものだったか。」

福島市民憲章作文コンクールの募集要項を見た時、私は単にそう思った。友達に、

「福島市民憲章って、どんなものか分かる。」

と聞いたら、当然分かる人もいるだろう。しかし、分からない人もいるだろう。私自身分からなかったからだ。

そもそも、福島市民憲章とはどのようなものか。それは、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるといったものだ。また、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」や「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」というテーマもある。私はこれらを見て、このテーマが分からない人がいたら、今すぐ教えたいと思った。理由は二つある。

一つ目は、福島市民憲章には、福島市をよりよくするために重要なことがふくまれているからだ。前に述べた二つに加え、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」や「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」などである。全て当たり前だと思うかもしれないけれど、これらのテーマを達成してこそ、よりよい福島となるからだ。

二つ目は、テーマなどが決まっていなくても、それを知らないという意味が分からない。このテーマが福島市民憲章推進協議会などでし分からなかったら、意味がない。市民の人に広く知ってもらおうからこそ、憲章の意味があるだろう。

そこで、私はこの福島市民憲章を知ってもらおうためにはどうしたらよいか考えてみた。まず、友達や家族に福島市をもっと良くしていきたいという思いを言って、憲章のことを知ってもらいたいと思った。そして、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」だったら、木を植える活動などに積極的に参加したり、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」

だったら、まず自分で勉強をがんばったり、文化を市外や県外の人にも伝えたい。私は、こういう一人一人の行いが、福島のよりよいまちづくりにつながっていくのではないかとと思う。まずは、憲章のことを市民の友達を知り、理解する。そこから様々な活動が行われ、どんどん福島市をよりよくできるだろうと思う。福島市がますます活発になっていくと、福島県のほかの市町村もよりよいまちづくりを目指し努力して、最後は日本中、世界中が明るく快適になるのではないか。

私は、この作文をきっかけに、町をよくする活動に参加したいと考えるようになった。自分ができることからまず始める。その小さな一歩が福島の明日へとつながっていくのではないだろうか。

「空も水も」

福島市立岳陽中学校

青柳 太樹

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」僕は確かにそう思った。

僕は福島市にある花見山公園が好きだ。しかし、花見山の中にも、ゴミやタバコの吸い殻が捨てられていることがあった。県内外からいらつしやる方々は、桜やハナモモなどの花を見て、

「この木の花、満開できれいなえ。」

「ここは空気が澄んでいて、いいところだ。」

などといっている。本当にそう思うが、どうしても下（ゴミ）に目がいつてしまう。ゴミが出てしまうのは仕方ないと思うが、それを置いていたり、ポイ捨てるのは頭に来る。ましてやそれを花見山に捨てて景観を壊すような事はゆるせないと思う。しかも、空気も水も汚れてしまう。それでは「空も水もきれいなみどりのまちをつくり

ましょう」という福島市民憲章に反していると思う。

そこで、福島市民で清掃活動を行うといふと思ったが、増え続ける高齢者（六十五歳以上の方）は、平成二十二年現在で六万八八七五人になっている。

しかし、高齢化が進んでいても、若者は居る。僕達や、もう少し歳上の方々と、花見山の景観を守ることが出来ると思う。例えば、ゴミ拾いを、人が混み合う前と後に行えば、来るときも、来た後人も人が気持ちよく、空も水もきれいなみどりのまちをつくる事が出来ると思う。

そのように少しずつきれいにしていけば、空も水も、花も木も人もきれいでみどりもあるまちになると思う。なので、これからの福島市を「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」の憲章を実現させるためには僕達若い世代が働き、高齢者を支えることだと思った。また、空も水ももつときれいになったら未就学児も花見山を楽しく見学出来るようになると思う。

ゴミを拾う。ただそれだけのことで、花見山の景観を守り、その景観を守ることで、

空も水もきれいになり、小さい子供から高齢者までを元気で安全にすることが出来る。

ここでは特別花見山を取り上げて来たが、これは、吾妻山でも信夫山でも駅でもどこでも大切にしないといけないんだと思う。

「思いやりにあふれた福島市」

福島市立岳陽中学校

佐久間 妃 菜

私は、「福島市民憲章」を読んで、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という文章が、今の福島市に一番大切だと感じました。

この文章の中には、「親切」と「愛情」という二つの熟語が入っています。この二つは、なにをするのにも大切で、けっして忘れてはいけないと思います。

特に、親切で愛情もった行動は、大切だと思いました。バスや電車の中で席をゆずることも、その一つだと思います。お年寄りの方や妊婦の方、重い荷物を持っている方の気持ちを考え、席をゆずるのは、とても良いことだと思います。ですが、このようなことをするのは、簡単なことではありません。ゆずる勇気と相手のことを考える気持ちがあればできません。だから私は、小さなことから少しずつやっていくこ

とが、一番だと思い、「あいさつ」をしつかりすることを心がけるようにしました。登下校の時や出かける時に、知りあいの方にはもちろん、地域の方にも自分から進んであいさつをするようにしています。あいさつを返してくれる人ばかりで、すごくうれしく、あいさつをしてよかったと思いました。あいさつをすることによっておたがいに、いい気持ちになったり、笑顔になったりすることができるようになりました。本当に素晴らしいと改めて思いました。

親切で愛情もった行動は素晴らしいと身をもって体験したことがあります。それは、東日本大震災の時のことです。震災のいきょうで、私の家の水道が止まってしまいました。その時に、近所の方が、私は井戸水だからと言って、たくさん水を分けてくれました。水が少なくなってきた、大変だったので分けてもらい、とてもたすかりました。とても親切で思いやりをもった方で、心があたたくなりました。

私は、これからの福島市をより良い市にするために、「思いやり」をもった行動をすることが大事だと思いました。自分のこ

とよりも、他の人のことを考えることで、だれにでも、親切に接することができると思います。ちょっとした気遣いが、たくさんの人を笑顔にし、幸せにすることができると、私は思います。

これからは、一日一つは、親切な行動をとったり思いやりの気持ちをもちて接していくように心がけることが大切だと思います。小さなことから、少しずつ行動するようになると、とても良いと思います。

私は、一人一人が思いやりの気持ちをもち行動し、親切で愛情あふれる福島市が当たり前になると、とても素晴らしいと思います。

「きれいな街にするために」

福島市立渡利中学校

荒 風 咲

私は、たばこの吸いがらやゴミなどが道路などに落ちていっているのを何度か見ました。でもその時の私は、「人のだし、だれかが拾ってくれるだろう。」と人任せにし、自分から進んで拾うことができませんでした。みなさんも、そのような経験をしたことがありませんか。

私は、町内会の行事で、家の近くのゴミ拾いをしたことがあります。紙くずやたばこなどたくさんゴミが落ちていました。普段見ているよりもきたなかったので、「こんなに多くのゴミがきたなくしているんだな。」と感じました。

私たちの住む福島市には、信夫山や阿武隈川など、多くの自然でいっぱいです。春になると花見山の桜がとてもきれいに咲き、観光客や地元の人々にぎわいます。他にもたくさん自然に囲まれています。

このように、たくさん自然に囲まれている福島市がゴミによってきたなくなっていくのを防ぐためには、いくつかの方法があります。まず、最も注意できることとして、一人一人がポイ捨てや自然を大事にすることを心がけ、実行することです。友達などにポイ捨てをしている人、しそうな人には注意していくことできれいな福島市にしていけると思います。川が汚れるのを防ぐための方法として、食べ物を残さないことと教わったことがあります。残すことによつて川へ流れ、汚れてしまいます。食べ物を大事に残さないようにしましょう。

私は、自然を大事にすることで、私たちの生活もより良くなっていくのではないかと思います。みなさんは、生活しているところがゴミやたばこなどきたないものがたくさん落ちている場所とゴミはなくきれいな場所、どちらが良いですか。多くの人はきれいな場所の方が良いと思います。環境がきれいなことによつて、心も体もきれいになることができます。住みやすく、きれいな福島市にしていきたいと思います。進んで注意を呼びかける、ゴミ拾いを行う

など、私たちにできることはたくさんあります。

最近の多くの人は、ゴミが落ちていたとしても拾わず、ふんづけたり無視をしたりしている人が多くなってきました。ポイ捨てはいけない、落ちてくるゴミは進んで拾う、自然を大事にするなどの意識をもつて一人一人が行動していかなければ福島市はきたなくなってしまう。よりきれいで住みやすく、自然豊かな福島市になるように、まずは少しずつから努力し、みんなが心がけているすばらしい福島市にしていきたいと思います。

「空も水もきれいな

緑の町をつくりましょう」

福島市立渡利中学校

八 卷 貴 郁

ぼくは数あるテーマの中からこのテーマを選びました。その選んだ理由は、いつも橋を通るときに川を見た時、けっこう汚れていたのでその解決する方法を考えてみて、このテーマを選びました。川だけでなく道などにゴミなど見る時がありました。一時期、P M二・五の問題で、空気がど汚れていた時もありました。

ではこのような問題はどのようにして解決されていくのでしょうか。まず、水についてです。今の渡利の阿武隈川を見てみたら、かなり汚れていたと思います。でも、それは前日に大雨が降ったからそれでよくに汚れたんだと思います。でも、雨が降っている前もすこし汚れていたのです。ここを解決する方法を考えていきます。まず、家庭のゴミなどを川に流さないことだと思

ます。それと強い風などで木がたおれてそのまま流れてしまい、土などのゴミもいっしょに流れていたりするので川などが汚れると思います。そのためには木などはもうすこし高いところに植えたり、がんばりにするなどすればいいと思います。昔の阿武隈川はきれいだったらしいので少しで昔のような阿武隈川にもどるよう

にきれいにしていきたいと思いました。でも水道などからでる水はとてもきれいでおいしく飲めるのでそこはうれしかったです。部活などで水を飲みたい時などえんりよせずに飲めます。

次に空・空中にある問題についてです。まずP M二・五の原因は中国の工場などからでるけむりなどです。それを解決するにはやはりその工場のえんとつなどをかえるなどといったことが必要だと思いました。

これらのほかにも多くの問題があると思います。ですが、それにはちゃんと解決法があるのでそこらを考えていくのも良い事だと思います。

「子供とお年よりの住み良い町」

福島市立渡利中学校

庭山 聖 矢

「おはよう。」

「おはようございます。」

「雨の日に大変だね。気をつけて行つてらっしゃい。」

「はい。行つてきます。」

私の住んでいる町は、子供が少なく、お年よりがたくさんいます。だから、一歩外に出れば声をかけてくれたり、心配してくれたり、はげましてくれたりしてくれます。

小学生のころ、学校行事でお年よりの方々に、昔の遊びを教わったり、一緒に出かけでお弁当食べたりと、交流がありました。下校時には、不審者から子供を守るために、パトロール隊といって、下校ルートを車で回ってくれたり、一緒にお話ししながら自宅近くまで迷ってくれたりしてくれました。いつも私達子供を支えてくれます。

私が中学の福祉体験でデイサービスセンターに行った時のことです。足が不自由な方、耳が聞こえづらい方、色いろな方がいました。お年の方々とお話したり、車イスを押しして散歩に行ったり、一緒にゲームしたり、七夕のかざりを作ったりと色々な事をしました。その中で、お年よりの方々が何かしようとする度に、ヘルパーさんが常によりそい、声をかけていました。自分でやりたいくても体が思うように動かず、大変な思いをみなさんしていることがわかりました。

私達子供ができる事は何か。一番大切な事は、お年よりによりそい、やさしい心を育てることだと私は考えます。もつと交流する機会が増えれば、やさしく接することができ、どこかで困っているお年よりの方がいれば、自然に手をさしのべることができ、自然に手をさしのべようか。私達子供も接し方がわからず冷たい態度をとってしまった人もいると思います。手をさしのべて、断られたらいやだからと、何もできずにいる人もいるかもしれません。お年よりの方も子供と接した事がない方、接し方のわか

らない方がいるはずで。おたがい思っていることが分かれば、一番良いのです。ですから、交流することが大切なのです。みんながみんな同じ考えではありません。年よりあつかいするなど、怒る人もいるかもしれません。だから、交流して色々な事を知る必要があるのです。

子供とお年よりの方々が、同じ場、同じ時間を共有し、交流の場を増やすことが、住み良い町作りの第一歩だと私は考えます。

「子どもが元気な町を作ろう」

福島市立渡利中学校

佐藤 陽太

福島市の子どもが、元気になるには、まず外に出て遊ぶことが大切です。そのためには、子どもが外に出たくなるような物を作らなければいけません。ぼくは、子どもが遊びたくなるような公園を作ればよいと思います。家の近くに公園があれば、ひまな時に行きたくなるし、福島の子どもは、ふとりぎみなのでいっぱい遊んでやせる人もいるかもしれないし、運動が苦手だったのに、公園でいっぱい遊んで、運動がすごく上手になるかもしれないので、いいと思います。

ぼくも、たくさん外で遊んで、今はすごく運動が大好きです。ぼくは、小さい公園で行きたくなるような公園を、たくさん作ったほうがいいと思います。

「希望の町、福島」

福島市立蓬萊中学校

二階堂

隼

僕は、今回「福島市憲章」というものの存在を初めて知りました。まずこの「福島市憲章」というものについての感想なのですが、とても良いと思いました。この五つの事が実現されれば、子供からおとしよりまでだれもが住みやすい環境づくりができますし、とても人口が増えるでしょう。でも現実はこちらは行きません。僕が住んでいる蓬萊は、特に、タバコの吸いながら、ペットボトルのラベルのゴミが多いと思いますし、蓬萊は、抜道がとて多くおとしよりが買物に行くとき、坂が多くてとても不便だと思います。福島市全体を見てもゴミが多いと思うし、三年前の原発事故の影響もあり放射線などの有害な物もふゆうしているので市憲章の五つのことには、まだほど遠いと思います。

僕がとても良いなと思うものは、「子供

からおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」というものです。僕の住んでいる蓬萊は、とてもあいさつが多いまちです。小さな子供からおとしよりまでだれもがあいさつをしています。そして蓬萊は、おとしよりと子供たちの交流がとても多いのです。例えば中学校では、生徒が、老人ホームに行つて歌を歌うなどのことをして交流しています。僕は、蓬萊の良さを違う町や村に広めていければいいなと思います。

僕は、「絶対にこれはやったほうが良い」というものがあります。それは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というものです。福島市は全体をみても、比較的ゴミが多いと思います。蓬萊もとてもゴミの多いまちです。前にも話しましたが本当にタバコの吸いながら、ペットボトルのラベルが多いのです。僕は、月に何回かゴミ拾いの日を決めて、福島市全体をキレイなまちにしたほうがいいと思いました。

今回、僕が直した方が良くと思うと一つ出したのは、ごく一部であり、福島市は、もっと良くしていかなければならないこと

がまだまだたくさんあります。それと同じく、福島には良い所があります。そして僕は悪い所を良くして、良い所は他の地域にも、伝染して、福島市のみならず福島全体を良くしていったほうが良いと思いました。

「蓬萊から広げていく」

福島市立蓬萊中学校

小西 楓

私は、この蓬萊町のたくさんのみどりときれいな空、水が大好きです。私の家の前には桜の木があり、毎年、春にはきれいな桜を見ってきました。また、「蓬萊学習センター」という子どもからおとしよりまで、幅広く利用されている憩いの場があり、地域の人は、みんな仲良しだと思います。そのような憩いの場できまりを破る人がいないという事が、私には、とてもうれしいです。私も、「蓬萊学習センター」を時々利用するので、しっかりときまりを守り、周りの人に迷惑をかけないように心がけています。

このように蓬萊には、たくさんの良い所がありますが、その中でも私は、蓬萊中のあいさつは、とても良いなと思っています。登下校でも、あいさつをすると、地域の方はあいさつを返してくれるので、あいさつ

をして、良かったなと思えてきます。

その他に私は、蓬萊町の改善してほしい点も見つけました。

一つは、木が多かったり、入り組んだ所も多々あって、暗いという事です。下校時、部活動から終わって帰るとなると、とても暗く怖いです。また、途中からは一人になるという人もいると思うので、蓬萊町の安全のために改善した方が良いと思います。

もう一つは、不審者の多発です。蓬萊町は前に述べた改善点「暗い、入り組んでいる」というように危ない場所があるためか、不審者がたくさん出ているような気がします。小学校では、防犯教室というものもたくさん行い、不審者の恐ろしさを知りました。

しかし、私は小学生のころ、防犯ブザーをあまりつけていませんでした。ずっと使わないままで、音が出なくなったりしていたからです。中学校では、防犯ブザーはつけませんが、小学校で学んだ「いかのおすし」を思い出して日々、気をつけていきたいと思います。

この蓬萊中は、たくさんのみどりがあり、子どもからおとしよりまでみんな仲良く、そして、あいさつが素晴らしい町です。私は、これから、蓬萊町のあいさつをどこでも出来るように、福島に来てくださった人に福島のあいさつは素晴らしいなと思ってもらえるようなあいさつを蓬萊町から福島へ、福島から、もっと広い地域へ、福島市民として広げていきたいです。

「自然豊かな蓬萊町」

福島市立蓬萊中学校

瀧川 来夏

私の住んでいる蓬萊町は、親切な人がとても多く、空もきれいで自然豊かな町です。蓬萊町の良い所は、まずあいさつが良い所だと思います。

私達が毎日学校に行く時、帰ってくる時など、町の人達がいつもあいさつをしてくれます。それに返すあいさつをすると、町の人達は、とても笑顔で見送ってくれます。そうすると、私も町の人もとても気持ちがよく、よい一日を過ごせます。

二つ目の蓬萊町の良い所は、「ボランティア」をしている人がとても多い所です。毎朝、私達が学校に行くときに、歩きやすいように周りにおちているゴミをそうじしてくれている人がいます。

私は、その人達のようにそうじをしてくれている人達がいるからこそ、きれいな蓬萊町があるのだと思います。

次に、蓬萊町をもっと住みやすくするために直した方がいい所もあります。

まずは、「ゴミ」がいろんな所にポイ捨てされている事です。

川や、歩道などにカンやペットボトルなどが落ちているのを見た事があります。

その「ゴミ」を誰がそうじをするのでしょうか。誰かが捨てたゴミを自分がそうじすると考えると、少しいやな気持ちになります。

だから、ポイ捨てはいけない事だと思います。それに、川にポイ捨てもいけない事だと思います。もし自分が川に行つて、ゴミが捨ててあつたら入りたくない気持ちになると思います。ゴミは、そこらへんにポイ捨てするのではなく、自分のゴミは、自分で家に持ち帰るか、ゴミ箱に捨てた方がゴミは少なくなっていくと思います。

これまで書いてきた事は、中学生の私達にもできる事だと思います。

まずは、「あいさつ」では、朝学校に行くときなど何回でも、いつでもあいさつはできます。だから、大きな声で、笑顔であいさつをしていきたいです。

次に、「ポイ捨て」です。

遊びに行った時など、おかしなどを食べるとゴミが出ます。そのゴミは、ポイ捨てをせずに、次の人が使う事を考えて家まで持ち帰りたいです。

これらを、どんどん減らして行って、皆が住みやすい蓬萊町になっていけばいいと思います。そして、さらにより福島になることを願っています。

「私達の『蓬萊町』」

福島市立蓬萊中学校

安田 美羽

私は、今までずっと福島市民憲章というものを知りませんでした。福島市民憲章は、とても私達にとっても大切な事で、知らなかった事が少し損したようにも感じました。そんな福島市民憲章にもとづいて、私の住んでいる蓬萊町をもっともつと良くするために、考えていきたいと思います。

蓬萊町のいいところは、たくさんあります。一つは、あいさつがあふれているところです。理由は、学校の登下校の時いつもたくさんの方達にあいさつをされるからです。また、いろんな人達があいさつをしているのがたくさん聞こえるからです。

他には、思いやりがあふれているところです。ある日、私は、とても重そうな荷物を持ったおばあさんが歩いてるのを見ました。でも私には、急ぎの用があつて持つてあげることができませんでした。私は、

その後、おばあさんが気になって、後ろを振り返ってみると若い方が、おばあさんの荷物を持っていました。その時に、とても思いやりがあると感じたからです。

でも、改善した方がいい点もあります。一つは、ポイ捨てです。私は、公園にお菓子のゴミが捨てられているのを見た事があります。きつと、公園以外にも捨てられていると思います。

二つ目は、公共の場のルールです。学習センターで、さわがしい人達がいいます。周りの人は、迷惑をしているのに、おかまいなしに声をあげるの、公共の場では、とてもルールが大切なのだと思います。

三つ目は、電灯です。真つ暗の所に限つて電灯がない所があります。設置すれば、町の安全にもなると思います。

蓬萊の町には、良い所がたくさんあるものの改善点もいくつかあります。これらが改善されるためには、私達もできる範囲の事は行った方がいいと思います。

私達にできることは、ポイ捨てだったら、捨ててあるものをゴミ箱に捨てたり、公共の場のルールだったら、周りの人達に気を

つかい、暗い所があるのであれば、先生に相談したりと、できる事がたくさんあります。そして、これらの事は、いつも通りの生活に少しだけでも向き合ってみれば、自然と直っていくと思います。二人だけではなく、町全体の人達がそうすれば、蓬萊町の良い所がたくさん増えていくと思います。これからは私は蓬萊町を良くするために、できる範囲の事を行っていききたいと思います。そして、それが福島市をよくする第一歩になると信じて行動したいと思います。

「私達の明るい町福島」

福島市立蓬萊中学校

山根 茉菜

私は、今回はじめて福島市民憲章について知りました。その内容は、これから福島をもっと快適で明るく住みよい場所にするために中学生の私達が出る事や、福島に住んでいて感じている事を作文にまとめるという事でした。私が福島市民憲章という事があると知った時は、福島のことについて、もっと良い町にするために何ができるのかを考える事は素晴らしいと感じました。

そして私が福島に住んでいて思う事は、もっと自然がたくさんあり明るく親切的な町になってほしいという事です。

福島には、自然がたくさんある方だと思いますが、もっともつと緑が増えて花や植物なども花だんや道に植えられるようになっていくとこれからの福島が緑豊かな町になっていく様な気がします。緑を大切にしたり自然を増やしたりしていくためには、

一人だけの力ではなくたくさんの人の協力が必要だと思うので、全員が自然に関して興味を持ってほしいと思いました。

そして、町には空き缶などのゴミが捨てられていたりするのでそういう事も自然には、悪いと思うのでポイ捨てをする人が少しでも減る事を願っています。緑を大切にしていける事で私達が出る事とは、と考える時に思い浮かんだ事は、町に落ちているゴミを拾う事だと思いました。少しでも私達に出来る事があれば実践したいです。

蓬萊では、誰にでも明るくあいさつをしてくれる人が多いなあとは私は、感じていますが、もっともつとそういう人が増えていけば、明るく笑顔も広がり楽しく過ごせるのではないかなあと思っています。

私は前にお年寄りの人が困っていた時に大人の人が荷物を持ってあげているのを見た事がありました。その時に私を感じたのは、こういう親切な人が増えていけばみんなが快適に過ごしていけるのかなあと思った事と、私もこれから生活していく中で困っている人を見かけた時に親切にしてあげたいなあと思います、その大人の人から大切な事

を学びました。

それから、今は家族での会話が減っていると思います。会話は一人では成り立ちません。私は犬の散歩を母や弟と行きその時に色々話すとお互いの事がよく分かります。会話は必要で大切だと感じるので、みんな家族のコミュニケーションが多くなると良いと思います。

学校での学級も重要だと思います。毎日気持ちよく通学出来る様に一人一人が自分の事だけではなく相手の事も考えてあげられて、何かの時にはみんな力で力を合わせ頑張る事が出来るとこれから先、社会に出てもちゃんと対応出来る人になれる気がします。

これらの事を全員が心がけていきこれから自然も多くなって明るく思いやりある町になると良いなあと感じる事が出来ました。

「このまちのためにできること」

福島市立蓬萊中学校

関 根 侑里乃

私は福島市民憲章を知って、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というテーマについて考えてみようと思いました。なぜなら、福島をもっと良いまちにするにはひとりひとりが親切で優しい心を持つことが、絶対に大切だからです。

そのためにまず私にもできることは、明るいあいさつをすることです。蓬萊はたくさんのおいさつであふれているまちだと思います。私も中学生になってから、道で人に会った時などにはこのことを心がけています。昔はあまり自分からできていなかったけど、毎日を付けているうちに相手の人も明るくあいさつしてくれて、うれしいし安心できるということが分かりました。あいさつの輪がもっと大きくなり、蓬萊だけでなく福島全体に広がっていくことがより良いまちにするために必要なことの一つ

だと思っています。

そして「親切」という言葉で私は、病院でおばあさんに席をゆずった時のことを思い出しました。この時、おばあさんに「ありがとう」と感謝の言葉を言ってもらえたことは今でもうれしいし、ゆずることができて良かったと心から思えます。この気持ちを忘れずにまた地域の人たちに親切にしたいです。このことをたくさん周りの人に伝えていくことが私にできることだと思います。ゆずり合いなどの出来事は福島でたくさんあるものです。なので、これからも守って行ってほしいです。

これからの福島のためにしなくてはいけないことはこの他にもたくさんありますが、ずっとこの先もまちから緑が消えてしまっただけだとは思いません。空気がきれいであらゆるものも、水が汚れていないのも緑のおかげです。なので「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というテーマもとても大切なことです。ですが、私は学校への登下校中に、道に空き缶やティッシュが平気で落ちてのを見て、悲しくなりました。この自然を守っていくた

めには地域の人びと全員がポイ捨てはしないことだということを忘れずにいてほしいです。

空も水も空気もきれいな福島。親切な心と愛情であふれる福島。この言葉がこのまちはびつたりです。だからこれからもそんなまちでいてほしいので、私たちが大切にしなくてはいけないのです。この作文で私自身も福島の良いところを見つけられたので良かったです。

「私の蓬萊町」

福島市立蓬萊中学校

永 伝 ひなた

今回、福島市民憲章という言葉を初めて知りました。

私が考えたいテーマは三つあります。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」についてです。蓬萊町の良い所は、緑豊かで、空気がきれいなところ、車が少ないところです。これからも空気がきれいな蓬萊町でいたいと思います。

そのためには、私達一人一人が気をつけることが大事だと思います。私が道を歩いている時に、空きカンや、お菓子の袋などが落ちているのをたまに目にします。これも、一人一人がゴミを道に捨てずにゴミ箱にと意識すればきれいな町づくりができると思います。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」についてです。私は登

下校中、人とすれ違う時あいさつをするよう心がけています。私が「おはようございます。」と地域の方に声をかけると、地域の方も、「おはよう」とあいさつを返してくれます。私は、暖かい気持ちになります。あいさつを返してもらうと、あいさつをして良かったなと思います。これからも、元気のいいあいさつをしていきたいと思いました。

三つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」についてです。改善してほしいことが二つあります。

一つ目は、街灯についてです。部活が終わる頃には、もう外が暗くなってしまう。私は、途中で友達と別れて一人で歩く道があります。街灯があまりなく、足元が見えなくて怖いので、街灯をつけてほしいと思いました。

二つ目は、公共の場についてです。蓬萊町には、学習センターというみんなが利用できる施設があります。遠くの会場に行かなくても、劇やコンサートを蓬萊で見ることができれば、もっと気軽に小年寄りや小

さな子ども達も見ることができて元気になれると思ったからです。

蓬萊町の良いところ、改善したいところが見つかりました。私は、元気なあいさつ、ポイ捨て禁止の呼びかけをしたいです。

安全で暮らしやすい蓬萊町になれるように努力したいと思いました。

自分が住む町を大切に思うことで、もっとよい福島市になると思います。福島市は、自然が豊かで、果物がとてもおいしいです。これからも、私達一人一人の力で守っていきけるように、がんばりたいです。

「緑豊かなまちづくりのために」

福島市立蓬萊中学校

山崎 優子

私は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」について、ポイ捨てや放置自転車がなくなれば、もっと良いまちになると思います。

駅前などを見ると、きれいな花時計の脇にごみが落ちていたり、駅の隣に駐輪場があるにもかかわらず、自転車が置いてあるのがよく見られます。このようなマナーを守れない人が美しい景観を汚してしまっています。このようなことを無くするためには、ごみ箱を増やしたり、駐輪場の収容台数を増やすなどの対策を取るべきだと思います。その他にも、ポスターやチラシなどで呼びかけるのも良いと思います。

私は以前、自転車を一人で一生懸命整理している人を見かけたことがあります。私はその姿に感心しました。後で調べてみると、その人はボランティアで整理をしてい

ました。私は、自分でも自転車を整理することはできると思いました。

また、行動だけでなく、気持ちも大切だと考えました。市民憲章の三番目にある「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」にあるように、みんなが親切な気持ちをもつて、福島市を愛せれば、もっと良く、きれいになると思います。

私が以前住んでいた、森合地区では、小学校でアルミ缶やペットボトルを回収したり、毎朝犬の散歩をしながらごみを拾っていくおばあさん、更にボランティアで公園に花を植えたり、公園の掃除をしている人もいました。このような人に話を聞くと、みんな自分のことより森合地区がきれいになってくれるのがうれしい。他県からきた人に、福島にはこんなにきれいな場所があるのだと思ってもらえるだけでいい、と話していました。私は、この人達だけにまかせず、自分ができることをやってみようと思ひ、毎朝登校する時に、みつけたごみはなるべく拾うようにしたり、絵手紙コンクールなどで取り上げたりしました。すると、少しずつポイ捨てのごみが減っていくよう

に感じてとてもうれしかったです。このように、一人一人が福島市を愛する気持ちを持って取り組めば、少しずつでも良くなっていくと改めて実感しました。

これらの体験を通して、緑豊かなまちづくりのためには、まず一人一人が親切な、優しい気持ちをもって、自分のできることを一つずつやっていけば良いまちになると思いました。そして私達のような若い人が、住みよい美しい福島をつくるため、みんなを引っ張るリーダーとなれば、みんなの望む「美しい福島市」が初めて出来るのだと思えました。他人まかせにせず、これからも私達のできることを一つ一つ確実に行動に移していきたいと考えました。いつか出来る、みんなの望む「美しい福島市」の完成が楽しみです。

「きまりを守る私たちの街」

福島市立北信中学校

大 関 愛 花

私は、安全のためにつくられたきまりなどは、みんなが安全で健康に過ごせるようにきめられたことだから、一人一人がしっかりきめられた事を守れば、みんなが安全にくらせると思いました。

例えば、信号が赤になる時は止まることです。車なら黄色になったら止まる。歩行者なら、信号が点めついたら止まるなど、当たり前前の事だけど、このことは安全のためには、大事な事だから、守りたいです。

それと、自転車に乗る時はヘルメットを忘れずにつける事です。ヘルメットは頭を守ってくれるので、もし交通事故とかにあった場合に、頭が守られて、ケガをするだけで、済むから、夏の暑い日とかも、着けていけば、安心だから、ちゃんとヘルメットを着けて、自転車に乗ろうと思いました。それに、きまりは、他にもたくさんある

と思います。クラスの中のきまりだったら、友達とケンカをしない。や、みんなで助け合うことなど、いろいろあるけどどれも大切だと思いました。理由は、クラス全員で決めた事は、意味があって決めることだからです。

その他にもいろいろな、きまりがあります。私は、小さい時とかは、きまりがなぜあるのか分からなかったけど、大きくなっていくとだんだん分かるようになってきました。

それに、きまりがある理由は、みんなが安全で健康に働けるようにするためじゃなく、人と人の関係をよくするために、きまりはあるんじゃないかな。と、思いました。

例えば、さっきも言った通り、友達とケンカをしないようにすることがあります。でもやっぱり、友達と意見がすれ違ってしまった時は、ケンカをしちゃうから、ケンカをしないようにするのは、むずかしいと思います。だから、そのために、友達同士が相手の気持ちを考えて、思い合うことでケンカが少なくなると思いました。

それに、私も友達とケンカする時は、大体は、おたがいの意見がすれ違う時だから、私も友達の気持ちをちゃんと考えて、友達となるべくケンカをしないように、気をつけたいと、思いました。

そして、みんなと仲良くして、人によって態度を変えたり、人を外見で判断することもやらないようにしたいと思いました。

私は、これからも、決められたことを守って、楽しく生活できるように、きまりの意味を、ちゃんと考えていけるように、みんなと協力しながら、守っていききたいと思いました。

「よりよい福島を作るためには」

福島市立北信中学校

古川 真 秀

福島には、美味しい桃やすばらしい文化があるいいところですよ。一つ目は、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょです。しかし、僕の住んでいる近くには、すりかみ川が流れているのですが、毎年ボランティアでそうじをしたり、僕も何度か参加したことがあります、かなり多くのビンやあき缶のゴミが捨ててあり、また、学校へ登校する時にもゴミが捨ててあるのを見かけるのでとても残念でした。どうすれば、ゴミを減らすことができるのか考えた時に、まず一人一人が自覚を持ってほしいと思いました。またゴミを見つけたらすぐに拾うようにしていこうと思います。二つ目は、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょです。福島の文化の一つ、八月にわらじ祭りが行われましたが残念ながら僕は現場には行けずニュースでしか見

れませんでした。あのわらじを見ると、とても勇気がわきます。わらじは一つ一つ手作業で作られていると知った時は、とてもおどろきました。一体あのわらじは、どれぐらいの時間とどのくらいの人達が作っているのかと疑問に感じました。福島市には、とてもすばらしい文化があるということ色々な人達にもっと伝えたくまりました。また、僕達もその文化を引きついできていきたいと思います。三つ目には、親切で愛情あふれるまちをつくりましょです。自分も困っている人がいたら、積極的に声をかけてあげたり、手助けをできるような人になりたいと思いました。四つ目は、きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょです。これは、やっていいことと悪いことを区別し、メリハリのある生活をしたと思います。また、何事もみんなで協力し、楽しく生活したいです。五つ目は、子どもから、おとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょです。自転車で乗る時は、右と左と周りをよく見て、安全を確認することができてから移動したいと思います。また、毎日部活で体を動か

す生活をして、健康的で丈夫な体を作り、これからも休まず学校に通えるようにしたいと思います。今の福島市は、さまざまな問題を抱えています。それは、地しんで被害をうけたり、原発の事故の問題にあつてしまったということです。しかし、福島にはとても良い場所がたくさんあるということを知ってもらえたらと思います。そして、それをさらによくするためにボランティア活動や一人一人が積極的に取り組んでいくことが、よりよいまちづくりへの発展へとつないでいけるのではないかと思います。

事件などがおきない平和な福島を作るためにも、人のかかわりを大事にし、皆が支えあつて生きていける、思いやりのあるすばらしい福島を作つていけるように、ボランティア活動などを積極的に行つていきたいです。

「安全で健康なまちづくり」

福島市立北信中学校

長谷川 宥 太

ぼくがなぜ、「安全で健康なまちづくり」と言う題名にしたかと説明すると、まずおとしよりには優しくしようということですが。最初はなにをおとしよりたちにしてあげるかと言うところです。

ぼくには、今おじいちゃんがいます。いつも畑仕事をやっている、すごく優しいおじいちゃんです。おじいちゃんは暑いなか一人でせっせと畑仕事をやっています。しかしたまに、気持ち悪いかかるとかいつてくる時があります。そんな時ばかりは、だいたいぶとか水をくんできてあげたりします。

ぼくは、いつもがんばって畑仕事をしているおじいちゃんに、少しは体を休めてリラックスしてはどうでないかと、ぼくは思います。

これからも、おじいちゃんには健康な体

を保っていてほしいと思います。

次は、自分のおじいちゃん、おばあちゃんではなく身の回りのおとしよりの方たちはどうでしょう。

まず、おとしよりの方たちにおあいしたら「こんにちは」とかのあいさつや頭を下げて一礼するとかそう言うことをすればおとしよりの方たちは笑顔の顔でかえしてくれると思います。そう言うことが自分がおとしよりになってからすごくうれしいのではないかと思います。色々良いことが積みかさなるほど明るく美しい町ができてくつづけて行くと思います。

次に、おとしよりの方から目線をおとし自分よりも小さい子どもたちはどうでしょう。

まずは、安全のほうではどうでしょう。小さい子どもたちと言うのはまだあまり危険な所かそうではないか分からないことが多いです。そう言う所を見てしまったときは、しかってやるのはどうでしょう。小さいころから危険かそうではないと言う區別をはっきりおしえてあげればいいと思います。

次に、健康のほうではどうでしょう。

小さな子どもはどうでしょう。例えば夏の時に遊びに行くとして健康のことを考えてぼうしをかぶせたり飲み物を持っていかせると言うことをしてあげればいいんじゃないかと思います。

小さな子どもからコツコツまなばなければならぬことを、がんばっておぼえれば近い将来立派な大人に成長していく可能性が高いと考えられるでしょう。

やはり、小さいころから続けてきた努力を忘れないことが、必ず大きな力になると思います。

最後に、小さい時から分からないことが分かるようになれば大人になったときにやうにたつかもしれないし、またはおとしよりになってからやくにたつかもしれませんが、何でもかんでもあきらめずに行けばいいつでも安全に健康に生きて行くことができます。だから安全で健康なまちをつつよにつくろう。

「空気も水もきれいな町を

つくるために」

福島市立北信中学校

渡辺拓斗

今の世の中は、空気も水もきれいだろうか。もしかしたら、「きれいにしよう」と言いつつ、少しずつ、少しずつよごしているのではないか。ぼくは、今の生活を見直し、便利な世の中を保つまままで問題を解決する方法を、無理のない程度に考え、少しずつでもいいから、実行していくべきだと思う。

まず、空気をきれいにするためには、どうしたらいいだろうか。

最近、ほとんどの大人の人が、自動車を持つている。自動車から出る排気ガスも、空気をよごしている原因の一つではないだろうか。電気自動車やハイブリッドカーなどが開発され、少しは良くなっているが、それでも、普通のカソリンで走る車を持つている人の方が多いのではないか。たしか

に、自動車は便利で、移動速度も速く、快適だが、自分のいる場所の近くに行きたい場合は、歩いて移動したり、自転車で移動してもいいと思う。

例えば、自分の家から、歩いて一分ほどの店に行きたい時はどうだろうか。わざわざ車に乗り、エンジンをかけて、車で目的地に行くよりも、歩いて行った方が速く、空気にもよいのではないだろうか。

この例のように、すぐ近くの場所に移動したい時などには、なるべく歩いたりするように、一人一人が心掛けるようにすれば、空気はもつときれいになっていくと思う。

次に、水をきれいにするには、どうしたらよいか。

石けんや洗剤、調味料など、普段から使っているものや、川原に捨てられたゴミなども、水をよごしてしまっているのではないか。石けんや洗剤は、手や食器、服などを洗う時などに使われ、そのまま水といっしょに流している。また、ドレッシング、マヨネーズ、油などの調味料も、食器を洗う時などに、水といっしょに流している人が多いと思う。

川原のゴミは、水がよごれるだけでなく、その川原や川もきたなく見えてしまうので、とてもよくないと思う。

これらの原因による水のよごれは、浄水場できれいにするのが、だからといってよごしていいわけではないので、調味料を皿洗いの前にキッチンペーパーなどでふきとったり、自分で出したゴミは持ち帰るなどする方がいいと思う。また、ゴミ拾いの活動をしてもいいと思う。

ぼくは、この作文を書いて、空気や水のきれいな町をつくるためには、「自分は関係ない」や、「自分は大丈夫」とか、「だれかにまかせればいい」と思ったりしないで、一人一人が水や空気をきれいにしようと思えることが必要だと思った。

みんなで協力して活動すれば、町の空気や、水はもちろん、みんなの心もきれいになっていき、もつといい町になると思った。

「人を守るまちにしたい」

福島市立北信中学校

渡 邊 亮 介

僕は「親切」と「愛情」が、今のまちに必要だと思っています。福島市民憲章の中の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」について、先日考えさせられる出来事がありました。

夏休みに入つてすぐ、僕は買い物頼まれて、あるスーパーへ出かけました。そこで、小学二年生ぐらいの男の子が、小さな女の子の手をひいて店から出て来る姿を見ました。その男の子は、一本の傘で、女の子がぬれないようにしながらさし、手をつないで駐車場の横断歩道を渡っていきました。車が、横断歩道の手前で停まっていたのですが、その男の子は、横断歩道を渡った後、きちんと頭を下げました。すると、小さな女の子も、きちんと頭を下げました。停まっていた運転手のおじさんは、とつても嬉しそうに二人を見て笑っていました。

僕は、この日の出来事を、家に帰ってから家族に話しました。きつと妹の面倒見ていたんだらうけど、優しい男の子の様子を、家族の皆知つてもらいたかったのです。お父さんもお母さんも、「優しくて礼儀正しい子なんだねえ。」と言つてニコニコしていました。その時のお父さんとお母さんの笑顔を見て、駐車場の横断歩道で停まっていたおじさんと同じ笑顔だなと思えました。

人に優しくした時、優しくした人もされた人も、あたたかい気持ちになります。絶対に嫌な思いはしません。人に「親切」にすることで、僕はまわりの人達もあたたかい気持ちにすることができると思います。

小さな親切を、一人一人が心がけていけば、愛情いっぱいのもちになると思います。

僕はこれまで、「親切」や「愛情」ということについて、あまり考えたことがなかった気がします。今回のこのコンクールを通して「福島市民憲章」を考え、「親切」と「愛情」が最も必要ではないかと思えました。

誰かが困っていたら、親切に救いの手を

差しのべる。それは、小さな親切でいいのです。一人一人の小さな親切が積み重なって、愛情いっぱいのもちとなるのだと思います。笑顔あふれるまちになるのだと思います。

僕は、福島市はいい市だと思います。自然があふれて、優しい人達が多いからです。でも、今まで以上に、市民一人一人が「親切」を心がけて生活していけば、もつとつと福島市の未来は輝くと思います。

まず僕が、親切を心がけよう。愛情あふれるまちにするために。

「福島市民として」

福島市立北信中学校

池田光里

私は、平成十四年二月十七日に生まれました。その生まれた時から福島市民となりました。

私は、福島市民憲章というものをこの作文コンクールで初めて知りました。このことを知っているのがあたりまえなのか、わからなかったことが普通なのか家族で話し合いました。あまり作文が得意ではないのですが、私は、この福島市民憲章をもっととたくさんの人がわかるようになったらいいと思ったので作文を書くことにしました。

私の両親は、お父さんは宮城県で生まれて現在は、宮城県で勤務しています。お母さんは、福島市で生まれて、福島市で勤務しています。弟は、小学校五年生、まったく何もわかっていませんでした。お父さんに聞いてみると「正直言って、全然わから

なかった」と言っていました。お母さんは、「何

となく何かで見たような」と言っていました。

私は、福島市民なのに何でわかんないのか疑問に思いました。そこで話し合ったところ、

一つ目の空も水もきれいなまちとは、エゴを心がける。二つ目の教育と文化を尊び希望を輝くまちとは、公園か施設を活用する。三つ目の親切で愛情あふれるまちとは、大人が自覚を持つ、きまりを守り、力を合わせて楽しく働けるまちとは、しっかりとしたルールを定める。子どもからおとしよりにまで安全で健康なまちとは、生き生きと生活できるイベントを開催する。と家族で話し合って、出た意見です。中学一年生の私には、とてもむずかしいことなのですが、行政といわれるまちのことを考えてくださる人達をもっと私達一人一人にこの福島を大切にしようということが伝わるように働いてもらいたいと思いました。

私は、福島市民として、福島はとても良いところで、幸せに暮らしているところとがとても大切なことで、「福島市民憲章」を知ってもらおう運動をした方がよいと思

「『福島市民憲章』について

考えたこと」

福島市立北信中学校

六 戸 夢 都

今回作文の宿題がでて初めて「福島市民憲章」について知りました。「福島市民憲章」は5つの項目に分かれています。僕は、その中から「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」について書くことにしました。

福島にはたくさんさんの自然があります。僕は小さい頃、友達と外で遊ぶのが好きでした。公園で砂遊びをしたり、木登りをしたりしました。春は果物畑で四つ葉探しをして、夏には川に入って魚やザリガニをとったり、かぶと虫を採りに行ったりしました。秋は田んぼでイナゴをとりました。冬は阿武隈川に白鳥を見に行きました。雪が降ると「雪だるま」や「かまくら」や「すべり台」を作ったり、雪合戦をしたりしました。外で遊ぶことは楽しくて毎日暗くなるまで

遊んでいました。

ところが、二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災の後、外で遊ぶことをひかえるようになりました。友達も何人か県外へ引っ越したり避難したりしてしまいました。今までとつてもきれいだった福島空や川に原子力発電所の事故によって放射線量が高くなってしまったのです。砂遊びやかぶと虫採り、草花に触れることも出来なくなりました。好きなサッカーや水泳も外では出来なくなりました。とても残念でたいくつな毎日でした。空气中に放射能があるので線量を測るためにガラスバッチをつけて生活しました。このままずっと家の中で遊ぶしかないのかなと思っていました。

しばらくすると除染が始まりました。学校や公園を高圧洗浄したり表土をはいだりしました。通学路の洗浄や樹木の除染もしました。僕たちの体に影響がでないように、一日でも早く外で遊べるためにと市の方々ががんばってくれました。

東日本大震災から三年と少しが過ぎました。震災直後に比べたら大分昔の福島に戻

って来ていると思います。初めは福島に来ることをさけていた人たちも大勢いました。でも福島に住んでいる人が、自分たちのきれいなまちをとりもどすためにいろいろな努力をしてきたので「東北六魂祭」の時には県外からも観光客が来てくれました。お花見の時期には、「花見山」に訪れてくれる人たちもいます。「さくらんぼ狩り」や「いちご狩り」を楽しんでくれる人もいます。本当にうれしいことだなと思います。

僕は福島の「空」も「川」も「みどり」も大好きです。以前の福島をとりもどしたら、今度はそれ以上にきれいなまちにしていきたいと思います。きれいな自然を守るために、一人一人の意識して生活していきたいと思います。そして、たくさんの人たちが福島に遊びに来てくれるように、友達がまた福島にもどって来るように願っています。

「安全な町づくりのために」

福島市立西信中学校

山口 啓太

最近交通事故にあう人が増えてきています。特に小さい子供は道路にとび出してしまうことが多いので注意が必要です。僕も小学生の頃に、道路にとび出して車にひかれそうになりました。道路は危険な場所ですが、道路で遊んでいる子供も少なくありません。外で遊ぶときには、学校などの安全な場所で遊ぶほうがいいと思います。

また、自転車の乗り方にも注意が必要です。自転車の乗り方を間違えると、自分が車にひかれてしまったりあるいは歩行者のことをひいてしまったりする恐れがあります。自転車に乗るときには、ルールをしっかりと守り安全運転を心がける必要があります。しかし、高校生などある程度成長するにつれて、誰にも注意されなくなり、危険な運転をする人が多くなります。友達と話したり、携帯電話を見たり、音楽をき

たりしながらだと運転に集中できなくなるのでとても危険です。自転車に乗るときはルールで最も重要なことは、ヘルメットの着用だと思っています。自転車の交通事故のなかにはヘルメットをかぶっていれば助かった命があると思います。一日も早く自転車に乗るすべての人がヘルメットをつけてほしいと思っています。そのために、僕自身が手本となる乗り方をしていきたいと思っています。

ほかにも事故には車が原因で起こるものもあります。スピード違反や信号無視などのルールを守らないことが事故につながります。車で事故を起こした場合たいいてい車が悪くなります。運転をする人はもちろん、車に乗っている人全員が歩行者などに注意することが大切です。事故防止に努めることが安全な町づくりに必要なことだと思います。一人一人がゆずり合う気持ちを持ちばみぜんに防ごうことができる事故も多いはずです。

そして、地域住民が安全に生活できる場所の確保というのも大切なことだと思います。

例えば、子供達が自由に遊べる場所やお年寄りが談笑できる施設です。実際に僕らが住む地域でも、仮設住宅の設置のために公園が一つ無くなってしまうました。しょうがないと分かっているでも当時小学生の僕にはとても悲しいことでした。だからといって新しい公園が作られるわけでもなく普段友達と集まって遊んでいた場所がなくなってしまうました。地域住民がふれあうことができる場所の確保はとても重要なことだと思います。

今の福島市にこのような施設や場所が少しでも増えれば地域住民はさらにすくすく安心して安全な生活をおくることができると思います。

交通事故の防止だけでなく、人と人とのつながりを大切にすることが安全な町づくりにつながる第一歩だと思います。

「私の誇り、福島市」

福島市立西信中学校

阿部

葵

私たちが住んでいる福島市の良いところは自然が多く、優しさであふれているところだと思います。これは、この福島市に住んでいる福島市民だからこそ言えるのです。

東京や千葉など、人口も多く、たくさんのお店や施設がある都会。私は何度も都会に住みたいな、都会で暮らしたいな、と思ったことがあります。実際、小学校の頃、何度か東京に行って、普段乗ることの無い電車に乗ったり、福島では見たことの無いぐらゐの人ごみを通ったりして、楽しかったのを覚えています。でも、それと同時にここはみんなが楽しく過ごせる場所では無いのかもしれないな、と思いました。例えば、小さな子供、お年寄りの方、足や腰をケガしている人。小さな子供が人ごみに飲まれてまいごになってしまったら。お年寄

りの方が窮屈な電車に乗ってゆれた時に転んでしまったりしたら。考えてみれば危険なことがいっぱいあります。確かに東京などは福島に住んでいる人からしたら、とても魅力的な場所かもしれませんが。しかし、福島は東京に負けないくらい良いところだと思います。見上げれば、青く大きな空が見えます。まわりを見渡せば、春夏秋冬カラフルな山々が見えます。私が毎日通る、通学路ではゴミを見ることがめつたにありません。朝、地域の方にあいさつをすると、「いつてらっしゃい」と笑顔で返してくれる方がたくさんいます。私たちにとって、当たり前で日常的なことが、福島市民として誇れることでありこれから守っていかなければいけないことなのだと思います。

どうして、福島市の誇りを守りたいと思ったのかというと、毎日の学校の登下校が好きだからです。私の家は少し遠いので自転車通学で学校に通っています。朝の登校では、新鮮で快い風の中を通り、たくさん植物に囲まれた道を下り、学校へ行きます。部活が終わった後の下校では、暗くて少し肌寒い夜道を、それぞれの家から漏れ

てくる話し声や笑い声を聞きながら家へと戻ります。中学に入ったばかりの頃は怖くて仕方が無かった帰り道も最近では楽しみながら帰っています。福島に住んでいなかったら、こんな思いをすることも無かったのかもしれない。

この福島市を守っていく、これが私たちの使命です。木や花、草などの植物の命を大切にする、思いやりやあいさつを忘れないう、ゴミは無駄に出さずゴミ箱に捨てる、ルールやきまりを守る。私たちの小さな心が大きき力へとつながります。私が大いになつて、上京したり出世したりしたときに、「私、福島市出身なんだ！福島はすごく良いところなんだよ！」と自慢できるように、福島市の誇りを守り、受け継ぎたいです。

「安全に暮らせる良い町のために」

福島市立西信中学校

佐久間 斐葉

安全に暮らせる町は、事故、けがなく過ごせる町です。しかし、自動車や自転車の運転に注意することも確かですが、歩行者も注意をはらわなければなりません。

まず、自動車の安全運転についてです。自動車の事故で多いのは、飲酒運転、いねむり運転、信号無視などだと思います。運転をする責任は、とても大切です。自分の命も危ないのですが、他人の命まで奪ってしまうこともあります。最近では、バスが工事中のトラックに突っこみ十六人の人がけがなどをしてしまった事故がありました。バスに乗っている人々の命を預かり運転をしている責任が本当に大切なのです。運転手は、飲酒・いねむり運転予防に心がけるとともに、人と自分の命を大切に守ると思うことが必要となってくるのではないのでしょうか。

次に自転車の安全運転についてです。自転車は知っている通り車と同じあつかいです。自転車の事故で多いのは、ヘッドホン等の使用運転、飛び出し、ヘルメット不使用、片手・両手を離しての運転です。小学生でも面白がつて片手・両手を離しての運転をしている姿がよく見られます。ましてや私の家の周りは大型トラックがよく通ります。スピードをとばしてくるので、飛び出してしまつては大変です。また、その片手運転などをしてしているとバランスをくずしてけがや車と衝突してしまいます。私達中学生も大人も小学生も、周りに気を配りつつヘルメット着用、両手運転に心がけることが大事だと思います。ヘルメットは、頭への衝撃を少しでもやわらげるものなので必ず着用したほうが良いのではないのでしょうか。

最後に歩行者の安全についてです。歩行者が事故にあうのは、車や自転車が原因のケースが多いですが、それだけではありません。歩行者でも、歩行者用信号の無視、曲がり角からの飛び出しがあり車が通っているのに横断歩道を渡つたり、確認せず、

大きな道路に飛び出して車にはねられてしまったなどという悲惨なことになってしまいます。このようなことが起きないように歩行者用信号のルールを守り、左右を確認してから渡ることが大切だと思います。

このような事故だけではありません。お年寄りへの気遣いはどうでしょう。自転車に乗っている人の中には歩行者優先ではなく、自転車優先という人も少なくないと思います。そのため、お年寄りがけがをして病院で入院になってしまつたり、時には命を落とすということもあります。自動車も一緒です。自動車にぶつかつて無事だった人、そうでなかった人とわかれます。そんなことにならないよう「気遣い」というのは大切なことです。

安全に暮らせる良いまちのために、努力できること協力できることを実行したいと思います。

「福島環境について」

福島市立西信中学校

加藤 駿 弥

ぼくは、福島環境がすごくキレイだな
と思いました。ぼくは、最初埼玉に住ん
でいて福島の事はあまりわからなかつたけど
5年生になって福島に住んでるおばあちゃん
の家に引っ越すと、埼玉の景色とは違っ
ていてキレイでした。吾妻小富士などがあ
って、埼玉で見れた富士山と少し似てたの
です。いいなと思いました。よくおばあちゃん
と四季の里の横にあるダムに散歩に行っ
たりしました。そこは水もキレイでたまに
タヌキなどもいました。埼玉は川はあつた
けど福島のように山がいっぱい見える場所
はあまり無いのです。すごく良いなと思いま
した。ぼくの家の前にも金剛山という山があ
ってそこにはぼけふうじというものがあつ
て、ぼけをふうじる事ができるといわれて
います。最近行かないけれどこの前まで
は祭りがある時などに良く家族と行ったり

しました。その時にバラバラに神様の像が
あつて順番にお参りして行きました。金剛
山の囲む木が季節によって変わっていて紅
葉の時期になるとその木が赤だったり緑だ
ったり色々な色になってとてもキレイで
す。家の前にビッチリ全体が見えるので写
真などを撮って楽しんだりしました。四季
の里でのオススメは、四季の里には、焼肉
屋がありその横に丸い円になっている草な
どがあります。それは、ただの草ではなく
それは、花で季節ごとに変わります。ラベ
ンダー、チューリップ、ガーベラなどに
変わります。そこも写真を撮ったりしま
す。ぼくは、埼玉に住んでいた頃あまりそ
ういう花を見たりする四季の里や季節毎に
木の色が変わる金剛山が無かつたのでちょ
っと残念だったけど福島は色々な金剛山や
四季の里がありすごくキレイで良いなと思
いました。福島に来て思ったのは、自然が
多くて、見晴らしがすごく良いと思いまし
た。福島県の県鳥であるキビタキがいて初
めて見たのです。すごい感動しました。おばあ
ちゃんの家も自然の仕事をしていて早朝見
ると日が木に当たってすごいキレイで空気が

もおいしいです。冬になると家の前は雪で
25cmくらいつもる時があります。その時も
木も白くなってキレイです。とにかく福島
の川がキレイでよく家族で川へ散歩に出か
けたりしました。あづま体育館の先にある
公園の小さな川がとてもキレイで良かった
です。東日本大震災があつてあつた所が無
くなつたりしたのでちょっとショックだつ
たけどこういう水がキレイな所だつたり、
木がいっぱいある所だつたりする所を見
ると少しほっとするし、震災前の気持ちにな
れるので福島は良いなと思いました。まだ
避難してる人もいて自分の故郷に戻れない
悲しさがわかつて来た気がしました。ぼく
は、四季の里や、金剛山、公園など自然が
たくさんあるところがすごく良いなと思つ
たし、これからもこのままの状況でもっと
良くなつてほしいなと思いました。これか
ら頑張りたいたいです。

「空も水もきれいな福島市」

福島市立西信中学校

六 戸 陵 真

僕達福島市民が住んでいるこの福島市は、緑が多い事で有名です。今回、市民憲章作文という事で、市や市民の良い所を探りますが、今回は自然について注目してみよう。

まず、僕が通っている西信中学校の周辺は、自然が豊かで、すがすがしい場所です。自転車で何分か走れば、トリムの森に行けますし、考え事をしている時や、ストレッチがたまっている時は、いつでもリフレッシュする事ができます。また、天然水がわき出る所もあるので、身近に自然を感じる事ができます。それに加えて、野生のクマも出ぼつする時があるので、危険な一面もあります。

さて、今までは周辺の地域の良い所を紹介してきましたが、ここからは福島市全体を見てみましょう。

福島市は四季が豊かで、季節によって旬の味覚や自然を楽しむ事ができます。

春は花見山に様々な花が咲き乱れ、家族みんなで花見を楽しむ事ができます。夏は、山々が緑で埋めつくされ、きれいな風景画を見る事ができます。それに加え、農家の人達が愛情を込めて作った夏野菜を食べる事もできます。秋は、山全体がオレンジ色一色に染まり、見事な紅葉が見られます。水田もこがね色に色づき、新米の季節がやってきます。冬になると、足もとが埋まる程の雪におおわれます。一夜明けるとそこはもう銀世界なので、雪遊びをしたい子供達には最適かもしれません。

では次に、少し離れた市街地へと目をうつしてみよう。

市街地には、これといって環境を汚すような大きな工業地帯や工場はありません。なので、環境を汚さずにきれいな街をつくる事ができるのです。また、今まで僕が見たところゴミのポイ捨てをしている人やされている場所は、ほとんど見た事がありません。それどころか、ペットボトルのキャップを回収したり、学校行事で資源回収を

したりと、エコ活動をしたりしています。僕は、このような自ら活動をする事によって、どんどん変える事ができるんだなど改めて思いました。

ここまでは地域の良い所を紹介してきましたが、次は水について目を向けてみましょう。

この西信中学校のもっと奥にある佐原地区や土湯地区は自然が豊かですが、自然が豊かという事は水もきれいです。

この近くでは、わき水などの天然水も探せば見つける事ができます。飲んだ事はありませんが、自然が豊かなので、きっとこのような天然水もおいしいと思います。

それでは、ここままで福島市の自然の良い所を紹介してきましたが、他にも良い所はたくさんあります。この、良い所をこの先の未来にもつなげていけるように、小さい事から起こしていきたいと思えます。

「福島ofきれいな自然」

福島市立西信中学校

佐々木 まゆ

福島市はとても自然豊かで、緑の多いところだと思います。

緑といえば、緑の羽根募金が行われています。私は、六年生のとき駅前緑の少年団としてボランティアをしたことがありました。その日は悪天候だったのでですがたくさんの方が福島の緑を守ろうとして、募金活動に協力してくれました。私も福島の自然が好きですが、福島の人はみんな福島の自然が好きで、きれいな福島の自然が減らないように守りつつも増やしていってるのかなと思います。

緑のほかにも、荒川の水がきれいなものもいろいろな人が守っているからだと思います。例えば洗剤などでよごれてしまった水を流すとすぐに川の水がよごれてしましますし、ゴミなどを捨ててしまうと空気がよごれてしまうので一人一人が気をつけない

といけません。福島のきれいな自然を守るための努力を続けているからこそ、自然が守られているのです。

以前、私は祖父から、山にできる「雪うさぎ」についておしえてもらいました。冬になって積もった雪は、五月になり気温が上がってくると少しずつとけていきます。少ししか積もっていないかたところは自然と雪がとけて山はだが見えます。雪の深いところはとけるのがおそく、残った雪の形がうさぎの形に見えます。雪うさぎは自然がつくり出したものだと考えると、すごいと思います。それに、雪うさぎはまたまできる光景なのではなくて、毎年見られるから不思議です。

ほかにも、少しは人工のものです。花見山などもあります。花見山は初めは人の手によって種を植えたけど、種を植えたからといって、必ずしも芽が生えるとはいえないので手間がかかったと思います。それに、芽が生えた後も大変だと思えます。手入れするのも大変な作業の一つだと思えます。

福島市でフルーツがたくさん穫れるのも豊かな自然が関係していると思えます。自

然環境がよくなければおいしい食べ物も穫れないと思えます。今、福島が、果物王国と呼ばれているのは、農家の人達の熱意はもちろん、福島盆地ならではの気候や山から流れてくる雪どけ水のおかげなのだと思います。

最後に、福島のきれいな自然が今あるのはもともとの恵まれた自然を、地域の人が守ってきたおかげだと思います。

今こそ観光名所となった花見山も、初代阿部伊勢次郎さんが「雑木山を花の山にすれば美しい山になる。」と花を植えたことがきっかけだったそうです。自然を守るために何よりも大切なのは、福島の自然が好きという気持ちなのではないかと私は思います。

福島には、もっといろいろすてきなところがあると思うので、これからも探していきたいと思えます。そして、私も自然を大切に守っていきけるような人になりたいと思います。

「みどりのきれいな町を目指して」

福島市立西信中学校

阿部 裕斗

僕は、みどりのきれいな町をつくるには、ポイ捨てを無くさないといけないのではないかと思います。

ポイ捨てが無くなれば、環境破壊も無くなり、大気汚染などの環境問題も完全に無くなると思います。

ポイ捨てを無くすには、ゴミ箱を公園やコンビニなどに設置したり、ポイ捨て防止のポスターをはったり、看板を設置すれば、ポイ捨てをしないといけないという事を意識してもらえらることをすばいと思います。

ポイ捨ての他にも、環境を破壊してしまう事はたくさんあると思います。

料理で使った油を川に流したり、虫や動物などの生き物を殺してしまったり木を切り過ぎてしまうことなど身近な事で環境を破壊してしまうと思います。

このような事を改善するためにリサイクルをすばいと思います。

料理などで使った油は、地域で集めて油が燃料のバスや自動車に使用する。虫や動物などの生き物を殺さないようにタバコのけむりを出さないようにしたり、大気汚染の問題を無くせばいいと思います。また、木を切り過ぎてしまわないように、なるべく切らない方がいいと思います。木を切り過ぎてしまうと土砂くずれなどの自然災害も招いてしまうのではないかと思います。空も水もきれいにするには、ゴミを分別して出して汚染物質を出さないようにすることや、生ゴミは土に穴を掘って埋めて肥料にすることが出来ます。

みどりに影響を与えてしまうのは、自動車の排出ガス、工場から出るけむりなどがあります。

また、今は地球温暖化が問題になっているので、福島のためだけではなく世界のためにもなると思います。

今では、再生可能エネルギーを利用するなどといった、二酸化炭素の排出量削減に向けたさまざまな取り組みがなされている

そうです。また、間伐や植林を行うなど、山林に計画的に人の手を入れることによって、森の保水力を高める取り組みなどもされているそうです。

全国でいろいろな取り組みがされています。

植林活動などの活動を福島市民でやったり、ゴミ拾いや植物の栽培をやり、みどりをなくさず増やしていく活動をしていけばいいと思います。

これから先、十年、二十年、三十年のことも考え、今からでも福島市民全員がこのことを意識すれば、きっとみどりの豊かなきれいな町づくりができて、福島市のご自身が自慢できるようになる日がいつかくるのではないかと思います。

「安全で安心な町を目指して」

福島市立西信中学校

二階堂 未夢

私は、よく報道番組で事故に関するテレビをみます。実際に私達の中学校でも三年前に事故で亡くなった先輩もいます。また、最近では、小学生の女子児童が殺害されてしまったというニュースが印象的でした。このように毎日たくさんので事故や事件などがおこっています。「私は事故なんて絶対あわないから大丈夫」と思っている人もいるかもしれませんが、でもそんな考えを持っているのはいけないと私は思います。事故は皆が気をつけたり、事故にあわないように心がける事が大切だと思います。また、事件などをおこさないために安全な場所、安全な町をつくらなければならぬと思います。

安全な町をつくるためにどうしたらよいのか、私はまず皆が安全な町をつくろうと思わないことには、何もはじまらないと思

います。そして、自分にとって安全な町をつくるために出来る事はないのか考えることが大切でないかと思います。例えば、ジュースなどを飲んだらジュースなどの缶は絶対にポイ捨てしない、またたばこを吸う人は、吸ったらそこらへんに捨てず、自分の灰皿に入れるなどそれぞれにあった事をする事が大切だと思います。また、なんでポイ捨てをしてはいけないのかと考える事も大切だと思います。例えば私だったらポイ捨てした缶をもしもお年寄りがふんで転んでしまったら、吸いおわったたばこを小さな子供がむやみにさわったり口の中に入れてしまったらと考えます。このように町をきれいにしておく事も安全な町づくりにつながると思います。

安全は、事故や事件などが全くないことだとも私は、思います。事故というと私はよく交通事故を思い浮かべます。例えば、小学生が車にはねられたなどだいたい、私たちが子供が被害者になることが多いですがなかには、私たちが子供が加害者になってしまった事故もあります。このように私たちも被害者だけでなく加害者になること

もあります。被害者や加害者にならないためにも、私たちが交通のルールを見直す必要があると思います。また、私たちのような子供だけではなく、大人たちも交通ルールを見直す必要があると思います。

このように、安全な町づくりをするには、子供だけでなく大人たちも皆、安全な町をつくろうと心がけ、自分出来る事をする事が大切だと思います。また、他人の事を思いやり、例えば電車やバスなどで席がなくて困っているお年寄りに積極的に席をゆずるなど、自分もうれしい気持ちで、ゆずってもらった人もほっと安心できるような安心・安全な町づくりもとても良い事だと思います。

子供からお年寄りまで安全で安心な町を目指しましょう。

「安全で健康なまちを目指して」

福島市立西信中学校

半 澤 絵里夏

私は、交通事故のニュースを見るたび、なんで交通事故は起こるのだろうと思います。交通事故は、いきなり道路にとび出したり、運転手のよそ見、飲酒運転、などの気をつけようと思えば防げるような原因が多いです。なので、子どもからお年寄りまで安全に過ごすためには、交通ルールを守ることが大事だと思います。

まず、いきなり道路にとび出さないこと。横断歩道ではないところはもちろん、横断歩道をわたるときでも、右左をよく見て、車がきていないことを確かめてからわたることが大切だと思います。

それと、横断歩道がある場合は、横断歩道ではないところではなく、横断歩道をわたること。そのほうが安全だと思います。

次に、標識をよく見ること。止まれの標識があるところでは、必ず止まる、歩行者

と自転車を書いてある標識があるところでは、自転車も通って良いけど、歩行者優先にする、など標識をよく見ることも大切だと思います。

そのほかに、自転車はかさをさしながらや、携帯を見ながら、などで運転をしないこと。かさをさしながらや、携帯を見ながらだと、前が見えなくて、歩行者にぶつかって、けがをさせてしまったり、電柱や車にぶつかって、自分がけがをしてしまうことがあるかもしれないので、絶対にだめだと思います。

次に、交差点を曲がる時のこと。右折するとき、信号機のある交差点では、交差点の向こうまでまっすぐ進み、その地点で止まり、右に向きを変え、前方の信号が青になったら進む。また、信号機のない交差点では、後方の安全を確かめ、道路の左端を向こう側までまっすぐ進み、十分速度を落として曲がる。それと、左折するとき、後方の安全を確かめ、道路の左端に沿って十分に速度を落とし、横断中の歩行者の通行を妨害しないよう注意して曲がる。この交差点を曲がるときに気をつけることをし

っかり覚えていたほうが良いと思います。

最後に、自転車に乗るときには、ヘルメットをかぶるとのこと。ヘルメットをかぶっていれば、事故にもしあつたときに、頭を守ることができます。ヘルメットをかぶるといことは、小さなことに感じますが、命を守るとても大事なことだと思います。なので、自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶるといことを、もつと呼びかけたほうが良いと思います。

私が交通事故をなくすためにできることは少ないと思います。なぜなら、交通事故は一人一人が交通ルールを守らなければならぬと思うからです。なので、一人一人がルールやきまりを守り、交通事故のないまちにできるように、わたしにできることを少しでもやっていきたいです。

「みどりのまちは心から」

福島市立松陵中学校

細野 花莉

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」私は、この福島市民憲章に特に興味を持ちました。理由は、実際福島の状態はどうか、と思ったからと、お父さんが環境課なので環境について気になったからの二つです。

そこで、福島市の現状はどうか、と考えてみました。雄大な山々が広がり、きれいですき通った川が流れ、おいしい果物もたくさん実る。大きく全体を見てみると、福島は自然豊かな「空も水もきれいなみどりのまち」です。しかし、もっと細かい所ではどうか。私は家の周りや通学路などを思い返しました。広い田が広がっていて、虫の声も聞こえ、花も咲いています。山々も広がっていて、とても自然が豊かです。でも、その横には、ティッシュのごみ、ジュースの入っていたプラコップ、

コーヒーの缶などが落ちていたりあります。公園にもごみが残っていたこともあったし、手入れのされていない森林もあります。これで「きれいなみどりのまち」といえるのでしょうか。このような身近なところを変えていかなければ、自然が豊かでも、なかなかこの市民憲章には近づけないと思います。

では、どうしたら近づけるのか。私は、環境課で働いている父のことを考えました。私の父は、市内の川に油が流れてしまった時、調べに行きます。福島の自然を大事に、そしてきれいにしようという努力している人達がいる。油が流れてしまったことは残念だけれど、こうして福島をよりよくしようとする人がいること、そしてその気持ちがあることは、とても素晴らしいことだと思います。

そこで私は、福島を変えていくには市の取り組みも大切だけど、市民一人一人の「心」がもっとも大切なことだと気付きました。いくら市が頑張っている、一人一人が真剣に向き合わなければなかなか近づけない。みんなが「捨てたって私は困

らない」「ちょっとくらい大丈夫」「私がかたがた変わらない」そう思っていたら、福島は変わらない。一人一人が自然や人思いやる心を持ち、小さなことから努力して積み重ねていく事が大切だ。そう思いました。

この「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という福島市民憲章は、福島市から県へ、県から全国へ、そして世界へと伝え、そして広げなければいけないものだと思います。市民一人一人の心から、きれいなみどりのまちをつくらせていき、そしてそのみどりのまちを広く発信していければいいと思います。

「親切で愛情のある福島へ」

福島市立松陵中学校

菅野 由莉奈

私は、今まで「福島市憲章」を知りませんでした。今回「福島市憲章」を知り、私が一番印象に残っているのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という言葉です。

私は、松陵中学校に入学し、あいさつはすごく大事な事だと学びました。毎朝、地域の人や学校の校門に立っている生徒会や先生に「おはようございます。」とあいさつをしています。地域の人も、あいさつをしてくれるので、「あいさつ」という小さな事でも、コミュニケーションが広がり、あいさつによって、明るい福島に一步步けるのだと思います。東日本大震災から三年が経過しようとしています。震災によってうばわれた笑顔を取り戻せたのも、助け合い親切にしてくれる方々がいたからだと思います。親切にしてくれた人たちのた

めにも、恩返しできたらいいなと思いました。一番大切なことは、相手に対する「思いやり」だと思います。例えば、バスや電車などで、いすに座れないお年寄りや障害を持つている人に、席をゆずったり、困っている人にまずは、身近な所から実行して、手をさしのべて、声をかけたりすると、親切さや愛情が感じられるのかと思います。一人一人が進んで思いやりのある行動をとれば、自然と親切で愛情のある福島になっていくと思います。福島以外に住む人たちには、まだ風評被害は残っており、残念だと思います。福島のイメージが悪いのですが、福島の食べ物や検査されているので安全だということをもっと、アピールしなくてはならないと思います。そのためには、世界に福島市の農家の人たちの思いをもっと伝えるべきだと思います。私の家も農家なので、風評被害のつらさは、まのあたりにしています。食の安全性を世界にアピールできたなら、農家の人たちへの親切心が生まれると思います。

私たちにできることは、小さいことかもしれませんが、一人一人が同じ気持ちを持

つことにより、大きな力になると思います。私たちには、「福島市憲章」という、すばらしいものがあるということを一一人一人が心に思い、行動にうつし、親切で愛情のある福島に向かって、いきたいと思います。

「安全で健康な福島市にしよう」

福島市立信夫中学校

佐藤 未優

今の福島市をもっと良くしていくために、私は三つの事を実行したらいいと思います。

まず一つ目は子供からお年寄りまでが安全に暮らし、楽しく暮らせるように横断歩道を危険な場所につくったりすることです。私はお母さんと車に乗って出かけてる途中、横断歩道のない道路をわたっているお年寄りを見たことがたくさんあります。その度に危ないなあと思っていたので横断歩道を増やせば少しは安全になると思います。また、お年寄りは歩くだけでもゆっくりなので道路をわたるのは本当に危ないと思いました。

二つ目は子供の通学時間などの危ない場所中心に大人の人が立ち交通規制を行うことです。子供の通学する時間帯は仕事への通勤の時間と同じぐらいなので、車が多い

と思います。私も小学生の頃、通学の時は車が多くて危ないと感じる事があったからです。大人の人が立っている事で車に乗っている方も通学する子供も安全になり事故が防げると思いました。安全な福島市にするためにこの二つをぜひ実行してほしいと思います。

三つ目は健康に暮らしていくために地域の人でラジオ体操など運動を行うことです。子供は運動する習い事に入っていたり常に、体を動かしているけれど、お年寄りはなかなか外に出て運動をすることは無いと思います。週に一度だけや、二週間に一回でも子供からお年寄りまで楽しく運動すれば健康な体になると思います。元気に運動して健康にいつまでも長生きしてほしいです。私が小学生で九州に住んでいる時、夏休みにはラジオ体操を地域の方々と行っていました。その時は、やっぱり楽しかったです。だから、一つの楽しみでした。運動すれば楽しいけど、かぜや病気にかかることも少なくなると思うので、やってほしいと思います。

私は、この三つの提案を実行すれば今の

福島市がもっと良くなると思います。私もこの三つが実行できるようにできる限りの事はやっていきたいです。特に、安全に通学するために交通規制を行うとしても横断歩道をわたる私達も気をつけなければなりません。交通規制を行っている大人の方にたよるだけじゃなくて、自分でも身の回りを確認してから横断歩道をわたるようにした方がいいと思います。自分の町は、その町の人が良くして最高の福島市になるようにがんばっていききたいです。

「笑顔あふれる福島へ」

福島市立信夫中学校

佐藤 怜

私が福島で良いと思うところは、子どもからお年よりまで快適に暮らせるところです。福島の施設には、スロープや段差のない道などのお年よりのことを考えたところ、遊具などが安全に丸くなっている子どもものことも考えたものがたくさんあります。

私が経験して、さらに福島の良いところをもっと発展させるための考えがあります。

一つ目は、エレベーターのボタンです。車いす生活のお年よりが、手がとどかなくて苦ろうしているのを見たことがあります。そこで、低い所にもボタンをつくるのもっと良くなると思います。

二つ目は、道や道路に落ちているごみです。ごみ箱に捨てずにそのへんにポイ捨てをする人をたまに見かけます。ごみが落ち

ていると健康にも安全にも害があります。だから、福島をきれいにするクリーン活動や、ポイ捨てを減らすためにポスターで呼びかけるなどがあると良いと思います。

三つ目は、安全なものについてです。小さい子やお年よりが使うものには、まちがって食べてしまったりしても害のないものを使いだれでも安心して使えるようにしたら良いと思います。

三つ目は、見守り隊の数です。だんだん見守り隊の数が減少していると聞いたことがあります。小学生などが安心して登校・下校ができるように保ご者の人が交代で立つなどしていくと良いと思います。

四つ目は、歩道の明るさです。だんだん秋に近づいてきて、下校のときにとても暗くて危険になってきました。そこで、えんせきがひかるようにする、電柱や建物もひかるようにする、小学生に持ちものにはるシールを配するなどをして、暗いときでも安心して下校できるようにすると良いと思います。

私は、これからの福島への願いがあります。それは、今よりもより良い福島になり、

だれでも快適に生活できるように、さらに発展することです。お年よりのかたが不自由なく生活できる、子どもたちがのびやかに安全で健康に学び生活できる、保ご者のかたが安心して子どもを遊ばせることができ、目や耳、体の不自由なかたが快適に楽しく生活できる、そんな福島市になればいいなと思っています。

そして、福島に住んでいるすべての人が笑顔になるように願っています。

「福島市民憲章を広く伝えよう」

福島市立信夫中学校

山本 愛莉

私は、福島市民憲章のきまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましようについてこうなるといいなという願いが三つあります。

一つ目は、きまりを守りということですが、私は、通学中に自転車でななめに横断をしたり、自転車は左側通行なのに右側を走ったり、人も右側歩行なのに左側を歩いたりしているのをよく見かけます。このようなきまりを守っていないということは事故もおこります。事故をおこさないためには、福島市民憲章にもあるきまりを守りということがとても大切になってきます。きまりは、交通の他にもたくさんありますが、私も事故をおこさないためにも一つ一つのきまりをしつかり守り、朝の登校、帰りの下校そして普段の生活からきまりを守っていききたいと思います。

二つ目は、力をあわせてということですが、

私が思う力をあわせては、みんなで協力するということと同じだと思います。理由は、みんなが協力すれば地域のイベントの準備や地域の美化作業もあつという間に進み、例えば一人ではできないとても重い荷物運びや草がたくさん生えていて一人ではむしれそうもない場所もみんなで協力すれば重い荷物も運ぶことができるし、草むしりも早くそしてきれいにやることができます。

この例の他にも、力をあわせて（協力）してでは、できないことがもつとたくさんあると思います。こまっっている人がいたら進んでお手伝いをし、協力しあっている、福島市の人ももつと、もつと力をあわせて、今まで以上に楽しくて、住みやすい福島市にしていってほしいです。

三つ目は、楽しく働けるまちをつくりましようということですが、楽しく働けるということは、力をあわせたり、同じ職場の人と仲良くしなければなりません。私は、こそこの信らい関係があるからこそ、こまっした時や手伝ってほしい時に人に物事をたのめるし、たのまれるのだなと思います。

力をあわせて楽しく働けるまちをつくるためには、人と人との『コミュニケーション』が、とてもだいじだと思います。大人も子供も『コミュニケーション』をだいじにして生活してほしいです。

私は、福島市民憲章の一つ一つを福島市民に広く知っていただき、しつかり理解し、実行にうつして行ってほしいです。そして、福島市のまちづくりにも活用してほしいと思います。

「挨拶から笑顔あふれる

福島をつくろう」

福島市立信夫中学校

木村 涼花

私は、いつも心がけていることは、誰にでも、笑顔で大きな声で挨拶をすることです。

例えば、近所の人に会うときや、学校の先生や先輩、友達に元気に挨拶をすると、みんなも笑顔で大きな声で挨拶を返してくれます。でも、私が挨拶が小さいとみんなも挨拶が、小さくなります。なので、私はいつも挨拶する声を大きくしています。

信夫中学校には、良い伝統があります。それは、挨拶運動です。毎日、朝の登校の時と帰りの下校の所に先生方がいます。とくに、朝の挨拶運動には、生活委員と生徒会の人たちが校門の前に立ち、挨拶をしています。信夫中学校では、このような取り組みをし、生徒一人一人が挨拶が出来るようにしています。

私は、そこから笑顔が生まれ、福島のみんなで、気持ちの良い挨拶が産まれたら、すごくうれしいです。みんなで、挨拶プラス笑顔が作れたら、とても良い福島になります。なので、市民一人一人が快適に明るく住みよいまちにするには、まずは挨拶から取り組んでいけたら良いと思います。

そのためにも、みんなが協力して、「明るい福島を作ろう！」と心がけるために、呼びかけや、ポスターなどを活用し、一人一人が心がけていけたらとてもうれしいし、もつともつと福島が良いまちになると思います。

私も、これからも挨拶や笑顔を忘れずに、このことを、これからもつづけていきたいし、始められたらいいです。

なので、そのためにも、私は、市民の一人として、福島のことを、応援していただけるうれしいですし、福島県の人たちが協力し、変わっていったらうれしいです。

いつも笑顔な人が、私は大好きです。福島県の人全員が、笑顔になれば、他の県の観光客などが多くなり、「福島県は、いいところだなぁ。」と言われ福島県は有

名になると思います。福島県は良いところがいっぱいあるので、またそれに、「笑顔」をプラスすると、もつともつと良くなると思います。

福島県が、もつとよりよくなることを、私は願って、いつも、笑顔を忘れず、福島県の一人として、市民のみなさんと一緒に、協力できたらうれしいです。

福島県を、笑顔プラス挨拶が、一番出来る県として、これからも、がんばっていったらうれしいです。

「福島市の希望」

福島市立信夫中学校

菊地 希紋

私は、『子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。』という内容にとっても同意しました。

福島はまわりがたくさんの緑で囲まれた盆地で、自然豊かなよいまちです。福島に住む人はみんな優しくとてもあたたかいです。

また、大通りや車の行き交う道にはもちろん、小さな交差点などにも信号機がたっています。少しでも安全に交通できるよう、交通量の多い所には必ずといっていいほどたっています。きっと市の方が私たちを見守ってくれている証なのでしょう。

このように、自然に恵まれ、みんな仲良く、親切で優しいのが福島の良いところだと思います。

ですが、少し欠けている部分があるとしたら、ベンチの数が少ないというものもその

中の一つでしょう。

私は、今年の夏、友達とわらじ祭りへ行きました。警備員が交通を整理したり、ごみ拾いをしてくださる方がいたり、とても気持ちのいい環境で、祭りを楽しめました。屋台で買った焼きそばを食べようと座る場所を探しましたが、ベンチがどこにもありません。えん石や突き出てる石が並んでいるだけで、ベンチが無かったのです。だからせめてお年寄りだけでもそこに座らせてあげたかったのですが、そこには若者たちがたむろっていて、ゆずろうと場所を離れようとする気配もなく、結局そのまま動きませんでした。

今、日本では高齢化が進み、お年寄りのための設備が整えられてきています。ベンチもその設備の一つではないでしょうか。足腰を少し休めようと気軽に座れる『親切な椅子』ではないでしょうか。もちろん高齢者だけではなく、にん婦さんや小さな子どもなどいろいろな人も利用できるでしょう。

だから、もっとベンチを増やすといいと思います。たくさんの方が来る駅前や大きな公園、人通りの多い歩道など、みんなが

利用できる大きなベンチを設ければ、みんな安全に楽しく、いつでもどこでも使うことができると思います。

また、コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの買い物施設にも、誰でもひと休みできる空間をつくることで、よりいっそう、みんな気持ちよく生活するための手助けをすることができないのではないのでしょうか。

相手を気遣い、支え、見守ることで、子どもからお年寄りまで安全で健康なまちをつくることができます。

私も、少しでもみんなが安心・安全に、そして健康な生活を送れるように、福島のみちづくりに貢げんできればいいと思います。

「自然も心も美しいまち」

福島市立信夫中学校

石田 麻音

私は、福島が空も水もきれいなみどりのまちになることを願っています。確かに今の福島も、きれいではあるのですが、人目にあまりつかない所に、ゴミがある所がたくさんあるのが事実です。人がたくさん来る所だけきれいにして、人があまり通らない所はきたないなんて、とても「きれいなまち」とはよべません。

私は、小学生のころにまちの清掃活動に参加したことがあります。最初は、嫌だなと思ってゴミ拾いを始めたけど、だんだん時間がたつにつれて、どんどんきれいになっていくのを見ると、とてもすがすがしい気分になり、もつともつときれいなまことにしたいと思いました。でも、その日の清掃活動が終わり、数週間たってから、そこへ行ってみると、きれいになっていた水路も、植木の周りも、ピカピカに磨いたタ

イルも、すっかり掃除する前の状態にもどってしまいました。水路は、ゴミであふれかえり、植木の周りには、犬のフンがたくさん見られ、タイルにはガムがはりついています。とても悲しくなりました。場所だけでなく、心も汚されたように感じました。

そこで私は、場所から変えるのではなく、人の心から変えていくことを決心しました。こむこむの自由掲示スペースに、呼びかけのポスターを掲示して、また、汚れている場所は、自分から進んで掃除をし、周りの人が自分から手伝いにきてくれるのを待ちました。そのためか、今では少し、その場所もゴミが減ったような気がしました。こんな私でも、人の心をうごかすことができた、うれしい気持ちになりました。

私は、福島も、福島に住む人の心も、今よりもつときれいで、優しさあふれるものになることを心から願っています。初めから汚さないようにするのも大事だけど、汚れたら自分からきれいにするという、人の美しい心が一番大切だと思います。人が汚した場所を、人がきれいにするのが当たり前です。見て見ぬふりをするのは、自分

の心を自分で汚くすることです。

私は、きれいなみどりあふれる福島を育むとともに、きれいで優しさあふれる心の持ち主が、たくさんたくさんあふれるといいなど、日々思い続けています。私の努力は、私の満足するまで、いつまでも、いつまでも続きます。いつか、私と同じ思いを抱えた人と出会えたらいいなと思っています。

「自然の多い町」

福島市立信夫中学校

加藤 洸 志

僕の住んでいるこの福島には、木、田畑、川などの自然があふれています。

特に、荒川は、入ることもできる川で、水道水にまで使われています。つまり、水質がとてもいいということです。しかし、水質がいいとはいえ、川にゴミを捨てる人がいるのです。車に乗っていると橋の辺りで、コップのような物を投げ捨てている人を見かけたことがあります。更に、たばこの吸いながら捨てている人も見かけました。そして、川だけではなく、普通の用水路でも見かけることがあります。荒川は、水質ランキングで上位の方にはありますが、このままでは、水質が悪くなっていき、飲むことはおろか、入ることすらできなくなってしまうかもしれません。更には、魚もすめなくなってしまうかもしれません。

市民憲章の「空も水もきれいなまちをつ

くりましょう」が何故達成できないのか、考えてみました。

まず、市民憲章を詳しく知らない人が多いことと、荒川の水質が悪化することをあまり深刻に考えていないこと、そして、「自分が川にゴミを捨てても、あまり変わらない」という考えの人がいるからだと考えました。

このような考えを改めるためには、どうしたらいいのか、一つ考えが浮かびました。それは、川の近くに水質ランキングの順位や水質のよさを分かりやすく数値化されたものを書いた看板を設置するという方法です。このような対策をとれば、多少は良くなるかもしれません。

福島には、荒川クリーンセンターという施設があります。そこは、ゴミ処理場です。ゴミ処理場からは、煙が出てきますが、処理場では、その煙を利用してボイラーをしい発電し、煙に含まれる有害な物質をフィルターに通して、きれいな空気にしてから、外に出しているそうです。

福島には、田畑などもあるので、サギ、鳥、すずめ、ムクドリなどの鳥がよく飛ん

でいるのを見かけることがあります。つまり、自然が豊かなので、草や果実などの植物を食べる虫がいる。そして、それらの虫を食べる鳥がいるということです。これだけで、福島は自然が多い町のだと改めて認識することができます。

その他にも、書き表すことができない程の自然が福島にはあります。この自然を守っていくために、市民憲章が今まで以上に広まっていき、自然と共存できる町になるといいなと思います。

「自然豊かな福島市」

福島市立信夫中学校

丹 治 朱 音

福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」は、私も体験したことがあります。小学生のとき、高倉山という平田にある山に、木の苗をみんなで植えました。その植えた木の苗が成長し、春にはとつてもきれいな桜の花が咲きます。この木の苗を植えた体験から、自然に関わっていくことの良さがわかりました。

福島市は、周りを見回すと、森林がとつても多く、木が多いおかげで空気も景色もとつてもきれいです。私の家の周りは森林がとつても多く、森林に囲まれています。近くにお店がなく、学校からも遠いという不便さはありませんが、とても静かで耳をすませば、小鳥の鳴き声、川の水が流れる音、雨の時期にはカエルの鳴き声など、自然の音がたくさん聞こえてくるという良さもいっぱいあります。これらは、都会のようにた

くさんの車が走り、人の話し声があふれているところやお店がたくさんあり、あまり木の無いところでは体験できないことだと思います。自然の豊かな福島市だからこそのことだと思います。

しかし、最近、木を切ったり、川や森などのいろんなところにゴミが捨ててあつたりして、自然を壊すようなことが増えてきていると思います。私の住んでいるところでも、そつこうに弁当の食い残しや空き缶、タバコのすいがらなど、いろんなゴミがたくさん落ちています。

私の小学校のころの帰り道にも、たくさん落ちていました。そこで私は、小学生のとき、いっしょに帰る子たちと自主的にゴミを拾い、持ち帰りました。拾った後は、とつてもきれいになりましたが、数日たてば、またもどおりになってしまいます。私の家の近くでは、テレビが捨ててあるところもありました。

これらのゴミがなくなると、とてもよくなると思います。ゴミを捨てる人がいなくなるためには、ポスターなどでの呼びかけをすればよいと思います。しかし、その呼

びかけだけでは捨てる人はいなくならないと思います。だから、呼びかけだけでなく、何週間や何ヶ月に一回くらいは、ボランティアでゴミ拾い活動を行えば良いと思います。このようなことをずっと続けていけば、今よりもさらに自然豊かになると思います。私は、自然がとつても豊かな、この福島市が大好きです。その福島市の豊かな自然がずっと遠い未来まであり続けられるように、今からボランティア活動がんばりたいです。

「福島 naturally」

福島市立信夫中学校

斉藤 翔瑠

「福島 of 川の水はとてもきれい。」

最近よくニュースなどでこのような言葉を耳にするようになりました。確かに、福島の阿武隈川や荒川を見ると、きれいで美しく澄んでいます。ゴミもあまり散らばっていません。

僕は何度か、福島市のCMやインターネットサイトで、川 of ゴミを掃除する人を募集しているのを見たことがあります。そのような地域の方々のおかげで、福島のきれいな川は維持されているのだと思います。

また、福島は緑もたくさんあって、空気はきれいで、風景がとてもいいです。

僕の家は、どちらかというと、山沿いの方なのですが、学校帰りや散歩をしているときに、地域の方が一人で山 of ゴミや道路 of ゴミを拾い、袋に入れてるのを見たこ

とがあります。そのような方を僕は見習って、家の周囲だけですが、ゴミ拾いをしたことがあります。

ゴミ拾いをして、気づいたことが二つありました。一つは、意外なことに家の周りには空き缶 of ゴミが多かったことです。家族は捨てていないので誰が捨てたのかと思いましたが、二つ目は、たくさん of ゴミを一つ一つ拾っていると山や川、道路をきれいにしてくださっている地域の方々の苦勞がわかりました。自分のゴミではないもの一つ一つ拾うのは面倒です。それでも拾うのは、自然をきれいにしたいという思いがあるからだと思います。

僕は、実際に、川にテレビを捨てている人を見たことがあります。それを一緒に見ていた祖父は言いました。

「ああいう事は、絶対にしてはいけない。」僕は、ゴミを川や山に捨てるような非常識な市民を減らさなければいけない、と強く思いました。

川や山にゴミを捨てるのを防ぐには、どうすればいいのだろうか。それには、福島市民一人一人が、「福島市民憲章」を意識

して、福島のきれいな川や山を保つべくことだと僕は思います。それから、なるべく森林を伐採しない事だと思います。

今世紀は、車やエアコンから発せられる二酸化炭素が原因で、脅威的なスピードで地球温暖化が進んでいます。そして、光合成で酸素を作ってくれている森林も次々と伐採されていて、深刻な問題になっています。車やエアコンを使わないことは今はできないと思うので、せめて森林を増やす努力が必要だと思います。

福島市は、緑も多く、空気もきれいです。が、そのまま伐採が進めば、福島の空気も汚くなってしまいかも知れません。そうならないことを僕は願います。

「安全で楽しいまちに」

福島市立信夫中学校

阿部 百々花

最近、福島市では交通事故が、少し多くなってきたのではないかと思います。

私は、なぜ交通事故が多くなってきたのか考えてみると、車を運転している人が電話をしながら運転したり、片手運転やよそ見をしながら運転したりしているから、交通事故が多くなっているのではないかと思います。

でも、車を運転している人たちだけが悪いというわけではなく、歩行者の人たちも少し悪いのではないかと思います。

横断歩道を走る子供や飛び出しをする子供も最近増えてきています。飛び出したりして、それで、車とぶつかり、大きなけがをしたり、事故が発生したりするのでないかと思います。横断歩道の近くには、「止まれ、自転車も止まれ。」と書かれた大きな看板がありますが、見て見ぬ振りをして

いるのではないのでしょうか？

私も一回、自転車に乗り、左右を見ずに道路に飛び出したら、車とぶつかりそうになりました。とてもびっくりして、飛び出しが危険なことを知りました。

私は、このようなことがあってからは、必ず止まって、左右から車が来ていないかを確認してから、通るようになりました。

それに、最近見かけなくなったのが、横断歩道を通る時に、手を挙げて通る人です。

以前は、手を挙げて横断歩道を通っている小学生を登校する時に見かけましたが、最近あまり見かけることがなくなりました。私は、そのことに気づいたときに、「誰も見ていないから、そのまま通ってしまうのかな。それとも、横断歩道を通っていると、車が止まってくれるからなのかな。でも、車が、必ず止まってくれるとは限らないのに。」と考えました。

私は、この福島市がずっと安全でいられるところだといいなと思います。そのためには、福島市に住む人たち、子供も大人も、歩行者も運転者も「ちゃんと決まりを守ること」が大事になると思います。知ってい

るだけではだめです。「止まれ、自転車も止まれ。」この看板をしつかり見て、歩行者も手を挙げて通ることをすれば、事故も減るのではないかと思います。

「福島市民憲章について」

福島市立野田中学校

伊 達 沙 弥

私は今回のコンクールで、福島市民憲章を初めて知りました。

福島市民憲章の中で私が印象に残ったものは、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。理由は、全ての世代の人たちが安全で健康なまちというのを考えたときに、いろいろな課題や目標が出てきたからです。まず、安全というのとはどのようなことか考えました。事故のない安全な道路。歩行者のことを気使う、自転車や自動車に乗っている人。など、少し考えるだけでもいろいろなことが浮かんでくると思います。安全な町をつくる、というのは、一人一人が交通のきまりを守って生活し、相手のことを考えながら行動するということが大切だと思います。そして健康というのとはどのようなことなのかも考えました。健康に過ごすということ

は、まず病気やケガをしないということも大切です。私は朝、登校するときや大会で朝早く学校に集まるときに、走っている人やウォーキングをしているおとしよりの方たちをよく見かけます。このようなことも健康なまちづくりにとって、大切なことではないでしょうか。私は、朝早くのおとし

よりの方の運動も大切ですが、そこに家族のだけかと一緒に走ったり、同じ運動をしている方と走ったりすればよりいろいろな方との交流ができ、安全で健康なまち、だけではなく明るさも入ると思っています。そして、健康なまちをつくるため、最も私がいいと思う方法の一つあります。それは「あいさつ」です。あいさつは言葉が話せる限り一番の人とのスキップの取り方なのではと思っています。校内でも、登下校のときでも、家族にも、近所の方にもだれにでもあいさつはできます。ですが、よく考えてみると近所ですれ違った方にあいさつをしている人は、中学生になるにつれて少なくなっているのです。私自身も、校内ではあいさつするものの、外にでるとあまりあいさつをしなくなってしまう。そこ

を、自分からあいさつをすることができれば福島のみちづくりが変わっていくのではないのでしょうか。あいさつはする方もされる方も、みんなが元気になれる言葉です。私はあいさつであふれる元気な福島のみちづくり、みんなが健康なまちになってほしいです。

私は、福島市民憲章を知っているいろいろなことを考えました。みんなが安全で健康なまちをつくることにも、課題や目標もあつたけど、福島の良い所も見つけられました。福島市民憲章に少しずつ近づける方法をみんな考えて行き安全で健康なまちにしていきたいと思っています。

「福島市民憲章について」

福島市立野田中学校

藤田実佑

わたしは、市民憲章というものがあるということを初めて知りました。その五つの課題の中でもわたしが改めて考えてみようと思ったものがあります。それは「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という課題です。なぜこの課題を選んだかという今の時代、子どもからおとしよりまでたくさんいて、たまたま小さな子どもを見ていて「ひやっ」と思うことがあります。安全な町にしたいと思っただけです。もう一つの理由は、おとしよりがいっまでも健康で長生きしていける町づくりにしていきたいと思ったからです。これらの理由からわたしはもう一度福島市について考えてみようと思いました。

わたしには、生まれて三才のいところがいまます。そのいとこは元気によく遊んでいます。でも、たまに危ないと思った場面を何

度か見かけたことがあります。それなので、わたしは町で見かける公共しせつなどで、小さい子どもが遊んだら、けがや事故につながり、身長や体重制限をすれば安全に遊ぶことができると思います。もちろん、その子どもの保護者は子どもから目を離さないでほしいと思います。安全面だけじゃなく、何ヶ月か前のニュースであったように親が子どもから目を離れたときに子どもが変な人におそわれて事件になってしまいかもしれないからです。このことをしっかりと守ってほしいと思います。

それから、体が不自由なおとしよりが福島市にも多数いるかと思えます。わたしは、おとしよりはふつうのわたしたちぐらいの中学一年生に比べると歩いたり横断歩道をわたるのがおそいなと思うことが正直に毎回見ていることがあります。でも、その一歩一歩を一生懸命に歩いていておとしよりを待たなく、よく周りを見ないで車を走らせて事故につながることもあります。それなので、車を運転している人はおとしよりにかかわらず、歩行者の人を見つけた

らよく周りを見て安全に運転してほしいと思います。

また、自分の近くにおとしよりがいる人はおとしよりが長生きできるようにバランスの良い食事を作ってあげたり、一緒に体を動かしたりして健康で長生きしてほしいと思います。実際にわたしもおじいちゃんとおばあちゃんと暮らしているので、今書いたことをわたしもおじいちゃんとおばあちゃんに長生きしてもらおうようにしたいと思います。

これからは、福島市のために子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくるように自分でも努力していきたいです。

「市民憲章を学んで」

福島市立野田中学校

阿部 美空

私は、市民憲章を全く知りませんでした。その中でも特に興味を持ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という項目です。

理由は、この五つの項目の中で一番守られていないと感じたからです。

三月十一日、東日本大震災がおこり、津波が各地に襲いかかりました。しかし福島は、地震・津波だけではなく、原発事故というさらに大きな被害を受けました。それ以来、福島市のきれいな空気や水は汚染されてしまいました。そのため、私が四年生のころは外で遊ぶことがほとんど無く、校庭は何のためにあるのだろうかと思ってしまうくらい、休み時間の窓の外の景色は閑散としていました。

震災から三年半がたち、少しずつ震災前の景色が戻りつつありますが、欠けている

ものがまだまだたくさんあります。だから私は、「空も水もきれいな」福島市に、早く戻ってほしいと思っています。

「みどりのまち」については、この言葉を聞いたときに、思い浮かぶものがありました。それは、私が通っている野田中学校の周りの景色です。

野田中学校の周りには、大きな水田が広がっています。私は毎朝水田の横を自転車で走りますが、横を見るとどこまでもどこまでもたんぼが広がっているように感じ、気持ちいいです。その分冬は風がとても冷たいですが、それも福島市の自然が生きている証だと思うことにし、ペダルに力をこめて進んでいます。

他にも、野田地区では「萱場梨」をたくさん栽培しています。友達にも梨農家の人がいて、

「将来は梨農家をつぐ予定だよ。」

と言っていました。福島の梨は全国のどの梨にも負けないくらいおいしいので、梨農家をとだえさせないように、みんなに梨について興味をもってもらう必要があるのではないかと考えました。

これらのことから、「みどりのまち」とは、単純に木がたくさんあるということだけではなく、田や梨畑などのそれぞれの地域に伝わる農業をつないでいく、という意味もあると思います。それを守ることで、福島市に住む人々、市外から観光に来た方々が、「福島市は景色もきれいで食べ物もおいしくていいところだな。」

などと感じてくれると思います。

私は今回市民憲章を学んで、もっと多くの人がこの市民憲章について考えるべきではないかと思いました。普段生活していて市民憲章について考える機会は少ないので、もったいないと思います。

これからの福島市を支えていくのは私達なので、市民憲章にふさわしいまちをつくりたいように、意識していきたいと思っています。

「福島市民憲章について」

福島市立野田中学校

志賀 美咲

私は今まで、福島市民憲章のことを知りませんでした。国語の授業で初めて知りました。五つの憲章のうち、私が興味を持ったものは「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」というものです。理由は二つあります。

私には病気の祖母がいます。移動するときは車いすで移動します。祖父が車いすを押していますが、段差やでこぼこした道は大変そうでした。福島市は車いすで移動できる道が少ないと思います。駅の近くには少しありますが、駅から離れるとまったくなくなってしまう。このような道が少ないと、お年よりにはきついと思います。今は、高齢者社会です。だから、車いすでも、こしや足の悪い人でも、楽に移動することができる道を駅の近くだけではなく、いろいろなところに増やしたら良いと思います。

ます。

もう一つ気になった理由があります。二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起こりました。福島県は津波の被害のほかに、原発事故も起こり、放射線の影響で自分のふるさとから離れてくらさなくてはいけなくなり、私たち子供も外でもいつきり遊べなかったり、砂をさわれなくなったりしています。震災後は校庭でする授業がかなり減ってしまいました。体育館の授業ではできませんが、体育館だけではじゅうぶん体を動かせず、前より私は、自分やみんなの体力が落ちてしまったと思います。これでは将来、私たちは健康でいられず、元気に毎日を過ごせないと思います。これでは、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」の福島市民憲章に反していると思います。なので私は、小学校、中学校などの校庭や校舎を定期的に除染をすれば安心して、運動できて、楽しい毎日を過ごせると思います。一回除染をすれば安心というわけではないと思います。小学校一年生などの小さい時から、たくさんの放射線をあびさせてしまったら危

険ですし、中学生は校庭で行う部活がたくさんあります。だから定期的に除染を行ったほうが、絶対良いと思います。福島が安全だと全国の人に分かってもらえれば、他県からの観光客がたくさんおとずれてくれると思います。

福島市民憲章は、とてもすばらしいものだと思います。もつとたくさんの福島市民のみなさんに知ってもらえれば、もつといい福島市ができると思います。いろんなところに福島市民憲章を書いた看板をつくれれば、たくさんのみなさんに知ってもらえると思います。小さなことからこつこつと積み重ねて、「私の出身は福島市だよ。」と全国のみなさんに胸を張って自まんでできる福島市をつくっていききたいと思います。

「福島市民憲章を聞いて」

福島市立野田中学校

佐藤 絢

私は、初めて福島市民憲章という言葉を知りました。初めて聞いたなかで「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」というのが気になりました。

私が今住んでいるまわりは、田んぼや畑がたくさんあって、学校の窓から見ると黄色のじゅうたんみたいでとてもきれいです。自然のすてきな私のまわりは、とても落ち着く場所で、私はこの福島に生まれ良かったと、心から思います。小さいときは、「どうしてこんなに緑があるんだろう？」とふしぎに思うことがたくさんありました。でも、だんだん成長していき、この緑あふれる私のまわりは、とても静かで落ち着いて、今はもっとたくさんの人に、この幸せな時間を過ごしてもらいたいと思うようになりました。たくさんの方が、福島のような緑をいろんなところに伝えてい

けば、みんなが幸せな時間を過ごせると思っています。

そして、福島市「荒川」の水質は全国で一位というとてもきれいな水です。東日本大震災があつて放射線などが問題にされている中、全国で一位とはとてもすばらしいと思います。私の住んでいるところの近くなので、身近な場所に全国一位の川があるというのはとてもうれしいです。これからも全国一位を続けていけるように、みんながごみを捨てたりしないで、ごみが落ちていたら拾うということを、心がけていたら今よりもっときれいになると思います。川だけでなく、福島をきれいにするためにも、ごみを見つけたらすぐ拾うと、みんなが気持ち良くなると思います。

晴れた日、福島の間を見てみると、くもひとつない真つ青な青空。とてもきれいです。他のところに行ったら、もつときれいな空が見える。と思う人もいるかもしれませんが。でも、自分たちの住んでいるところで見えるきれいな空は、特別なものだと思います。はつきり見える吾妻山。その上にある真つ青できれいな空。この組み合わせ

は、私にとっては言葉にできないぐらい、きれいです。

福島市民憲章というのは、とても大切なものだと聞いて思いました。他にも、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」というのはとても大切なことです。これからの生活で、福島市民憲章というものを頭の中に入れて意識していけば、きれいで優しさあふれる福島になると思います。

「市民憲章を知り思ったこと」

福島市立野田中学校

外山 菜月

私は市民憲章を知らなかったので読んでみると、市民が幸せになってほしいという感じがしました。その中でも強く感じたのが子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょうという言葉です。この言葉の「安全」は思いつくことがいくつかあります。それは二つあり、一つ目は歩道と車道に立っているポールです。その道は少しせまい道です。ポールが立っていると車道と歩道の区別が分かりやすいし、安心して通ることが出来ました。二つ目は学校に行く途中にわたる所に立っている方がいることです。いてくれることで安心して通れるし、交通事故も減ると思うのでうれしいです。でも、ほかの所を見ると、車道と歩道の間がせまい所もあるのでもっとポールなどを立てられると良いと思います。市民憲章には「子どもからおとしよりま

で」と書いてありました。子どもが安全で健康でいられる施設を思い出しました。放射線の影響で外で遊べなかった時、室内で遊べる施設がテレビで放送されていました。室内では安全に体を動かすことが出来るのでこういう施設があるのは良いと思います。もう一つあり、足や手の運動をする遊具が置いてあることです。ペダルに足を乗せて自転車みたいにこいだりと楽しく運動出来るし、大人の方も出来るので増してほしいです。

おとしよりが安全で健康というのは近くにおとしよりの方が住むアパートができたことも関係あると思います。このようなアパートはあまり見た時がないので、一人暮らしの方も入ると安心して生活できる良い施設だと思います。

このような施設や設備などがあると、市民の人達を考えてくれていると感じると思います。

私は心配なことがあり、それは「振り込めさぎ」や「おれおれさぎ」などです。現在は前よりも手口が増えているそうなのでこわいと思いました。だから防ぐための教

室を各地で行えたらいいなと感じます。ユースでは劇の形式に行っていたので、分かりやすく楽しみながらどういうふうにかかってくるかやかかってきたらどうすれば良いかなど教えてほしいです。

このほかの市民憲章どれもすてきな憲章です。自然が多い町に住めることは心も落ちつくので建物のために森林が減っていくのは止めたいことだし、親切で愛情あふれる町は、今からあいさつをしたり、マナーを守りたいです。楽しく働けるまちは、大人になって働く時に笑顔で活動できる工夫をしたいです。

市民憲章は知らない市民の方にも知ってもらい、安全で健康な愛情あふれる町をみんなで作っていったら幸せに暮らせるので、近くの人に教えたいです。

「『福島市民憲章』とは」

福島市立野田中学校

佐藤 朱理

私は今まで、福島市民憲章というものがあることを知らなかったし、どのような内容なのか、全く知りませんでした。

私が気になったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というものです。

福島市を流れている荒川は、水質が日本一なんだそうです。ですが、何年前かに、一度日本一じゃなくなってしまうことがあり、また日本一にしよう、ということので、今、再び日本一になったそうです。

荒川の水質がこれからも日本一であることができるように、みんなで協力していけたらいいな、と思いました。例えば、河原にゴミをポイ捨てしないなど、今からでも始められることがあると思います。

荒川だけでなく、家の近くを流れている川などにも、ポイ捨てをしないようにすれ

ば、もっときれいになるのかな、と思えます。家の近くの川を見ると、時々ゴミのようなものが流れていく時があるので、それを見た時になくしたいな、と思うときがあります。なので私は、これからも、ゴミのポイ捨てはしないようにしていきたいです。

私はもう一つ気になったテーマがあります。それは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というものです。

私は、福島市の方々は、親切な方が多いと思います。とくに、登下校する時、そのように思います。私は、登下校する時に横断歩道を渡る時があります。その時に、車を運転している方が止まってくれて、とても親切だなと思いました。止まってくれている方は、めんどくさいなど思っているかもしれないけど、横断歩道を渡る側の私からしたら、とてもありがたいことなので、いつも感謝しています。

ほかにも、横断歩道のところで、地域の方々が、小学校の先生などが、旗を持って立っていてくれたり、「おはよう」とあいさつをしてくれたりしています。「あいさ

つをする」ということは、家の中でも大切だし、地域の方にするのも大切だと思います。あいさつすることによって「愛情あふれるまち」がつけられるのかなと思いました。私は今まで、「福島市民憲章」が何か、全く知らなかったけれど、テーマを見て、福島についてたくさん考えることができ、今自分が住んでいる「福島市」の良さがたくさんわかりました。

この「福島市民憲章」を福島市のたくさんの方々に知ってもらって、市民全員で福島をもっといい町にしていけたらいいな、と思いました。

「私にできること」

福島市立野田中学校

土田 真帆

私は、今回この作文を書くことになって、「福島市民憲章」というのがあるのを初めて知りました。説明があっても、まだ少し理解しきってないので、私は「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という項目が一番気に入りました。理由は、最近近所に家が三軒くらい建って、小さな子どもが増えたのと、おばあちゃん・おじいちゃんが一緒に住んでいるからです。

まず、「安全」について考えました。考えたときに最初に思い浮かんだのは、自転車専用の道路です。何の番組かは忘れませんが、前テレビを見ていたときに、自転車専用の道路があるのを知りました。私は先日、交通教室で自転車の事故の再現を多く見たので、福島にも自転車専用の道路があったら、もつと事故は減るのではないかな、

と思いました。あと、思い浮かんだのは側溝です。野田小学校のわきの側溝にふたがないのを思いだして、小学生とかが転んでしまいそうだな、と思いました。それと、私の家から笹木野駅に行く道が、道幅がせまいうえに、側溝のふたもほとんどざれていないので、日中はまだいいのですが、夜になると電灯もなく真つ暗になって、間違つて足を突つ込んでしまつたり、転んでしまいそうでもとてもこわいです。それに、あの道は、おとしよりも通ると思うので、とても危ないと思います。側溝のふたがない場所は、改善した方が良くはないのでしょうか。

次に、「健康」について考えました。私は「安全」と「健康」はつながっているのではないか、と思いました。安全な町であれば事故やケガもなく健康に暮らせる、そう考えました。

私は今まで改善点を上げてきました。でも、私にできることもあると思いました。「安全」については、改善されずとも、私自身が身の回りについて気を付ければ、少なくとも、私が事故をおこしたりすることはな

いと思います。「健康」については、近所の人や、それにおとしよりの方とすれ違うことも多いので、あいさつを元気にしたいと思います。

私はまだ中学生で、福島市の建物のつくりを変える、とか、あそこに信号を設置しよう、なんてできないけれど、さつき言った小さなことなら、私にも、中学生の皆にもできることだと思います。私は人見知りでも、他にも人見知りの人がいると思います。でも、少しずつでもいいから、元気なあいさつをして、あいさつをされた人が思わず笑顔になってあいさつを返してくれる、そんな風になりたいと思います。

福島市をよりよい町にするために、少しでもこの意見を取り入れてくれたら良いな、と思います。

「みんなで交通事故をなくそう」

福島市立野田中学校

吉野 妃奈恵

私の中学生初めての夏休みに悲しい事がありました。私の兄の大親友が、亡くなった事です。そのお友達は、バイクが大好きで、免許をとって乗っていました。その日も、朝早くバイクで出かけ、右折してきたトラックをさけようとして、対向車線からきた車に、はねとばされてしまいました。頭と全身を打って、一度も目をさまさず十日間、眠り続けました。私は悲しくて涙が出ました。兄もずっと泣いていました。

私は、幼い頃から一緒に遊んでもらった、色々な事を思い出しました。そして、バイク事故は改めてこわいと思いました。

私たちも、自分の事だけでなく他人に迷わくをかけないように交通ルールを守る事が大切だと考えます。

自転車での登下校もヘルメットを着用し、ルールを守ります。夕方のジョギング

の時は反射板を身につけ、自己アピールをして走ります。自分を守る事は、周りの人を守る事と同じだと思うからです。

車も人も、老人も、幼稚園児も、ベビーカーも同じ道路を利用しています。雨の日も、晴れの日もあります。歩くスピードも皆違います。散歩している人もいれば、会社へ急ぐ人もいます。

お互いに誰かの事を思いやれば、優しい気持ちになります。あまり時間がない時でも、無理に走ったり、道路を横切ったりしないように気をつけます。

私は、兄の親友の事故があった時から命について考えるようになりました。大雨で、土砂崩れにあつたり、津波で、流されたりして、多くの人々が亡くなりました。雷にうたれた高校生が亡くなりました。もし、このような事が、防げていたら、今も元気にしていたのにと、思います。

私の夏休みは、部活動を頑張りました。気温が、三十六度の時も体育館で体操の練習をしました。技を覚えて、きれいな体操をするためです。九月にある新人戦で入賞したいからです。

学校の勉強も頑張ります。中学校の三年間私のできる事は挑戦していきます。そして、きちんと大人になって、年をとっていききたいと思います。

「親切的な福島をつくるために」

福島市立野田中学校

丹 治 毅 彦

僕は、初めて「福島市民憲章作文コンクール」を知りました。最初は、名前を聞いただけで難しそうだと思いました。テーマを読んでみて、福島市のいいところはどこだろうと思いました。そこで頭に残ったのが、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。

まず、親切とはどういうことだろうと考えました。バスや電車に乗るとき席をゆずることや体の不自由な人の手助けをすることだと思えます。たまに、目の不自由な人が道路の段差のところにつまづいているところを見ます。なので、体の不自由な人のために、なるべく平らで手すりなどがついている道路があると、おじいさんやおばあさんも安心して歩けると思えます。なるべく僕も、席をゆずるようにしています。僕は祖母と一緒に出かけるとき、腰が悪いので

いつも手を貸してゆっくりしたスピードで歩くようにしています。

次に、「愛情あふれる」とはなんででしょう。僕の祖母は、畑仕事をしています。野菜の話をしていると満面の笑みで活き活きと話しています。また祖父は庭の手入れをいつもしています。いつも行くといねいに手入れをしていてとても楽しそうです。TV番組などでも、農家の人は、

「愛情を込めるととてもおいしくなる。」
と言っているのを耳にしたことがあります。このようなことから、「愛情あふれる」とはいろいろな感情や思いやりの心だと思えました。例えば、おいしくなれ、や美しくなれです。このようにいい感情であふれる福島市にしてほしいという思いが伝わってきました。

今回、初めて知り、初めて書いた「福島市民作文コンクール」で僕は、このように思いました。「積極的にやる」ことです。前までは、誰かがやってくれるだろう、言ってくれるだろうと思いい、自分から行動していないことが多くありました。でもこれからは、席をゆずったり、大変そうにして

いる人に一声かけて手伝ったりしていくことが大切だと感じました。今は、コミュニケーションが苦手な人が増えているそうです。だからこそ、今から変わりたいです。学校でも家でも出かけた先でも誰かが危なそうだったら助けてあげたいです。みんながそうすれば今の、何倍もいい福島市になると考えています。

今、避難して来てる人の自殺していることが問題になっています。今、みんなで助け合い、話すことで少しでも問題解決への道筋が見えてくると思っています。これからのいい福島市の町づくりに積極的にこうけんしていききたいです。

「安心な町をつくろう」

福島市立飯野中学校

佐々木

凜

わたしは福島市民憲章の、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくろう」というものを読んだとき、本当に安全なのかと思いがたることが二つあります。

一つ目は、福島には山が多いため、熊が多く出るといことです。ニュースなどでよく見かけるのは、農家のおとしよりが、農業を行っているときに、熊におそわれるという事件です。当然、亡くなってしまった方や、重傷をおう方もたくさんいます。さらに、小学校のときには、熊が出たので、ランドセルに鈴を付けたり、親の方に学校までの送り迎えをしてもらっていました。それに、熊は春に出てくることが多いので、運動会が中止になったりということもありました。

二つ目は、この頃、事故が多いということです。飲酒運転や脱法ハーブの使用によ

り、ひき逃げ事件や事故を起こすというの
も多々見ます。それにより、死亡や重傷に
なる人も少なくないと思います。それに、
わたしの町には、交差点があります。です
がそこには信号がありません。なので時々、
車と車があぶつかるとい事故も起こること
があります。わたしも前、友達とかさをも
って歩いていて、右側が見えず、前に出よ
うとしたときに車がわたしのスレスレを通
ったことがあります。わたしがもう一歩
前に出ていたら、車の下じきになっていた
ところでした。そしておばあちゃんが夜運
転していて、真つすぐ進もうとしたら、と
なりから、ライトを付けない車がきてぶつ
かりそうになったといっていました。この
ことから、あまり安全ではないんではない
かと思いました。なのでもっと安心できる
ようなまちにしていきたいと思いました。

「安全で健康なまちをつくろう」

福島市立飯野中学校

阿 曾 温 生

僕は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という憲章がとていい憲章だと思いました。

理由は、二つあります。

まず一つ目は、安全なまちをつくろうというところ。年々、小さい子どもやお年よりの交通事故が増えてきています。これは、子どもやお年よりの方が、「自分は大丈夫」と思っているからだと思います。それを、この憲章で、「あなたもあるかもしれないから気をつけてね」と、注意を呼びかけているので、みんな気を付けて生活をしてくれると思います。

二つ目は、健康なまちをつくりましょうというところ。一つ目の理由にもありましたが、これも、自分に限ってあるはずがない、とか、自分はこんなに元気だから大丈夫だとかで、ちょっと位の異常があっ

ても、今だけだから大丈夫だと言って、お医者さんに行かずに、その病気が悪化するというケースがあると、聞いたことがあります。それを、定期的に、病院に行こうね、とか、異常があつたらすぐに病院に行こうね、と、気をつけるように呼びかけてくれています。

この憲章は、とてもいいものだと思います。今、少子高齢化がすすんでいて、一人でも子どもを亡くせない状況です。この実態の中で、この憲章があり、みんな気をつけて、生活してくれると思います。

しかし、この憲章を知っている人は、少ないと思います。僕も、今まで知りませんでした。もつと、市民にこの憲章があるということをはひろめなくてはならないと思います。家族や知りあいには、今僕が知ったので伝えられるのですが、お年よりなど、独り身で、知り合いもない人は、TVなどを見て過ごしています。そこで、TVでこの憲章があるということを広く知ってもらえればいいと思います。そうすれば、みんなが、気をつけて、生活してくれると思います。

僕も、家族に話してみたいと思います。この憲章をしつかり身につけて、これから生活していきたいと思っています。

『福島市民憲章』についての疑問」

福島市立飯野中学校

菅野 隆之祐

ぼくは、「福島市民憲章」について、疑問があります。それは、「福島市民憲章」の、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というところについてです。

福島市では、ゴミが捨てられていることをたくさん見ます。これでは、空も水もきれいな緑の町はつくれないと思います。なぜゴミをゴミ箱に捨てることが出来ないのか、いつも疑問に思います。なのでゴミが捨てられていることをなくしてほしいと思います。ゴミ拾いやポスターを作っかけて呼びかける、色んなことをして、ゴミが少なくなればうれしいです。自分の住んでいる町がゴミなどで汚れてしまっていると、その町の印象まで汚くなってしまうと思います。ゴミを減らすことは、多分ぼくが思っている以上に大変なことだと思います。いきなりすべてのごみをなくすのは難しいと

思います。なので少しずつゴミを減らしていけば、いずれゴミはなくなると思うので出来ることからやっていくことが大切だと思います。

ぼくは、ゴミを出さないように毎日意識しています。意識をすれば自然にゴミは減ってくると思うのでゴミを増やさないための工夫をしてほしいです。ぼくも、ゴミを出さないように、工夫して考えて空も水もきれいなみどりのまちをつくれるようにがんばりたいです。

「きれいなまちづくり」

福島市立飯野中学校

加藤 百音

私は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という憲章は、守れていないのではないのかなと思います。

理由は、道路のはじの方などに、ゴミが落ちているところを見たからです。学校に行く途中、つぶれている空きかんや、タバコなどが落ちていました。また、家族でお出かけをしたとき、車の中からでも、道路の上を飛んでいくビニール袋などを見かけたことも、ありました。道路にかざらず、川沿いや、海の砂浜にもゴミがありました。このように、ポイ捨てされているゴミを見て、私は、とても危険だなあと思いました。もし、捨てられていたゴミに、お年寄りの方や小さい子供がつまづいて転んでしまったら、ケガをしてしまいます。それに、もしかしたら大ケガをしてしまうことも、あるかもしれません。ポイ捨てした人が、ち

ゃんとゴミ箱に捨てれば、このような問題も解決されるのではないかと思います。

一人一人がもつと心がけて生活することによって、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という憲章を守ることができると思います。また、まちがきれいになれば、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という憲章にも、つながってくるのではないのかなと思います。私も、ゴミを落とさないように心がけ、家族とも、どうすればまちをきれいにできるのかなど、話し合ってみたいと思います。

「きれいなまちにするには」

福島市立飯野中学校

笹谷 侑以

私は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という福島市民憲章はとてもいいと思いました。

福島県は空と水とみどりが大変きれいな町ですが、少し悪い点もあります。それは、ごみがポイ捨てされていることです。最近では、ポスターなどで呼びかけていることもありますが、それでもポイ捨てされている事があります。せっかく、みどりがきれいで近くにごみが落ちていたりしたら、「この山はきれいではない。」

と言われてしまうかもしれません。そのような所で、気を抜いてしまうと山に登らなくなり、森林を破壊する原因にもなってしまいます。

そして、もう一つの悪い点は、空気が汚れてきていることです。福島県はみどりが多く山が多いので、山の近くに住んでいる

人も多いです。すると、車で買い物に行くようになります。車で買い物に行くと、車から排気ガスが出て空気を汚す原因にもなっています。そしてもっと拡大したら、地球も汚していきます。

そして、今までのように空も水もみどりもきれいではなくなってしまう。今のままのきれいな自然を残していきたいのなら、今の生活を見直していかなければならないと思います。そして、私も今の生活を見なおしてみたいと思いました。ごみをその辺に捨てていないか、近いところは自動車を使っていないで、自分の足で歩いているかなど、いろんな事を見なおしていかなければなりません。そして、私一人だけが見なおしても意味がありません。福島市民のみなさんも考えなければなりません。福島市民のみなさんに身近に伝えるには、ポスターやCMで流してみるといふ考えもできます。

私は、「福島市民憲章」を読めてすごくよかったです。このほかにも、いろいろありますが、一つ一つを達成できる福島にしていきたいと思いました。

「福島市民憲章と私」

福島市立飯野中学校

鳴原結羽

私は、国語の時間に「福島市民憲章」というものを初めて知りました。福島市民憲章というものは五つあって私はその中の、親切で愛情あふれるまちをつくりましようという文章にひかれました。

私は、部活で吹奏楽をやっています。それで、イベントで演奏したり、どこかに行って演奏したり…というのがよくあります。

その中でも、地域のお祭りで演奏したときです。私は、すごく大勢の人の前で演奏する、ということ聞いて、少しきん張っていました。しかも、演奏中、立って吹く、というパフォーマンスがあったので、不安で仕方ありませんでした。そして本番、私が立つ所で立つと演奏を聞いてくれていたたくさんの人が見えました。じっとその人たちを見ると、みんな笑って私たちの演

奏をきいていました。その瞬間、きん張が無くなってリラックスして楽器を吹けるようになりました。その時思ったことは、地域の人はみんなあたたかくて、優しいなあということでした。

なので、福島市民憲章を読んだとき、まさにそうだなと思いました。私もいつか、飯野地域の人のような、あたたかく、優しい人になりたいなと思いました。

「思いやりのある

安全なまちづくりへ」

福島市立飯野中学校

本田 彩

よく交差点や横断歩道で車はちあわせになりどちらかがゆずってくれたりするところがあります。それは、とても思いやりのある行動で、安全につながると思います。私もお母さんの車に乗っていてそういうことがあります。その時、相手が「ペコッ」とおじぎをしたり、手を上げてくれたりすることがあります。その時、お母さんは、「ゆずってよかったなあ。」って思っているのかなあとか、運転していない私でも、そう思ったりします。こういうやりとりは、安全、事故防止につながり、感謝の気持ちがある人だからできるんだと思います。でも、たまに一步もゆずらないようにズカズカはいつてくる人がいます。もしもこういう人だけだったらどうでしょう。たぶん、事故になるでしょう。では逆に、「お先にどう

ぞ。」という人だったらどうでしょう。ゆずらない人たちより、事故は少ないと思います。

このようなことから、みんなが「お先にどうぞ。」という思いやりの気持ちがあれば、事故のない安全なまちになると思います。

「安全、安心、健康のまち 福島市」

福島市立飯野中学校

川 瀬 暁 音

国語の授業で福島市民憲章を初めて知りました。その中で目にとまったのが「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という章です。この章は福島をよりよく住みやすいまちにするのに大切な章だと思いました。

この間、福島の除染作業の方が車で事故を起こしてしまつたというニュースを見ました。死者も出たという事故で、とてもびっくりしました。そのような事故はあつてはいけないと思います。

今、福島市は完全な復興に向けてみんなで全力をつくしています。市内はとても明るくイベントやお祭などが開かれ、いきいきとしています。そんな中、事故があつたりすると市民全員が安全で健康だとは言えなくなつてきてしまいます。最初に紹介した章のほかに「きまを守り、力をあわせ

て楽しく働けるまちをつくりましょう」という章もあります。一人一人がきまを守つて生活し、みんなで力を合わせて事故ゼロの市を目指していかなければならないと思います。

きれいで明るく市民みんなが協力しあつていける、無事故のまちになっていくことを、私は願っています。

「人に親切にする」

福島市立飯野中学校

片野 裕 貴

自分は市民憲章の作文を書くことになり、市民憲章を初めて知りました。中でも、親切で愛情あふれるまちをつくりましよう。のところで自分が病院に行ったときのことを思い出しました。それは、もうすぐ病院から帰るときのことでした。自分はすぐ帰ると言われたので扉に近いすに座って、迎えが来るのを待っていました。すると、腰が曲がっていて杖をつき、とてもあるきづらそうなおばあちゃんがやって来ました。自分は扉を開けるのを手伝おうか迷っていましたが、一歩歩み出す勇気は自分にはありませんでした。ですが帰ろうとした他の患者さんが扉を開けてくれました。するとおばあちゃんはニッコリ笑って帰っていききました。そして数分するとまた他の歩きづらそうなおばあちゃんが来ました。自分はまた勇気を出せず、また他の患者さ

んが扉を開けてくれました。そしておばあちゃんも、

「ありがとう。」

と言って入っていききました。自分はこの地域の人はとても親切だなと思いました。そしてやはり自分も勇気を出して、親切にしなければならぬなと思いました。これからは、人に親切にすると必ず良い事があると信じ、親切にしていきたいと思います。

「親切の裏にあるもの」

福島市立飯野中学校

阿 曾 亨 平

ぼくは、福島市民憲章を国語の時間に初めて知りました。この福島市民憲章の中の一つに、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というのがあり、この憲章を知ったときにこの前の体験を思い出しました。

スーパーに買い物に行ったときのことです。店員さんでもなんでもない人が、カゴやカートを手直している人がいました。そのカゴやカートを直し終わってから、普通に帰っていきました。でもその時は、少し心の中がモヤモヤしていました。その後帰ってから考えていて思いました。自分のカゴやカートがグチャグチャになってたらこんどはあの人のように直そうと思いました。そして次に同じスーパーに行った時にやはりグチャグチャになっていました。そしてカートを直しているときに店員さんと会

い、「ありがとうね。」と一言声をかけられてちよつとだけうれしくなりました。

この体験で親切の裏には、うれしくなる気持ちがあるのが分かりました。それから、人に親切にする回数が増えたと思います。

このような親切な気持ちが増えればいになるときは、とてもすてきなまちになっていると思います。

「笑顔のあいさつ」

桜の聖母学院中学校

林 美沙子

福島市民憲章の中で、私が一番共感した項目がある。それは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という項目だ。共感した理由は二つある。一つ目は、「この項目に関する体験をしたこと」、二つ目は、「全てがこの項目に関係すると考えたから」だ。

一つ目の理由である、「この項目に関する体験」とは、朝の通学路でのことだ。私は、毎朝自転車で登校する。その通学路の途中に、小学生の安全を見守る保護者の方々がいらっしやる。私は必ずその方々に、笑顔であいさつをしようと決めている。私があいさつをすると相手もあいさつを返してくださり、

「いってらっしゃい、気をつけてね。」
と言ってくださる。私はその言葉に元気をいただき、今日一日をがんばろうという気

持ちになれる。小学生以外も見守ってくださる保護者の方々の愛情に応えられるように、このあいさつを、ずっと継続していこうと思う。

二つ目の「全てがこの項目に関係すると考えたから」という理由は、「愛情」という言葉がポイントとなる。「愛情」とは、好きなものを大切に思う、あたたかな気持ちのことである。自然や文化、きまり、子どもやおとしよりといった全てが大切な存在であり、守っていかねばならないと私は思う。自然を大切にしなければ、みどりのまちはつくれない。文化を大切にしなければ、受け継ぐものがなくなってしまう。きまりを大切にしなければ、市民全てが幸せに暮らせなくなる。子どもやおとしよりを大切にしなければ、福島市が成り立たない。そして、これらを大切にし、守っていくのは、私達福島市民なのだ。一人一人が心に愛をもち、その愛を広め、私達が暮らす福島市を、もつとよりよいまちにしていこう。一人一人が地域から実践して、その地域から福島市へと広げよう。

福島市民憲章は、福島市民の理想だ。そ

の理想を現実にするために、私は、私の地域から、「笑顔のあいさつ」を広めていくことを決意する。

「よりよい福島をつくるために」

桜の聖母学院中学校

清 水 亜也花

私は、この作文を書く時に、初めて「福島市民憲章」の内容を知りました。名前を見たり、聞いたりしたことはあっても、その内容については全く分かっていませんでした。だから、この憲章を知った時は、「自分はこの憲章を実行できているのかな。」と興味をもちました。私はその中で特に気になったものが二つあります。

一つ目は、「空も水もきれいな、みどりのまちをつくりましょう。」です。私はこれを見て、道に、ペットボトルなどのゴミが捨てられていたことを思い出しました。たとえば花がたくさん植えられ、きれいに手入れされていたとしても、ゴミが捨てられていては「きれいなみどりのまち」とはいえないと思います。そのようなまちをつくるために、まずポイ捨てをしないことを一人一人が意識すべきだと思います。そして、

ポイ捨てしないだけでなく、もしゴミが落ちていた場合は、進んで拾うと良いと思います。少し勇気のいる行動ですが見て見ぬふりをせず実行していきたいです。

また、私は小学生の時に社会で環境の問題について勉強しました。教科書には、洗剤や油などを流したために汚れてしまった川の写真がのっていました。私は、決して福島が川がそのように汚染されてほしくありません。だから、洗剤を使いすぎないことなど自分にもできることを取り組んでいきたいと思います。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。私は、学校に行く時にバスを利用しています。私の近くに座っていた人が降りる時に、その人が忘れ物をしていることに気が付きました。渡しに行ったほうがいいかな、と思ったけれど結局見て見ぬふりをしてしまいました。でも、その人の後ろにいた男性が

「忘れ物ですよ。」

と、すぐに届けに行きました。私は、届けてあげれば良かったと思います。だから、今後同じようなことがあった時は率先して

行動したいと思います。

「空も水もきれいなみどりのまち」「親切で愛情あふれるまち」をつくれるように、自分達にできることから精一杯取り組んでいきたいと思っています。

「住みよいまちにするために」

福島成蹊中学校

富田 紗耶

私の通学路のバス停の自転車乗り場と学校までの道のりには三つのごみ置き場があります。毎朝、私はその場所を通りますが、カラスがごみをあさっているのが見えます。カラス防止のあみはあるのですが、カラスがその中に入ってあさっているのです。そのあさったゴミは、歩道だけでは収まりきらず道路にまで出ている日もあります。私は毎日見るたびにかたづけたいなあと思います。学校におくれてしまうことを考えるとどうしても学校のように頭がいってしまいかたづけることができません。ですが帰ってきて自転車を置きにいくとそのゴミは、すべてきれいさっぱりなくなっているのです。最初はゴミ収集の人がかたづけているのだらうと思いい、その時はあまりにも思いませんでした。ですが、何日かたつてから登校しようとしたらいつもの

ようにちらかっているゴミを一人のおばあさんがそうじをしていたのです。私はなんだか申し訳なく思いい、

「おはようございます。ありがとうございます。います。」

というとおばあさんはほうきをもっていた手を止めて笑顔で

「おはよう。行ってらっしゃい。」

と言いました。今までごみ収集の人たちがそうじしていると思っていたのにおばあさんがそうじをしていたおかげで私を含む多くの学生がそこを通ることができていたのです。何気なく通っていた道でも私たちには分からないところでした。いろいろな人が住みよいまちづくりをしていました。住みよいまちづくりをするために市民としていろいろなところを一緒にきれいにしておばあさんなどのお年よりの負担を減らしよいい福島県を守り続けていけたらいいなあと思いいます。

「自然豊かな福島市」

福島成蹊中学校

三 浦 英太郎

ぼくは、福島市民憲章というものを初めて知りました。福島市民憲章の中で一番良いな、と思ったのが「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。良いなと思った理由は二つあります。

一つ目は、最近の子供達（自分も含めて）は数少ない自然で遊ぼうとせず家でゲームをしたり、テレビを観ていたりしていると思います。しかし、ゲームも楽しいけれど、自然の中で遊ぶ楽しさをこれから生まれてくる子供達に味わってもらいたいからです。

二つ目は、やはり、これからの福島、日本、そして世界の未来を守るためです。飛行機や電話、その他電気器具が増え、人を楽しませてくれる技術や、お年寄りや体の不自由な人達がどうやったら安心して生活できるかのアイデアなどが日に日に増え

今の生活はとても便利です。しかし、そのために世界では、地球温暖化、酸性雨や二酸化炭素問題などいわゆる「環境問題」が多発しています。それらの「環境問題」を無くすためには自然の力を利用したり、自分達一人一人の行動を改めた方がいいと思います。太陽光発電、ハイブリッドカーなどすでに地球に優しい物や自然の力を利用してあるものは多々あります。しかし、やはり自分達が小さな努力を積み重ね福島市だけでなく福島県全体を自然いっぱいにしていきたいです。これが二つ目の理由です。

この作文を書いている内に改めて自然の偉大さを知る事ができました。自分も、福島市に自然を戻せるようリサイクルや近所のごみ拾いなど積極的に取り組み、福島、いや、世界に少しでも貢献できるよう努めたいと思います。そして、自然を守る事を考え自分の今までの行動を思い返し、自分の行動を改め、生活していきたいと思います。福島市民の努力でこの地球に、また大きな自然を取り戻せる事を信じています。